



JOC ACTIVITY

JOCの活動

2023.April-2025.March

【発行日】 2025年11月

【発行】 公益財団法人日本オリンピック委員会

【制作】 フォート・キシモト

【デザイン】 SYNC Design α 株式会社 ATRAPS

【写真提供】 アフロスポーツ AP/アフロ ロイター/アフロ フォート・キシモト

本書についてのお問合せ

〒160-0013東京都新宿区霞ヶ丘町4番2号

Japan Sport Olympic Square

公益財団法人日本オリンピック委員会

TEL:03-6910-5950(代表) FAX:03-6910-5960(代表)

公益財団法人日本オリンピック委員会



各アスリート委員会活動について

モデレーター：小谷 実可子（JOC常務理事）

- ・太田 雄貴（IOCアスリート委員/JOCアスリート委員）
- ・戸邊 直人（OCAアスリート委員/JOCアスリート委員）
- ・松田 丈志（JOC理事/JOCアスリート委員長）

OLYMPIC
CONCERT
2025

令和5年度 JOC スポーツ賞表彰式
パリ2024オリンピック・パラリンピック事前スタディツアー
チャリティトーク

RISING
TOGETHER®

14	オリンピックの価値発信
	オリンピックの力を、社会の力へとつなげていく。
15	TEAM JAPAN ブランド
	● TEAM JAPANとは ● チームエンブレム ● TEAM JAPANの役割 ● タグライン ● TEAM JAPANが大切にしている 3つの想い
17	日本オリンピックミュージアム
19	企画展等の開催
20	イベントの実施
	日本オリンピックミュージアムを活用した教育普及事業
21	TEAM JAPAN 2020 VILLAGE
	● 東京2020大会資産及びTEAM JAPANの展示 ● TEAM JAPANイベントの開催
22	パリ2024大会コミュニケーション戦略
	● オフィシャルスポーツウェア発表会 ● 「TEAM JAPANと一歩、踏み出そう」キャンペーン ● TEAM JAPAN結団式・壮行会
26	TEAM JAPAN SOCIAL ACTION
	● TEAM JAPAN SUMMER FEST ● スポーツ環境保全活動(植林活動) ● TEAM JAPAN SYMBOL ATHLETES SOCIAL ACTION ● 能登半島復興支援イベント「TEAM JAPAN SPORTS DAY」
28	成績優秀者等表彰 JOCスポーツ賞
31	オリンピック教室
32	オリンピックデーラン
	オリンピックコンサート
33	JOC アスリート委員会の活動
34	JOC パートナー都市
35	スポーツ祭り
	スポーツ情報の提供事業・事業広報活動
37	スポーツ環境保全活動
	● 各種製作物

38	アスリートの育成・支援
	“憧れられるアスリート”が育つ環境をつくっていく。
39	選手強化、強化スタッフの育成・支援
	● 選手強化中長期戦略プロジェクト ● 競技力向上事業(令和6年度実績) ● コーチ等設置事業(令和6年度実績) ● 民間スポーツ振興費等補助事業(令和6年度実績) ● 選手発掘育成事業 ● アスリート及び指導者のキャリア支援事業 ● スポーツ指導者の養成・活用事業 ● 国際競技力向上に関わる情報提供事業 ● アンチ・ドーピング活動推進事業 ● ナショナルトレーニングセンター管理運営事業 ● スポーツ指導者海外研修事業 ● 拠点ネットワーク推進事業 ● アントラージュに関する取り組み ● アスリートへの写真・動画による性的ハラスメント防止の取り組みについて ● 排勝中傷からアスリートを守るための法務等支援事業
48	国際交流の推進
	スポーツの力を、国際平和と友好のために使っていく。
49	国際戦略
	● 基本方針
50	国際連携
	● 国際スポーツ組織
51	国際スポーツ組織との関係強化並びに人材育成
	● 国際スポーツ組織の日本関係者就任状況 ● オリンピック実施競技における日本人IF役員一覧 ● スポーツ国際展開基盤形成事業(IF等役員ポスト獲得支援事業ほか/スポーツ庁より委託) ● JOC/NF国際情報共有会 ● 国際人養成アカデミー(JISLA) ● パートナーNOC
56	国際貢献事業
	● パリ2024大会関係 ● 愛知・名古屋アジア競技大会に関する連携支援 ● オリンピック・ムーブメント推進のための国際大会開催に向けた検討会議

58	JOC組織力・基盤強化
	自らを律しながら、よりよい社会との関係を構築していく。
59	JOCマーケティングプログラム
	● マーケティングの役割 ● マーケティングプログラムの概要 ● マーケティングで得た資金の使用用途 ● 知的財産の保護 ● アンブッシュマーケティングの防止 ● JOCマーケティングの変遷 ● JOCマーケティング変遷年表 ● TEAM JAPANシンボルアスリート・ネクストシンボルアスリート
65	第1次JOC中期計画の振り返りと次期中期計画の策定
	● 第1次JOC中期計画(2022-2024)の振り返り ● 第2次JOC中期計画(2025-2028)の策定
66	NF連携・支援
	競技団体の仲間たちとともに活動していく。
67	スポーツ団体ガバナンスコード適合性審査事業
	● JOC加盟団体会長会議/専務理事等会議 ● NF 総合支援センター事業
69	JOC-NF広報実務者連携セミナー
	NFジョイントマーケティング
70	eスポーツについて
	● JOCにおけるeスポーツに関する活動方針(概要)
71	倫理、コンプライアンス、ガバナンスの推進(通報相談窓口)
	● JOC通報相談窓口について
72	その他・基礎情報
	競技団体の仲間たちとともに活動していく。
73	JOC組織
	● 令和7年・8年度 公益財団法人日本オリンピック委員会役員一覧 ● 正加盟団体 ● 準加盟団体 ● 承認団体
75	令和7・8年度 日本オリンピック委員会 組織機構図
77	令和6年度決算概要

GREETINGS

ごあいさつ

第33回オリンピック競技大会(2024/パリ)では、TEAM JAPANのアスリートが世界の舞台で輝かしい成果を収め、その姿は国内外に大きな感動と力強いメッセージを届けました。パリ2024大会のTEAM JAPANのコンセプトである「一歩、踏み出す勇気を。」は、挑戦するアスリート、アスリートを支えるすべての人々の思いを象徴し、多くの方にとって希望と前に進むための原動力となりました。

また、アジア競技大会やFISUワールドユニバーシティゲームズ等においても、TEAM JAPANは過去最高水準の競技成績をのこし、日本スポーツ界の底力を示しました。これらの成果は、日々研鑽を積むアスリート、アスリートを支える方々の不断の努力、そしてスポーツ庁、JSC、パートナー企業をはじめとする様々な関係団体による支援、競技団体との連携・協働など関係各所による国際競技力向上に向けた取り組みの賜物であり、改めて敬意を表します。

こうした競技面での成果と並行し、JOCはオリンピズムが浸透した社会の実現に向けた発信力の強化にも注力してまいりました。今後もSNSやデジタルメディアを活用した情報発信をさらに強化し、国内外のファンとのつながりを一層深めるとともに、日本オリンピックミュージアムの活用等による教育・交流プログラムの充実にも引き続き力を注いでまいります。また、東京2020大会のレガシーの継承と発展にも取り組んでまいります。これらの活動は、スポーツ文化の醸成や次世代の育成に大きく寄与するものと確信しています。

2025年3月に発表した第2次JOC中期計画(2025-2028)では、「アスリートとともに スポーツの力を 社会の力へ」を基本目標に掲げました。この目標には、アスリートの挑戦を支え、その経験や感動を社会に広く伝えることで、スポーツが人と人をつなぎ、社会を前向きに動かす力となることを目指す強い思いを込めています。国内外のあらゆるステークホルダーの皆さまとこれまで以上に連携し、スポーツの力を社会課題の解決や持続可能な社会の実現に活かしていくことが、JOCの今後の重要な使命です。

パリ2024大会を経て、スポーツが社会に果たす役割は一層重要性を増しています。JOCは今後も、アスリートとともに歩み、スポーツの力を社会の力へと昇華させるため、一歩一歩着実に取り組んでまいります。今後とも、皆さまの変わらぬご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

公益財団法人日本オリンピック委員会

会長 橋本 聖子

橋本聖子



JOC Vision 2064

公益財団法人日本オリンピック委員会(JOC)は、2021年8月に「JOC Vision 2064」を策定しました。「JOC Vision 2064」は、JOCが長期的に追い求める“ありたい姿”を表したもので、持続性を示す意味から、1964年の第18回オリンピック競技大会(東京)から100年となる2064年をビジョンの名称に織り込み、「東京2020オリンピック・パラリンピック大会(東京2020大会)をみた子どもたちが、未来の社会を動かす中心にいてほしい」とそんな思いを込めて、「JOC Vision 2064」としました。

スポーツの価値を守り、創り、伝える

第2次JOC中期計画

2025年度より、第2次JOC中期計画(2025-2028)がスタートしました。第1次JOC中期計画を通じてJOC Vision 2064と中期計画全体像に基づく施策展開が定着しつつある段階であることから、第2次JOC中期計画においても柱となるPillarは第1次JOC中期計画を継承しました。また、「アスリートとの連携、そして、スポーツを通じた社会課題解決への貢献をこれまで以上に大切にしていく」という姿勢を重視すべく、第2次JOC中期計画では取り組みの基本目標を「アスリートとともに スポーツの力を 社会の力へ」と定めました。この基本目標に沿って2025年度から2028年度までのJOC各事業・施策を進めてまいります。

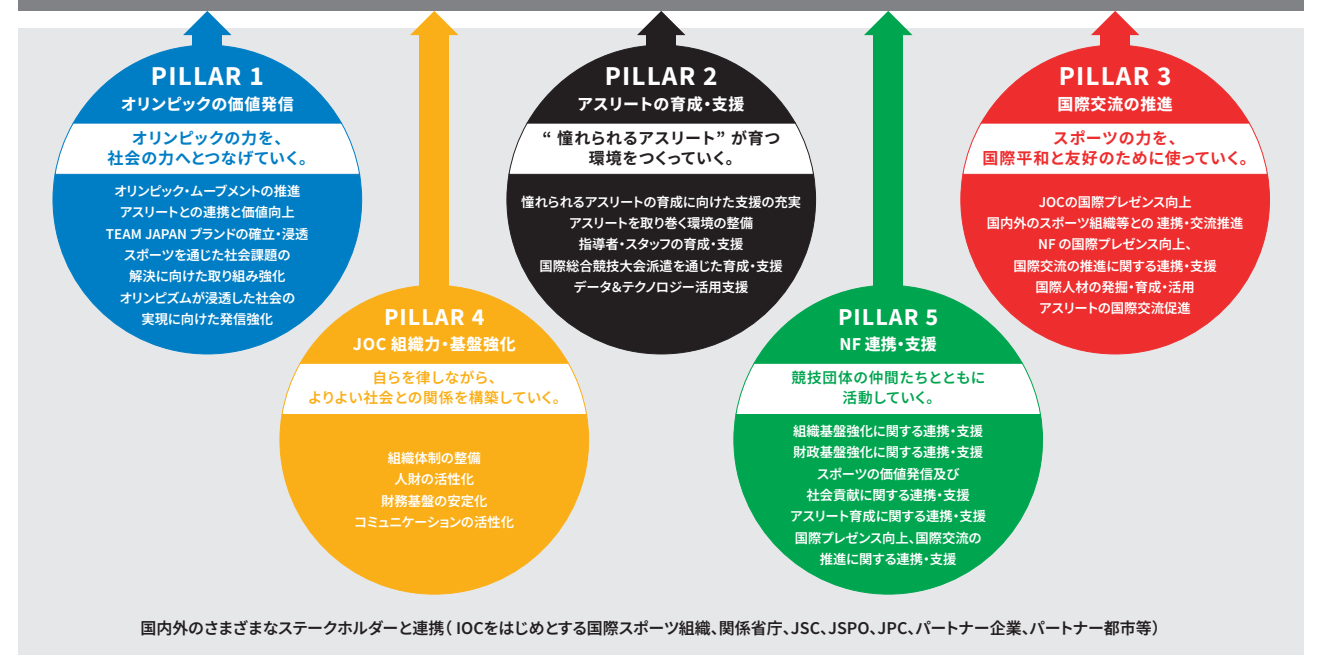


JOC Vision 2064 | スポーツの価値を守り、創り、伝える

活動
指針

オリンピズムが浸透している社会の実現
憧れられるアスリートの育成
スポーツで社会課題の解決に貢献

第2次JOC中期計画(2025-2028)基本目標「アスリートとともに スポーツの力を 社会の力へ」



第2次JOC中期計画(2025-2028)については
JOC公式サイトでご確認ください。▶▶▶

<https://www.joc.or.jp/about/vision2064/>

第2次中期計画
基本目標ムービー

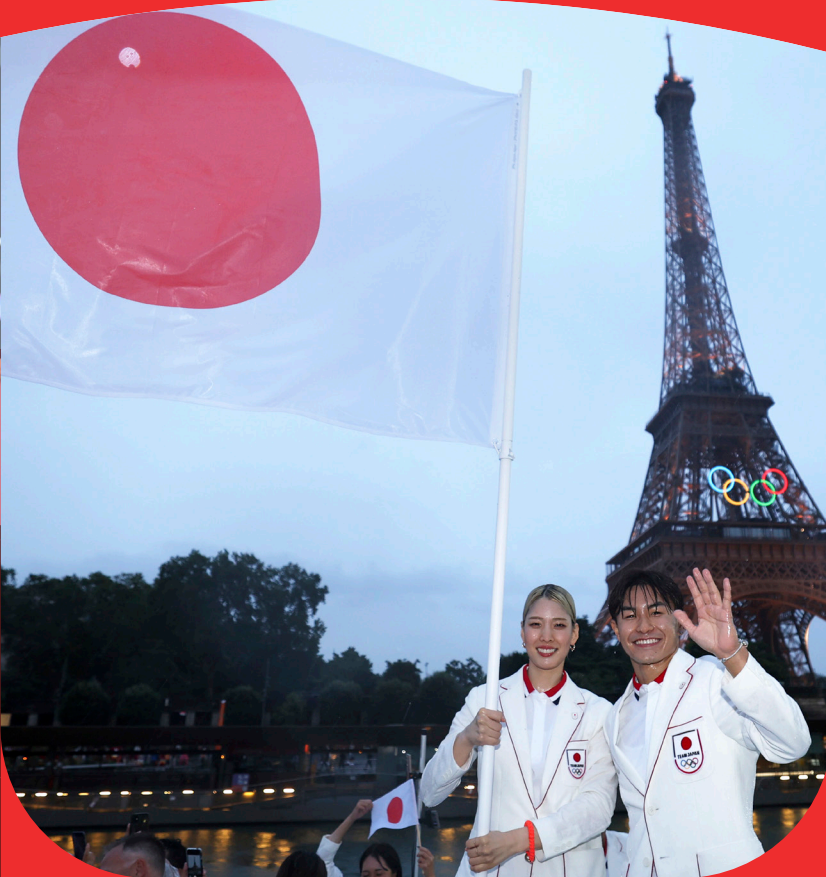


第2次中期計画の詳細
(PDF)



PARIS 2024

第33回オリンピック競技大会



大会派遣

● 第33回オリンピック競技大会 [2024／パリ]

第33回オリンピック競技大会は、2024年7月26日から8月11日までの17日間、フランス共和国のパリを中心に開催されました。本大会には、206のNOCのほか、Refugee Olympic Team (IOC難民選手団) 及びIndividual Neutral Athletes (個人中立選手) を含む約10,500名の参加がありました。TEAM JAPANは、選手409名、監督・コーチ等335名、総勢744名で編成し、31競技192種目にエントリーし、大会に臨みました。競技結果としては、メダル獲得総数45個と入賞総数115とともに国外開催大会では過去最高となる成績を収めました。

大会期間	2024年7月26日～8月11日
開催場所	パリ／フランス 共和国
参加NOC数	206NOC※Refugee Olympic Team (IOC難民選手団) 及びIndividual Neutral Athletes (個人中立選手) が参加。
実施競技／種目数	32競技／329種目 (前回33競技／339 種目)
TEAM JAPAN編成	【団長】尾縣 貢 【副団長】土肥 美智子、谷本 歩実、井上 康生 【旗手】江村 美咲 (フェンシング)、半井 重幸 (ブレイキン)
	編成数 合計744名 男子選手：218名、女子選手：191名、監督・コーチ等335名
日本の参加競技／種目数	31競技／192種目
TEAM JAPAN編成方針	TEAM JAPANは、「人間力なくして競技力向上なし」を根幹に据え、行動規範を遵守し、各国・地域との友好親善に寄与できる選手と監督・コーチ等をもって編成する。TEAM JAPANの選手は、当該競技団体から推薦され十分な活躍が期待できるものの中から選考し、TEAM JAPANとしての自覚と誇りを持ち、最高のパフォーマンスを発揮する。



＊国外開催大会でメダル総数過去最多、入賞総数過去最多
＊前回大会 (東京2020) は、メダル総数58 (金：27銀：14、銅：17)、4位～8位：78の入賞総数136

第33回オリンピック競技大会 (2024／パリ) TEAM JAPAN メダリスト一覧

金		銀		銅	
陸上競技	フェンシング	水泳／競泳	柔道	体操／体操競技	柔道
●女子 やり投	●男子 フルーレ団体	●男子 400m個人メドレー	●男子 90kg級	●男子 種目別平行棒	●男子 73kg級
北口 榛花	松山 恭助、飯村 一輝	松下 知之	村尾 三四郎	岡 慎之助	橋本 壮市
体操／体操競技	数根 崇裕、永野 雄大	水泳／飛込	●混合 団体	レスリング	●男子 66kg級
●男子 団体	●男子 エベ個人	●男子 10m高飛込	斉藤 立、ウルフ アロン	●女子 フリースタイル50kg級	永山 竜樹
橋本 大輝、岡 慎之助	加納 虹輝	玉井 陸斗	村尾 三四郎、永瀬 貴規	須崎 優衣	●女子 57kg級
萱 和磨、杉野 正堯	柔道	レスリング	橋本 壮市、阿部 一二三	●女子 フリースタイル68kg級	舟久保 遥香
谷川 航	●男子 81kg級	●男子 フリースタイル74kg級	永山 竜樹、素根 輝	尾崎 野乃香	バドミントン
●男子 個人総合	永瀬 貴規	高谷 大地	高山 莉加、新添 左季	卓球	●女子 ダブルス
岡 慎之助	●男子 66kg級	セーリング	高市 未来、舟久保 遥香	●女子 シングルス	志田 千陽、松山 奈未
●男子 種目別鉄棒	阿部 一二三	●混合 ディンギー	阿部 詩、角田 夏実	早田 ひな	●混合 ダブルス
岡 慎之助	●女子 48kg級	岡田 奎樹、吉岡 美帆	近代五種	馬術	渡辺 勇大、東野 有紗
レスリング	角田 夏実	卓球	●男子 個人	●総合馬術団体	ゴルフ
●男子 フリースタイル57kg級	ブレイキン	●女子 団体	佐藤 大宗	大岩 義明、北島 隆三	●男子 個人ストロークプレー
樋口 黎	●Bガール	早田 ひな、平野 美宇	スポーツクライミング	戸本 一真、田中 利幸	松山 英樹
●男子 フリースタイル65kg級	湯浅 亜実	張本 美和	●男子 ボルダー&リード	フェンシング	
清岡 幸太郎	スケートボード	フェンシング	安案 宙斗	●女子 フルーレ団体	
●男子 グレコローマンスタイル60kg級	●男子 ストリート	●男子 エベ団体	スケートボード	東 晟良、上野 優佳	
文田 健一郎	堀米 雄斗	加納 虹輝、見延 和晴	●女子 ストリート	宮脇 花繪、菊池 小巻	
●男子 グレコローマンスタイル77kg級	●女子 ストリート	山田 優、古俣 聖	赤間 凜音	●女子 サーブル団体	
日下 尚	吉沢 恋		●女子 パーク	江村 美咲、高嶋 理紗	
●女子 フリースタイル53kg級			関 心那	福島 史帆実、尾崎 世梨	
藤波 朱理					
●女子 フリースタイル57kg級					
櫻井 つぐみ					
●女子 フリースタイル62kg級					
元木 咲良					
●女子 フリースタイル76kg級					
鏡 優翔					

● 第19回アジア競技大会 [2022／杭州]

第19回アジア競技大会は、2023年9月23日から10月8日までの16日間、中華人民共和国の杭州を中心に開催されました。本大会には、45のNOCから選手約12,000名の参加。TEAM JAPANは、選手771名、監督・コーチ等366名、総勢1,137名で編成し、40競技349種目にエントリーし、大会に臨みました。競技結果としては、メダル獲得総数188個と入賞総数331となる成績を収めました。

大会期間	2023年9月23日～10月8日
開催場所	杭州／中華人民共和国
参加NOC数	45NOC
実施競技／種目数	40競技／481種目 (前回40競技／465 種目)
TEAM JAPAN編成	【団長】尾縣 貢 【副団長】水鳥 寿思、谷本 歩実、井上 康生 【旗手】江村 美咲 (フェンシング)、清水 彰人 (ライフル射撃)
	編成数 合計1,137名 男子選手：429名、女子選手：342名、監督・コーチ等 366名
日本の参加競技／種目数	40競技／349種目
TEAM JAPAN編成方針	TEAM JAPANは、「人間力なくして競技力向上なし」を根幹に据え、行動規範を遵守し、各国・地域との友好親善に寄与できる選手と監督・コーチ等をもって編成する。日本代表選手は、当該競技団体の責任において、国民の期待に応え得る競技力を持ち、メダルが十分に期待できる者として推薦された中から選考する。



＊前回大会 (ジャカルタ 2018) は、メダル総数205 (金：75、銀：56、銅：74)、4 位～ 6 位：138の入賞総数343



● 第9回アジア冬季競技大会 [2025／ハルビン]

第9回アジア冬季競技大会は、2025年2月7日から14日までの8日間、中華人民共和国のハルビンで開催されました。本大会には34のNOCから、選手約1,200名の参加がありました。TEAM JAPANは、選手151名、監督・コーチ等77名、総勢228名で編成、6競技62種目にエントリーし、大会に臨みました。競技結果としては、メダル獲得総数37個と入賞総数は94となる成績を収めました。

大会期間	2025年2月7日～14日
開催場所	ハルビン／中華人民共和国
参加NOC数	34NOC
参加人数	約1,200名
実施競技／種目数	6競技／64種目
TEAM JAPAN編成	【団長】原田 雅彦 【旗手】高橋 侑花 (スケート／スピードスケート)、渡邊 陽紀 (カーリング)
	編成数 合計228名 男子選手：78 名、女子選手：73 名、監督・コーチ等 77 名
日本の参加競技／種目数	6競技／62種目



● FISU冬季ワールドユニバーシティゲームズ [2025／トリノ]

FISU冬季ワールドユニバーシティゲームズは、2025年1月13日から23日までの11日間、イタリア共和国のトリノで開催されました。本大会には52NUSFsから、選手、監督・コーチ等 約2,500名の参加がありました。TEAM JAPANは、選手111名、監督・コーチ等58名、総勢169名で編成、6競技60種目にエントリーし、大会に臨みました。競技結果としては、メダル獲得総数19個と入賞総数は49となる成績を収めました。

大会期間	2025年1月13日～23日		
開催場所	トリノ／イタリア共和国		
参加NUSFs数	52	※Refugee Olympic Team (IOC難民選手団) 及びIndividual Neutral Athletes (個人中立選手) が参加。	
参加人数	約2,500名		
実施競技／種目数	8競技／80種目		
TEAM JAPAN編成	【団長】伊東 秀仁		
	【旗手】野呂 莉里 (アイスホッケー)、森口 翔太 (スキー／クロスカントリー)		
	編成数	合計169名 男子選手:56名、女子選手:55名、監督・コーチ等 58名	
日本の参加競技／種目数	6競技／60種目		



● FISUワールドユニバーシティゲームズ [2021／成都]

FISU ワールドユニバーシティゲームズは、2023年7月28日から8月8日までの12日間、中華人民共和国の成都で開催されました。(大会はコロナ禍により2022年に延期、更に2023年に再延期され開催)。大会への参加条件は、現役大学生又は2020年1月1日以降に大学を卒業した者・18歳から27歳までの者と、大会の再延期に伴い、2021年に条件を満たした選手が出場できるよう変更されました。本大会には113のNUSFsから、選手、監督・コーチ等約6,500名の参加がありました。TEAM JAPANは、選手263名、監督・コーチ等139名、総勢402名で編成、15競技193種目にエントリーし、大会に臨みました。競技結果としては、メダル獲得総数93個と入賞総数は194となる成績を収めました。

大会期間	2023年7月28日～8月8日		
開催場所	成都／中華人民共和国		
参加NUSFs数	113 NUSFs		
参加人数	約6,500名		
実施競技／種目数	15 競技／269 種目		
TEAM JAPAN編成	【団長】 水鳥 寿思		
	【旗手】 橋本 大輝(体操／体操競技)、山本 亜美(陸上競技)		
	編成数	合計402名	男子選手:133名、女子選手:130名、監督・コーチ等 139名
日本の参加競技／種目数	15 競技／193 種目		



● 第2回東アジアユース競技大会 [2023／ウランバートル]

第2回東アジアユース競技大会は、8月16日～23日までの8日間、モンゴル国のウランバートルで開催されました。本大会には7のNOCから、選手、監督・コーチ等808名の参加がありました。TEAM JAPANは、選手48名、監督・コーチ等29名、総勢 77名で編成7競技41種目にエントリーし、大会に臨みました。競技結果としては、メダル獲得総数40個と入賞総数は47となる成績を収めました。

大会期間	2023年8月16日～23日		
開催場所	ウランバートル／モンゴル国		
参加NOC数	7NOC		
参加人数	808名		
実施競技／種目数	11競技／90種目		
TEAM JAPAN編成	【団長】岩淵 健輔		
	【旗手】鍋木 克優 (柔道)、岡本 留佳 (テコンドー)		
	編成数	合計77名	男子選手:26名、女子選手:22名、監督・コーチ等29名
日本の参加競技／種目数	7競技／41種目		



● 第4回ユースオリンピック冬季競技大会 [2024／江原道]

第4回ユースオリンピック冬季競技大会は、2024年1月19日から 2月1日までの14日間、大韓民国の江原道で開催されました。本大会には78のNOCから、選手、監督・コーチ等1,801名の参加がありました。TEAM JAPANは、選手69名、監督・コーチ等49名、総勢118名で編成、5競技57種目にエントリーし、大会に臨みました。競技結果としては、メダル獲得総数15個 (入賞は3位まで) となる成績を収めました。

大会期間	2024年1月19日～2月1日		
開催場所	江原道／大韓民国		
参加NOC数	78NOC		
参加人数	1,801名 ※選手数のみ		
実施競技／種目数	7競技／81種目		
TEAM JAPAN編成	【団長】原田 雅彦		
	【旗手】藤井 海斗 (カーリング)、佐藤 柚月 (スキー／ジャンプ)		
	編成数	合計118名	男子選手:23名、女子選手:46名、監督・コーチ等49名
日本の参加競技／種目数	5競技／57種目		



第4回ユースオリンピック冬季競技大会における文化・教育プログラム (Athlete Education Programme/AEP)

ユースオリンピックでは、競技だけではなく、文化・教育プログラムによりアスリートとして成長するうえで必要な様々な要素を学ぶ機会があることが大きな特徴とされています。本大会でもスポーツと文化・教育を融合させた様々なプログラムが展開され、9割を超えるTEAM JAPANの選手、監督・コーチ等が各プログラムに参加しました。

文化プログラムとしては、競技会後に日替わりで韓国の伝統的な遊びや食事が紹介され、TEAM JAPANの選手・スタッフ、監督・コーチ等が気軽に韓国文化に触れる機会となりました。



本大会AEPが掲げた9つのテーマ

- 1 Be True Be You
- 2 Clean Sport
- 3 MB & Me - Injury Prevention
- 4 MB & Me - Mentally Fit
- 5 MB & Me - Safe Sport
- 6 Olympic Solidarity
- 7 Unlock your potential
- 8 Athlete's point of view
- 9 IOC Young Leaders

各テーマごとにブースが設置され、TEAM JAPANの選手、監督・コーチ等・スタッフは各プログラムに参加しながら様々な知識を学ぶとともに、各国・地域の選手等・スタッフとの交流を図りました。



オリンピックの価値発信

オリンピックの力を、
社会の力へとつなげていく。

TEAM JAPAN ブランド

スポーツを通じて、すべての想いをつなぐ。
その輪を広げ、人々が踏み出す一歩を後押しする。
それが、TEAM JAPANが目指していることです。

JOCは2021年8月に「スポーツの価値を守り、創り、伝える」とする「JOC Vision 2064」を公表しました。本ビジョンは、JOCとしてスポーツの本質的な価値を広く発信し、より良い社会づくりに貢献していくという、JOCが長期的に追い求める“ありたい姿”を示すものです。この「JOC Vision 2064」に近づくことを目指し、これまで以上にアスリート、そして競技団体をはじめとする多くのステークホルダーと連携し、その活動を加速させるため、「TEAM JAPANブランド」を2021年10月に発表しました。



● TEAM JAPANとは

TEAM JAPANは、オリンピック日本代表選手やチームだけではなく、世界で日本の代表として戦う各競技の日本代表選手、世代別の日本代表選手等を指します。アスリートたちが競技の枠を超えて、互いに手を携えることにより、スポーツに関わるすべてのステークホルダーの中心的存在となります。

TEAM JAPAN

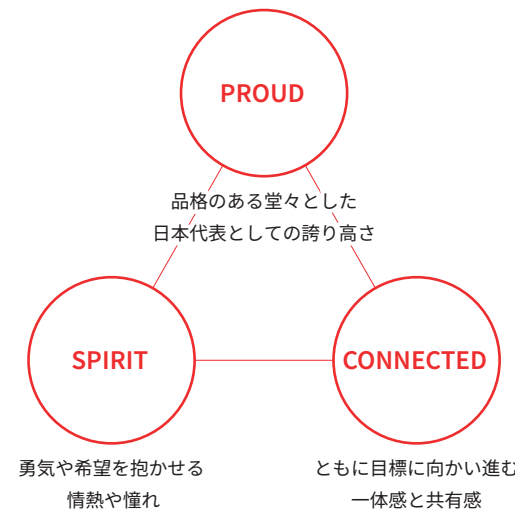
● TEAM JAPANの役割

TEAM JAPANのアスリートたちによる最高のパフォーマンスがもたらす勇気、希望、感動を多くの人々と共有し、競技団体、パートナー企業、ファン、自治体等、様々なステークホルダーをつなぎます。そして、スポーツの本質的な価値を広く発信し続け、より良い社会づくりに貢献します。



● TEAM JAPANが大切にしている 3つの想い

この3つの想いはTEAM JAPANが大切にしている基本的な考え方です。私たちの日々の行動や発信がこの価値に基づくことにより、すべてのステークホルダーに共感してもらうことが重要です。スポーツを通じて、すべての想いをつなぐ。その輪を広げ、人々が踏み出す一歩を後押しする。それが、TEAM JAPAN が目指していることです。



● タグライン

タグラインとは、TEAM JAPANが目指すべき姿を端的に表したものであり、ステークホルダーと共有したい思いを込めたものです。TEAM JAPANのタグラインである“RISING TOGETHER”は、アスリートとアスリートを支えるすべての人々がひとつとなり、さらなる高みに向けて朝日のように上昇していく姿を描いています。

RISING TOGETHER®



● チームエンブレム

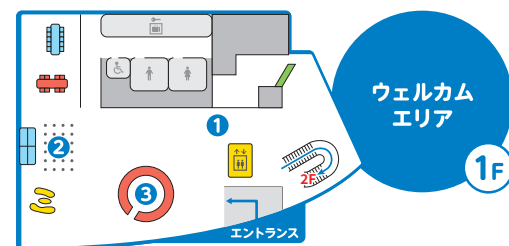
日の丸、TEAM JAPAN ロゴ、オリンピックシンボルをTEAM JAPANの頭文字であるTとJをかたどって構成された盾の形状で囲み、日本代表としての堅牢さや誇りを象徴的に表現しています。日の丸にも使われているレッドは、アスリートやサポーターらの“情熱”を、ゴールドには、TEAM JAPANが人々を輝かせ、未来を照らす“光”となっていきたいと願う想いが込められています。TEAM JAPANを構成するアスリートおよびそれらを目指し、または応援する一人ひとりの心がひとつのエンブレムのもとに集結し、TEAM JAPANを旗印に結びつきやつながりが生まれることを象徴する、相互理解と一体感、求心力を表現しています。

日本オリンピックミュージアム

日本オリンピックミュージアム(JOM)は“みんなのオリンピックミュージアム”をテーマに、2019年9月14日、JOC、アスリートと来館者が共に創り上げる「日本のオリンピック・ムーブメントの発信拠点」としてオープンしました。次世代を担う子どもたちをはじめ、誰もがオリンピックに親しむことができる、スポーツと文化を融合させたミュージアムです。

1F WELCOME AREA

さまざまな視点でオリンピック・ムーブメントを発信。



① ウェルカムビジョン

オリンピックの世界観やアスリートの躍動感を鮮やかに描く映像で来館者をお出迎えします。

② ウェルカムサロン

企画展やイベントなど、1年を通じてさまざまな催しを開催していきます。

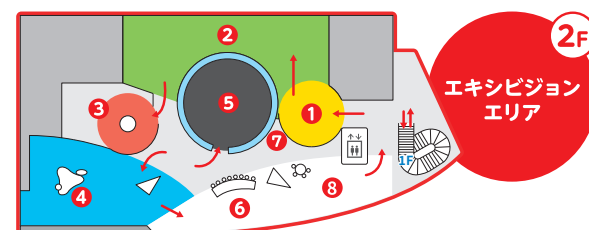
③ レセプション&ミュージアムショップ

ミュージアムでしか手に入らない限定グッズを販売しています。



2F EXHIBITION AREA

オリンピックを知る、学ぶ、感じる、挑戦する、考える

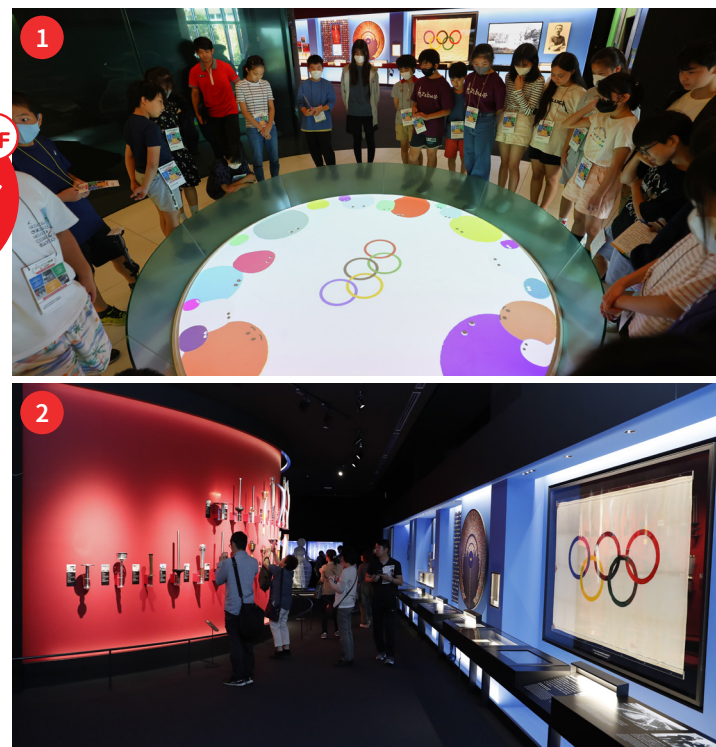


① イントロダクション

「オリンピックってなんだろう?」という問いかけではじまるこのコーナーでは、近代オリンピックの起源から、人類最大の平和の祭典になるまでのストーリーを伝えています。

② 世界とオリンピック

平和の祭典としてオリンピックが世界とどのように関係してきたのかを、歴史を踏まえながらさまざまな視点で知ることができます。



3

4

5

8

MONUMENT AREA

オリンピック・ムーブメントを体験し、レガシーを継承する広場。

オリンピックシンボルモニュメントや過去大会の聖火台レプリカなどのレガシーを継承する広場です。



JAPAN  OLYMPIC
MUSEUM
日本オリンピックミュージアム

基本情報

●名称：日本オリンピックミュージアム ●営業時間：10時～17時（最終受付16時半） ●休館日：月曜日（祝日休日の場合は、翌平日）、年末年始、展示切替時期等 ●電話番号：03-6910-5561
●住所：東京都新宿区霞ヶ丘町4番2号 Japan Sport Olympic Square 1・2F ●URL：<https://japan-olympicmuseum.jp/jp/exhibition/olympicdayweek2025.html> ※最新情報は公式ウェブサイトをご参照ください。

企画展等の開催

1 オリンピック・ムーブメントって何だろう？

[2023年3月14日～7月23日]

これまでJOCがオリンピック・ムーブメントの推進を目的に全国各地で展開している様々な活動や次世代のアスリート育成などの取り組みを通じて、“オリンピック・ムーブメント”とは何か？を考える内容として開催しました。



2 パリ2024大会1年前 ▶ 杭州2022アジア競技大会

[2023年7月26日～10月29日]

開催1年前に迫ったパリ2024大会と、2023年9月に開催される杭州2022アジア競技大会に向けての機運醸成企画として、競技用具や写真などで両大会の見どころを紹介しました。



3 オリンピックと芸術

[2023年10月31日～2024年1月21日]

JOCが収蔵する東京2020大会のために制作された芸術作品を中心に、翌年のパリ2024大会を彩るアートポスターなどを展示し、芸術の側面からオリンピックの魅力を紹介しました。



4 オリンピックを彩るオフィシャルウェアの軌跡

[2024年1月23日～6月2日]

日本体育協会（現日本スポーツ協会）からJOCが独立した1991年以降に開催されたオリンピック夏季8大会、冬季9大会の歴代TEAM JAPANオフィシャルウェアを紹介しました。



5 TEAM JAPAN SUMMER FEST in JAPAN OLYMPIC MUSEUM

[前期：2024年6月5日～9月8日]

[後期：2024年9月10日～12月15日]

前期展示では、パリ2024大会の実施競技の関連アイテムを展示し、大会の魅力を紹介しました。後期展示では、TEAM JAPANのアスリートが着用したユニフォームや競技アイテムに加え、競技で示された名場面をアスリート自身が残した言葉とともに振り返りました。

6 オリンピズムストーリー写真展

[2024年12月17日～2025年4月27日]

ひたむきに競技に打ち込む姿や勝敗に関わらず対戦した相手を讃え合う姿、笑顔、時には悔し涙など、近年のオリンピック競技大会においてアスリートが見せたオリンピズム（オリンピック精神）やオリンピックバリュー（エクセレンス、フレンドシップ、リスペクト）を体現したシーンを集めて紹介しました。

イベントの実施

日本オリンピックミュージアム+（プラス）

第1次JOC中期計画で掲げた、ファン層拡大に向けたJOMにおけるパートナー企業・都市、各NFと連携した事業の一環として、アスリートと一緒に様々なテーマについて学ぶイベントを実施しました。



企画展関連イベントシリーズ「プレイキン体験」
with日本ダンススポーツ連盟
2023年8月13日開催



夏休みこども企画シリーズ
「ミニチュアシューズワークショップ」withアシックス
2023年8月20日開催



社会人セミナー
「勝ち飯®」勉強会（共催：味の素㈱）
2025年3月12日開催

オリンピックデーウィーク

6月23日のオリンピックデーを記念してオリンピアンが来館し、様々なプログラムを通して来館者と交流を深めました。



オリンピックデーウィーク 2023 in JOM
オリンピアンによる展示紹介
2023年6月20日開催



オリンピックデーウィーク 2024 in JOM
東京2020大会公式マスコットグリーティング
2024年6月23日開催

パリ2024オリンピックスペシャル企画

第33回オリンピック競技大会(2024/パリ)の開催に合わせオリンピアンが来館し、館内の展示解説や競技体験、パリ選手村に滞在中のTEAM JAPAN本部とのオンライン中継等で交流を深めました。



オリンピアンと一緒に競技体験
2024年7月27日開催



TEAM JAPAN本部とのオンライン中継
2024年7月27日開催

日本オリンピックミュージアムを活用した教育普及事業

JOC オリンピック教室 in JOM

校外学習や修学旅行でミュージアムを訪れる児童生徒に対して、オリンピアンと触れ合いながら館内を見学することができるプログラムです。ミュージアムでしかできない直接的な体験を通して、生活の中にあるオリンピックバリュー（エクセレンス、フレンドシップ、リスペクト）に気付く力を身に付けてもらうことを目的として実施しています。



TEAM JAPAN 2020 VILLAGE

2024年3月に、東京2020大会のオリンピックビレッジ跡地の一角に、TEAM JAPANゴールド街づくりパートナーとしてJOCを支援している三井不動産株式会社のグループ会社である三井不動産レジデンシャル株式会社の全面協力のもと、オープンしました。本施設は、オリンピック・ムーブメントの発信拠点である日本オリンピックミュージアム(JOM)のサテライトとして東京2020大会のレガシーを継承し、TEAM JAPANを身近に感じていただける展示のほか、飲食スペース「Cafe & Restaurant CENTRALE (カフェ アンド レストラン セントラーレ)」を併設し、東京2020大会のメインダイニングで提供されたGAP認証食材を使った料理を提供するとともに各種イベントを実施しています。

● 東京2020大会資産及びTEAM JAPANの展示



東京 2020 大会の巨大メダル



東京 2020 大会の聖火皿や聖火トーチ



TEAM JAPAN の展示

● TEAM JAPANイベントの開催

TEAM JAPANにエールを送ろう! 応援イベント

日時	2024年8月1日(木) 17:00~20:00
内容	パリTEAM JAPAN本部(各競技会場)及び日本オリンピックミュージアム、札幌駅前通地下歩行空間北2条交差点広場との中継、女子バスケットボール 予選リーグ「日本対ドイツ」戦のライブビューイング
参加オリンピアン	小口 貴久(リージュ) 田中 琴乃(体操/新体操)



基本情報

●名称: TEAM JAPAN 2020 VILLAGE / Cafe & Restaurant CENTRALE
●住所: 〒104-0053 東京都中央区晴海 5丁目2-31 1060 ららテラス HARUMI FLAG 1階
●電話番号: 03-5534-9666 ●営業時間: 9時~22時 休業日は施設休館日に準じる。

パリ2024大会コミュニケーション戦略

パリ2024大会に向けて、JOCでは初めて統一したコンセプトを掲げました。コンセプトは「一歩、踏み出す勇気を。」。大会に臨むアスリートの姿が、多くの方にそれぞれの一歩を踏み出す後押しになればという思いから、大会事前、期中、事後に各施策を展開しました。

パリ 2024 大会に向けた TEAM JAPAN コンセプト

一歩、踏み出す勇気を。

踏み出す。どんな栄光も最初は、小さな一歩から始まります。
少し進んで、何度も転んで、擦りむいて。すぐに立ち上がって、前を向いてまた一歩、踏み出す。
そうやって気づけば、遠い世界にたどり着いている。
アスリートとは、歩みを止めなかった人たちのこと。
失敗するくらいなら何もしない方がいい。挑戦をリスクと捉えてしまう、いま、この時代だからこそ。
TEAM JAPAN は「一歩、踏み出す勇気」を、すべての人に届けられる存在でありたい。
踏み出す先に素晴らしい未来が待っていることを伝えたい。
2024年。パリ大会をきっかけに、いっしょに踏み出ませんか?
どんな小さな一歩でも、それが想像もしない明日の喜びにつながっていると信じて。



コアターゲット

次世代を担う小学生~20代前半の若者たち
絶対的なイベントとしてのオリンピックを知らない世代に、振り向き、共感し、意義を感じてもらうことが最優先です。ただし、すべての若者向けにするわけはありません。30歳も、100歳も、それぞれの「一歩」を考えてもらえるように。



ゴール

パリ2024大会を1億2000万人が「一歩、踏み出す」きっかけにする。

企画の約束ごと

踏み出す勇気を届けていますか?

自分の一歩を考えるきっかけを。

そして人はワクワクできますか?

● オフィシャルスポーツウェア発表会

パリ2024オリンピックの開幕の100日前となった4月17日、公益財団法人日本オリンピック委員会及び公益財団法人日本パラスポーツ協会日本パラリンピック委員会(JPC)並びにTEAM JAPANゴールドパートナーである株式会社アシックスは、パリ2024オリンピック・パラリンピック競技大会TEAM JAPANオフィシャルスポーツウェア発表記者会見を開催しました。



オフィシャルスポーツウェアのコンセプトは「パフォーマンスとサステナビリティの両立」。史上最もサステナブルな大会を目指したパリ2024オリンピック・パラリンピック競技大会に向け、スポーツを守り、継続させるにはどうすべきかをアスリートとともに考えたい、との想いを込め開発されました。すべてのアイテムにリサイクル素材が使用されているほか、ポディウムジャケットには、原材料の調達から廃棄までの工程による二酸化炭素排出量(CO2)を記載する等、優れた機能性を持たせながら環境に配慮したアイテムをTEAM JAPANへ提供しました。

日程	2024年4月17日(水)	会場	日本橋三井ホール
参加アスリート	●オリンピアン [バレーボール] 西田有志、小野寺太志 [バスケットボール] 東藤 なな子 [体操/体操競技] 橋本 大輝 [フェンシング] 見延 和靖 [レスリング] 藤波 朱理 [ハンドボール] 東江 雄斗 ●パラリンピアン [陸上競技] 新保 大和、竹村 明結美、田巻 佑真 [水泳] 木下 あいら、西田 杏 [車いすラグビー] 若山 英史 [ボッチャ] 廣瀬 隆喜 [トライアスロン] 宇田 秀生		

●「TEAM JAPANと一歩、踏み出そう」キャンペーン

パリ2024大会を通じてアスリートと一緒に一歩を踏み出したいことを「一歩宣言」として特設サイトや各種イベントで募集しました。応募いただいた一歩宣言は、共に頑張るTEAM JAPANへの応援にかえて、フランス・パリ現地のTEAM JAPANハウスや選手村などに掲示しました。

● TEAM JAPAN結団式・壮行会

オリンピック競技大会、ユースオリンピック競技大会、アジア競技大会等に派遣する TEAM JAPAN結団式と壮行会（オリンピックのみ）を実施しています。パリ2024大会の壮行会は、「一歩、踏み出す勇気を。」を形にし、次世代を担う子どもたちを中心に約6,000名の参加者がTEAM JAPANに熱いエールを送りました。

第33回オリンピック競技大会（2024／パリ）
TEAM JAPAN結団式・壮行会・記者会見



日程	2024年7月5日（金）
結団式	13:00～14:00
壮行会	15:00～16:20
記者会見	17:00～17:45



結団式は、秋篠宮皇嗣同妃両殿下ご臨席のもと、TEAM JAPAN尾縣貢団長、旗手江村美咲選手（フェンシング）、半井重幸選手（ブレイキン）をはじめとする約280名のアスリート、監督・コーチ等が出席しました。

壮行会は、TEAM JAPANのコンセプトである『一歩、踏み出す勇気を。』を形にし、TEAM JAPANアスリート、監督・コーチ等約300名が出席。応援リーダーの松岡修造さん、副リーダーの高橋尚子さん、司会の平井理央さんによるトークで会場を盛り上げました。応援プログラムでは、北区立稲付中学校の生徒から熱いリレーメッセージを、渋谷区立鳩森小学校の生徒とともに約6,000名の観客から「とどけ！ 勇気！ 頑張れ！ ニッポン！」と熱く力強いエールを送りました。

応援パフォーマンスにはスキマスイッチの大橋卓弥さんと常田真太郎さんが登場し、「ガラナ」「全力少年」を熱唱。会場は一体となって盛り上がりました。最後に、小学生から江村旗手・半井旗手へ、オフィシャルスポーツウェアの端材を再利用した「TEAM JAPANミサンガ」が贈られ、退場時にはTEAM JAPANが観客席にサイン入りボールを投げ入れ、壮行会は最後まで熱気に包まれました。

第33回オリンピック競技大会（2024／パリ）
TEAM JAPAN帰国時記者会見・解団式・報告会

解団式は、東京都内で行われ、TEAM JAPAN尾縣貢団長、土肥美智子副団長、谷本歩実副団長、井上康生副団長、江村美咲旗手（フェンシング）、半井重幸旗手（ブレイキン）、そしてメダリストが参加しました。冒頭の国歌斉唱に続き、秩父宮殿下よりご下賜の団旗が旗手より尾縣団長に、そして三屋副会長に返還されました。解団式終了後、三浦大知さんが登場。オリンピックに向かうアスリートの高鳴る鼓動を表現したTEAM JAPAN公式応援ソング「心拍音」を披露しました。

日程	2024年8月14日（火）
帰国時記者会見	9:00～9:45
解団式	11:00～12:00
報告会	16:00～17:30

第33回オリンピック競技大会（2024／パリ）
TEAM JAPAN応援感謝イベント

JOCとJPCは、パリ2024オリンピック・パラリンピック競技大会で活躍したTEAM JAPAN を応援してくれた皆さまに感謝の気持ちをお届けすることを目的に「パリ 2024オリンピック・パラリンピックTEAM JAPAN応援感謝イベント」を日本橋で開催しました。約100名のオリンピック・パラリンピアンたちが日本橋中央通りの往復約700mをウォーキングしながら、沿道に集まった約1万人のファンの方々へ感謝の想いを届けました。



シティドレッシング

パリ2024大会でのTEAM JAPAN応援機運醸成のため、日本橋シティドレッシング2024を三井不動産株式会社との共催で実施しました。
日本橋の街全体を装飾する本取組では、商業施設の壁面全体を使ってTEAM JAPANのアスリートたちが躍動する姿を描き、パリ2024大会での活躍を祈念しました。



JOC公式動画コンテンツTEAM JAPAN LIVErary

TEAM JAPANのアスリートのインタビューや現地密着映像など、活躍の裏側を臨場感のある動画コンテンツ配信を、TEAM JAPANゴールドパートナーであるKDDI株式会社のサポートのもと実施しました。競技中とは異なる裏側映像や大会へ向けたこれまでの取り組みや決意をまとめた映像を展開することで、TEAM JAPANをより身近に感じ、応援したい気持ちを喚起することをめざしました。



パリ2024TEAM JAPAN感謝の集い

パリ2024オリンピック・パラリンピックTEAM JAPAN応援感謝イベントとあわせ、TOPパートナー、TEAM JAPANパートナー、ライセンサー、パリ2024オリンピックのメダリスト、そしてそのご家族をご招待してTEAM JAPAN感謝の集いを開催。

日頃からTEAM JAPANをご支援いただいているパートナーやライセンサーへ感謝をお伝えするとともに、自身の活躍で日本中に元気と勇気を届けてくれたメダリスト、それを支えてくれたご家族も参加。パリ2024オリンピックを映像で振り返り、トークショーではメダリストからパリ2024大会での出来事を聞くことができ、関係者の交流の場となり賑やかな懇親の場となりました。

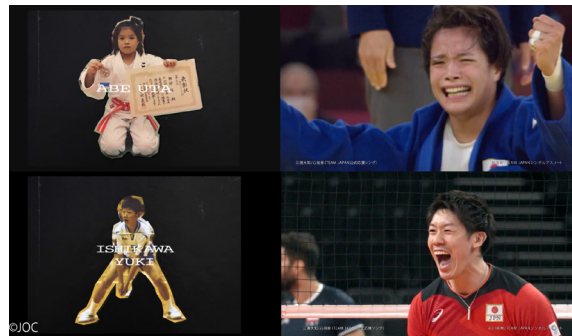


Move Forward presented by TEAM JAPAN

民放各局の協力のもと、大会開幕1カ月前よりMove Forward presented by TEAM JAPANをTVerにて配信しました。TEAM JAPANのアスリートが歩んできた道のりや、一歩を踏み出し進み続ける物語を通して、幅広い年代層へ「一歩、踏み出す勇気を。」を伝える取り組みを行いました。

テレビCM

パリ2024オリンピックに向けたTEAM JAPANのコンセプトである「一歩、踏み出す勇気を。」のメッセージを一人でも多くの方に届け応援してもらうため、TEAM JAPANシンボルアスリートを起用したCMを、地上波中継番組やTVerオリンピック特集、街頭のビジョン等で放映しました。幼少期の映像、東京2020大会と杭州2022アジア大会の競技映像に応援ソングを組み合わせ、踏み出す先に素晴らしい未来が待っているという思いを込めて制作。映像内にはパートナー各社のロゴも露出しました。



第19回アジア競技大会(2022／杭州) TEAM JAPAN結団式・記者会見・決意表明

日程	2023年9月15日(金)
結団式	16:00～16:50
記者会見	17:30～18:00
決意表明	18:10～18:45

第9回アジア冬季競技大会(2025／ハルビン) TEAM JAPAN結団式

日時	2025年2月4日(火) 17:00～17:30
----	--------------------------



TEAM JAPAN SOCIAL ACTION

JOC Vision 2064の活動指針の1つである「スポーツで社会課題の解決に貢献」の一環でJOCでは「TEAM JAPAN SOCIAL ACTION」として、SDGsをはじめとした社会貢献活動を実施しています。



● TEAM JAPAN SUMMER FEST

パリ2024オリンピックまであと1年となる2023年7月26日から2023年8月11日まで「TEAM JAPAN SUMMER FESTーパリ2024オリンピック1年前カウントダウンイベントー」を開催しました。初日はオープニングイベントを東京ミッドタウン日比谷アトリウムで開催し、オリンピックに向けた努力や経験、オリンピックに対する想いを伝えるトークショーを行い、パリ2024大会に挑むTEAM JAPANへの応援機運醸成を図りました。また、今回はスポーツにも大きな影響を与える気候変動についてオリンピック自らが語り、自らが愛用していたユニフォームやTシャツなどを持参し、期間中実施する衣料支援プロジェクトに対する協力も呼びかけました。



日程	2023年7月26日(水)～2023年8月11日(金)
会場	東京ミッドタウン日比谷アトリウム、アーバンドックららぽーと豊洲、日本オリンピックミュージアム、東京スカイツリー®
主催	公益財団法人日本オリンピック委員会
協力	TEAM JAPANパートナー企業(三井不動産株式会社、ENEOS株式会社、久光製薬株式会社、東武タワースカイツリー株式会社)、公益財団法人日本陸上競技連盟、公益社団法人日本サッカー協会、公益財団法人日本バスケットボール協会、公益財団法人日本レスリング協会、公益社団法人日本ウエイトリフティング協会、公益財団法人日本ハンドボール協会、公益財団法人日本卓球協会、公益社団法人日本山岳・スポーツクライミング協会、公益社団法人日本ダンススポーツ連盟
参加オリンピック	高橋 尚子(陸上競技)、戸邊 直人(陸上競技、JOCアスリート委員)、荒木 絵里香(バレーボール、JOCアスリート委員)、田中 琴乃(体操競技/新体操、JOCアスリート委員)、高橋 成美(スケート/フィギュアスケート、JOCアスリート委員)、寺尾 悟(スケート/ショートトラック)、登坂 絵莉(レスリング)、土井 レミイ杏利(ハンドボール、JOCアスリート委員)、水谷 隼(卓球)、小口 貴久(リュージュ、JOCアスリート委員)
内容	【オープニングイベント】オリンピックトークショー(テーマ:パリ2024大会に向けた機運醸成、気候変動によるスポーツへの影響等)、来場者参加型コンテンツ(ハンドボールストラックアウト対決、卓球チャレンジ) 【ららぽーと豊洲】ステージイベント、衣料支援プロジェクト、スポーツ体験ブース等 【東京スカイツリー®】特別ライティング、RISING TOGETHER企画ーTEAM JAPAN活躍祈願ー



● スポーツ環境保全活動（植林活動）

環境保全を通じての社会貢献活動の一環として、TEAM JAPANゴールドパートナーである三井不動産株式会社とともに、同社の保有林にて植林活動を実施しました。地元関係者から1本の木が吸収する二酸化炭素量や、植林の進め方についての説明を受けた後、2人1組で1人が20センチ程度の穴を掘り、もう1人がその穴にグイマツの苗木を植付け、合計100本以上を植林しました。

			
2023年度		2024年度	
日程	2023年10月20日（金）	日程	2024年10月18日（金）
場所	北海道上川郡美瑛町三井不動産保有林	場所	北海道上川郡美瑛町三井不動産保有林
参加JOCアスリート委員	小口 貴久、高平 慎士、堀島 行真、米山 知奈	参加JOCアスリート委員	荒木 絵里香、小口 貴久、土井 レミイ杏利

● TEAM JAPAN SYMBOL ATHLETES SOCIAL ACTION

TEAM JAPANシンボルアスリートが、JOC、パートナー都市をはじめとする自治体、競技団体等のサポートを受けながら、自らスポーツを通じた社会課題の解決に取り組むSOCIAL ACTION。



ABE CUP 2023・2024
阿部 一二三選手、阿部 詩選手

柔道に触れる機会や力を試し合う大会が減少している中、未来を担う子供たちが柔道を楽しみ、全国の仲間と切磋琢磨する場を設けたい、という本人たちの思いから行われる柔道教室・柔道大会。2023年6月に阿部兄妹の地元である兵庫県姫路市で一回目、2024年11月に神奈川県横浜市で二回目（柔道大会のみ）が開催されました。柔道大会は全国の小学6年生を対象に募集し、それぞれ300人を超える参加者が阿部兄妹が見守る中、熱戦を繰り広げました。



RISAKO & YUKAKO WRESTLING CAMP
金城 梨紗子選手

地元石川県や関係者に対し、これまでの応援とサポートへの感謝、レスリングの面白さ・奥深さをこどもたちに届けたいという金城選手の思いから、2023年10月に石川県金沢市で開催。金メダリストである妹の川井友香子選手も参加し、北信越地区レスリングクラブ所属の小学4年～6年生50名に対して、午前・午後の2部制でトレーニングからスパリングまで行いました。金城選手、川井選手もスパリングに参加し、参加者は金メダリストとのスパリングという貴重な体験に目を輝かせていました。



UENO YUKIKO SOFTBALL FESTA
上野 由岐子選手

ソフトボールを通してスポーツの楽しさに触れてもらいたいという上野選手の思いにより、2023年12月に群馬県高崎市で開催し、群馬県、栃木県、茨城県、埼玉県の小学3～6年生122名が参加しました。ソフトボール未経験者でも楽しめるように、大ソフトボール転がしやソフトボール入れなども行われ、遠投教室や上野選手によるデモ投球でレジェンドの凄さを目の当たりすると、参加者や観客から歓声が沸き上がり、ソフトボールの魅力を伝えるイベントになりました。



● 能登半島復興支援イベント「TEAM JAPAN SPORTS DAY」

能登半島地震や奥能登豪雨で被災された地域の子供たちに、スポーツを通じて笑顔になってほしいとの思いから、2024年11月17日に復興支援イベントとして「TEAM JAPAN SPORTS DAY」を石川県の輪島市立輪島中学校にて開催しました。このイベントは、TEAM JAPANゴールドパートナーである日本生命保険相互会社との共同事業として、日本生命の地元スタッフにも運営にご協力いただき実施しました。イベントの趣旨に賛同した、TEAM JAPANシンボルアスリートの阿部一二三選手、詩選手（ともに柔道）、金城梨紗子選手（レスリング、石川県出身）が参加し、輪島市をはじめ能登半島から集まった小学生約90名と綱引きや追っかけ玉入れなどで一緒に体を動かして交流しました。トークセッションでは、地元輪島市出身のオリンピック小口貴子さん（ボブスレー／スケルトン）とご主人の小口貴久さん（リュージュ）も参加。避難者も含め約170名の参加者に対し、オリンピックや子供の頃の夢などについて語り、参加者はオリンピックとの時間を楽しみました。



成績優秀者等表彰 | JOCスポーツ賞

1 オリンピック特別賞表彰

第33回オリンピック競技大会（2024／パリ）TEAM JAPANメダリスト計70名（メダル数；金20、銀12、銅13 計45）を対象に、オリンピック特別賞表彰規程に基づき、正賞（賞状）及び副賞（報奨金；第1位に入賞した者については500万円、第2位に入賞した者については200万円、第3位に入賞した者については100万円）を授与しました。

2 JOCスポーツ賞

JOCでは、オリンピック・ムーブメントの推進とスポーツの各分野で優れた成果を収めた選手や指導者の栄誉、功績を讃えています。令和5年度JOC スポーツ賞表彰式は、パリ大会50日前となる6月6日に東京ミッドタウンにおいて、一般の方々にもご覧頂けるよう執り行い、パリ大会に向けた機運醸成にも繋げました。令和6年度JOCスポーツ賞では、令和6年度に開催された国際総合競技大会、ジュニアを含めた世界選手権大会における競技成績や功績を踏まえてJOCスポーツ賞「年度賞」「特別貢献賞」「トップアスリートサポート賞」「女性スポーツ賞」各賞候補者を選考しました。JOCの表彰なので、大会成績だけでなく、オリンピック・ムーブメントへの貢献や、メダル獲得までの背景等を考慮するのが良いのではないかと意見もあり今後JOCらしい表彰ができるよう検討していきます。

■令和5年度JOCスポーツ賞 受賞者一覧

区分	競技	氏名	評価される実績
優秀賞	陸上競技	北口 榛花	ブタベスト2023世界陸上競技選手権大会 女子やり投 1位 [オリンピック、世界選手権のフィールド競技で日本人女子初の優勝]
特別栄 誉賞	スケート／ フィギュアスケート	坂本 花織	ISU 世界フィギュアスケート選手権大会2024 女子シングル 1位 [世界では56年振り、日本勢では男女通じて初の3連覇]
	フェンシング	江村 美咲	2023 世界選手権大会（イタリア／ミラノ） 女子サーブル 1 位 [日本勢では男女を通じて初の連覇]

...

区分	競技	氏名	評価される実績
優秀賞	レスリング	須崎 優衣	2023年世界選手権（セルビア・ベオグラード）女子フリースタイル50kg級 1位 [2大会連続、48kg級と合わせて自身4度目の世界選手権優勝]
	水泳／水球	第19回アジア競技大会（2022／杭州）男子日本代表チーム	第19回アジア競技大会（2022／杭州）男子水球 1位 [アジア大会では、1970年のバンコク大会以来53年ぶりの優勝]
	柔道	阿部 一二三 阿部 詩	2023世界柔道選手権 カタール・ドーハ大会 1位 [2大会連続4度目の優勝。通算3度目の兄妹同日優勝]
	ソフトボール	第19回アジア競技大会（2022／杭州）女子日本代表チーム	第19回アジア競技大会（2022／杭州）女子ソフトボール 1位 [アジア大会で前人未踏の6連覇を達成。完封勝利で優勝]
新人賞	スケートボード	開心那	スケートボード・パーク世界選手権2023 女子パーク 1位 [世界選手権で自身初の優勝]
	スケート／ フィギュアスケート	島田 麻央	第4回ユースオリンピック冬季競技大会（2024／江原道） フィギュアスケート女子シングルス 1位 [ユースオリンピックの女子シングルで日本人女性初の優勝]
特別 功労賞	卓球	早田 ひな	2023年世界卓球選手権ダーバン大会（個人戦）女子シングルス 3位 [世界卓球選手権において、強豪中国選手に勝利してのメダル獲得は、男女通じて44年ぶりの快挙]
	バレーボール	FIVB ワールドカップ バレー 2023 男子日本代表チーム	FIVBバリオリンピック予選／ワールドカップバレー2023 2位 バレーボールネーションズリーグ2023 3位 [北京2008オリンピック以来の自力でのオリンピック出場権を獲得。大会初の銅メダルを獲得し46年ぶりの世界大会表彰台を飾った]
	スキー／ フリースタイル	堀島 行真	FISフリースタイルスキー・ワールドカップ（W杯）男子モーグル 総合優勝 [日本人男子初の種目別総合優勝]
特別 貢献賞	バスケットボール	FIBA バスケットボール ワールドカップ 2023 男子日本代表チーム	FIBAバスケットボールワールドカップ2023において、アジア1位、48年振りのオリンピック出場権を獲得。日本全国はもとより、未来を担う世界中の子供たちに勇気と感動をとどけ、スポーツ界の発展に大きく貢献した。
女性 スポーツ賞	国立スポーツ科学 センター	能瀬 さやか	アスリートのデータを収集、分析し競技特性によるそれぞれの問題を研究し、これまで研究されてこなかった女性トッパスリートの婦人科問題に切り込んだ。 国立大学で初めての「女性アスリート外来」を開設した他、全国各地の産婦人科を訪問しアスリートを診察する際の留意点を伝える啓発活動や、アスリートや指導者、教育関係者や保護者向けに動画や啓発資料を作成し、アスリートを支える方への情報提供にも取り組んでいる。

※優 秀 賞：世界選手権・杭州アジア大会での活躍を考慮
※新 人 賞：夏冬のバランスとユースオリンピック冬季大会の成績を評価
※特 別 貢 献 賞：国内で開催された試合での振る舞いや代表チームからの情報発信が笑顔やスポーツの価値向上に貢献度を評価
※女性スポーツ賞：長きにわたりアスリートの現場で女性のサポートを行い、今後の予防医学に活用される活動を実施し、女性アスリートを取り巻く環境の整備を実践した活動の評価

■令和6年度JOCスポーツ賞 受賞者一覧

令和7年4月18日現在

区分	競技	氏名	評価される実績
最優秀賞	スケートボード	堀米 雄斗	第33回オリンピック競技大会（2024／パリ）男子ストリート 1位 [最後の1本で大技を成功させ、オリンピック史上初の連覇を達成したその挑戦は、TEAM JAPANのコンセプト「一歩、踏み出す勇気を。」を体現し、多くの人々に勇気と感動を与えた。]
特別栄 誉賞	体操／体操競技	岡 慎之助	第33回オリンピック競技大会（2024／パリ）男子団体 1位 第33回オリンピック競技大会（2024／パリ）男子個人総合 1位 第33回オリンピック競技大会（2024／パリ）男子鉄棒 1位 第33回オリンピック競技大会（2024／パリ）男子平行棒 3位 [弱冠20歳で初出場し、男子団体、個人総合、種目別鉄棒の3種目で優勝、さらに種目別平行棒でも3位に入賞した。]
優秀賞	陸上競技	北口 榛花	第33回オリンピック競技大会（2024／パリ）女子やり投 1位 [オリンピックの女子フィールド種目で日本初となるメダルを獲得するという歴史的快挙を達成し、多くの人々に感動と勇気を伝えた。]
	レスリング	鏡 優翔	第33回オリンピック競技大会（2024／パリ）女子 フリースタイル76kg級 1位 [同種目で20年ぶりに日本勢が金メダルを獲得するという歴史的快挙を達成し、JOCエリートアカデミーで培った実力と精神力を世界の舞台で発揮した。]
	フェンシング	加納 虹輝	第33回オリンピック競技大会（2024／パリ）男子エペ個人 1位 [激戦を制し、日本フェンシング界の歴史を塗り替える金メダルを獲得し、競技の本場フランスでの快挙は特に大きな意義を持った。]
	柔道	阿部 一二三	第33回オリンピック競技大会（2024／パリ）男子66kg級 1位 [金メダルを獲得し、オリンピック2連覇を達成、圧倒的な技術力と強さは多くの人々に感動と誇りを伝えた]
	柔道	永瀬 貴規	第33回オリンピック競技大会（2024／パリ）男子81kg級 1位 [金メダルを獲得し、オリンピック史上初の81kg級での2連覇を達成、抜群の技術と冷静な戦術で新たな歴史を作り上げた。]
	フィギュアスケート	島田 麻央	2025 ISU世界ジュニアフィギュアスケート選手権 1位 [男女シングル史上初の大会3連覇という歴史的な快挙を成し遂げた。]
	ブレイキン	湯浅 亜実	第33回オリンピック競技大会（2024／パリ）Bガール 1位 [オリンピックの正式競技として採用された新競技ブレイキンBガールで金メダルを獲得し、卓越したダンス技術と表現力を発揮し、その実力を証明した。]
新人賞	テニス	園部 八奏	オーストラリア・オープンジュニア女子シングルス 1位 [56年ぶりに四大大会のジュニア女子シングルスを制する快挙を達成した。]

区分	競技	氏名	評価される実績
特別功 労賞	水泳／飛込	玉井 陸斗	第33回オリンピック競技大会（2024／パリ）男子10m高飛込 2位 [日本人初のメダルを獲得。最終試技まで緊迫した戦いの中での安定した演技は国民に勇気を届けた]
	馬術	大岩 義明、北島 隆三 戸本 一真、田中 利幸	第33回オリンピック競技大会（2024／パリ）総合馬術団体 3位 [1932年ロサンゼルス大会以来の馬術競技でのメダルを獲得。人馬一体となった高い技術と個々を信頼し、競技に挑む姿勢は多くの日本人に感動を届けた。]
	ゴルフ	松山 英樹	第33回オリンピック競技大会（2024／パリ）男子 3位 [日本男子初のメダルを獲得。1900年パリ大会で初めて実施された歴史深いゴルフ競技において、過密スケジュールの中、安定したプレーと冷静な判断で歴史的な快挙であった。]
	近代五種	佐藤 大宗	第33回オリンピック競技大会（2024／パリ）男子個人 2位 [近代五種競技初のメダルを獲得。それぞれの種目で高い技術を示した姿はアスリートに新たな可能性を示した。]
	スポーツ クライミング	安楽 宙斗	第33回オリンピック競技大会（2024／パリ）男子ボルダー&リード 2位 [日本男子のメダルを獲得。安定した高い技術と論理的な戦い方は新たな歴史を刻んだ。]

※令和6年度に開催された国際総合競技大会、ジュニアを含めた世界選手権大会における競技成績や功績を踏まえ、JOC スポーツ賞「年度賞」「特別貢献賞」「トッパスリートサポート賞」「女性スポーツ賞」各賞候補者を選考。

■特別貢献賞

区分	競技	氏名	評価される実績
-	弁護士	飯田 隆	[2013年に設置したJOC通報相談窓口の立ち上げ及びその後の運営に尽力いただき、アスリートや本会関係者が安心して活動できる環境を構築するとともにスポーツ界の健全なガバナンス推進に貢献した。]
	フェンシング	江村 美咲	[令和7年4月18日現在パリ2024大会 TEAM JAPANの旗手として強いリーダーシップと模範的な姿勢で選手たちの精神的支柱となり、士気向上に大きく貢献した。]
	ブレイキン	半井 重幸	

■女性スポーツ賞

区分	競技	氏名	評価される実績
-	柔道	松田 基子	[大学女子柔道選手向けの大会新設や女性役員登用促進、審判員活躍の環境整備を通じて、女子柔道のキャリア形成支援と男女平等の実現に大きく貢献した。]

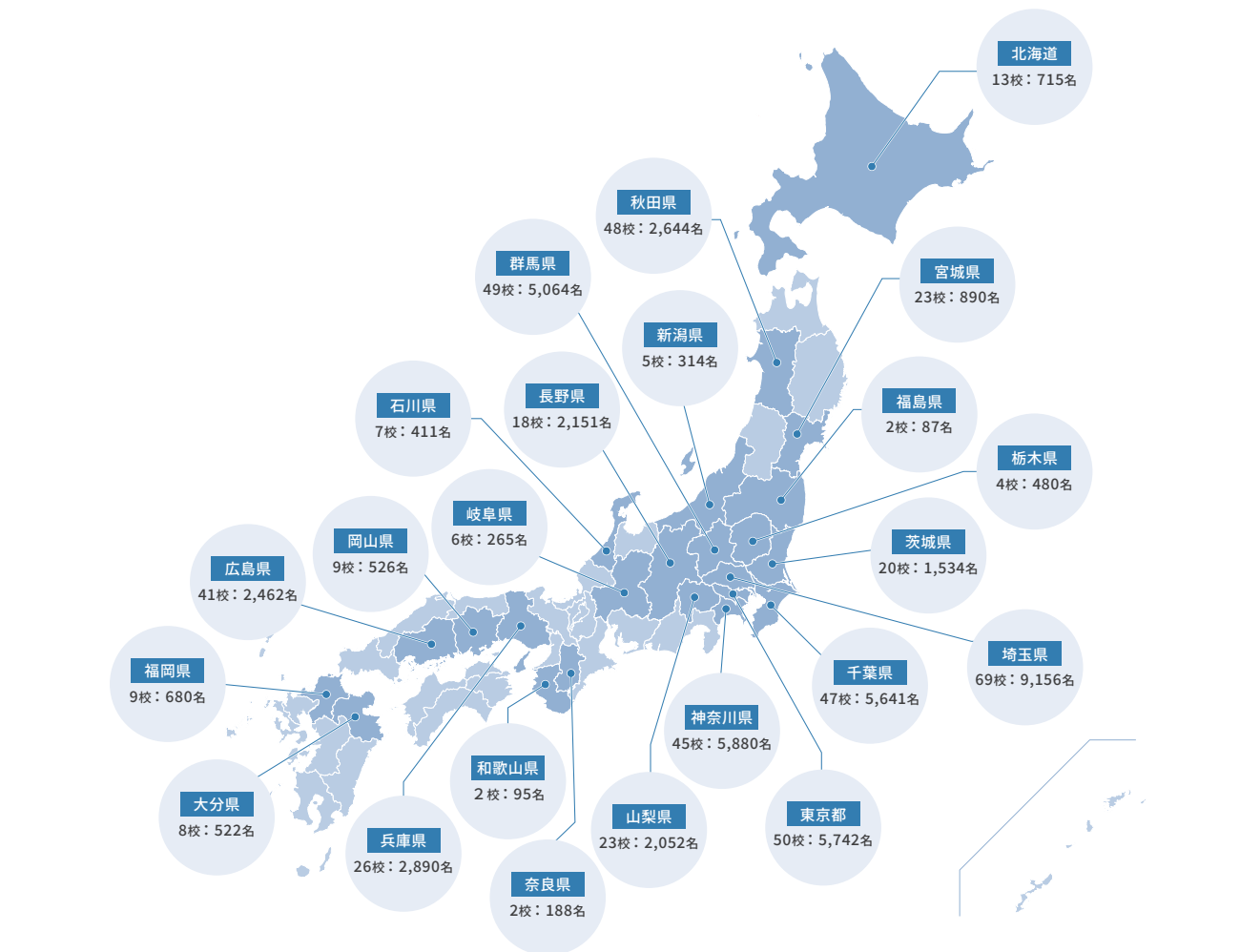
■トッパスリートサポート賞

区分	団体名	推薦加盟団体	評価される実績
最優秀 団体賞	NEXUS株式会社	公益社団法人日本フェンシング協会	・選手や指導者の強化合宿・大会派遣に纏わる経費の支援やチーム編成、指導者の派遣に協力している。 ・国内最大規模のフェンシングクラブを運営し、年代別代表からオリンピック代表まで数多くの選手が所属し、強化活動に多大な支援を行っている。 ・唯一の国際大会である高円宮杯ワールドカップの開催を支援している。 [選手の主な成績（パリ2024大会）]見延和靖（銀メダル）、数根 崇裕（金メダル）、永野 雄大（男子フルーレ団体 金メダル）
優秀 団体賞	日本航空 株式会社	公益財団法人日本陸上競技連盟	・2018年からトッパスリート社員の採用をはじめ、北口、村竹に加えて、戸邊直人（東京2020オリンピック競技大会代表）をはじめとする多くのトップ選手がアスリート社員として所属し、複数年にわたってサポートを続けている。 ・所属するアスリート社員による「JALアスリートアカデミー」を全国各地で開催し、子どもたちにスポーツの楽しさや競技に関するアドバイス伝えるなど、次世代育成、そして地域貢献に寄与している。 [選手の主な成績（パリ2024大会）]北口 榛花（金メダル）村竹 ラシッド（5位入賞）
	JFAアカデミー 福島 （女子）	公益財団法人日本サッカー協会	・2006年の開校以来、なでしこジャパン（サッカー日本女子代表）に17名、U-20日本女子代表に15名、U-19日本女子代表に16名、U-17日本女子代表に32名、U-16日本女子代表に27名と、年代別の代表チームにコンスタントに多くの選手を輩出している。 ・アジアサッカー連盟が優れた選手育成を実践しているクラブを認定する「エリートユーススキーム」において、当団体は2022年に女子クラブでは初となる最高認定の三つ星を獲得。日本国内は元より、アジア女子サッカー界でも存在感を発揮し、当団体の活動や培った情報をシェアするなどして女子サッカーの発展に貢献し、選手強化基盤の模範となっている。 ＜選手の主な成績（パリ2024大会）＞サッカー女子日本代表（平尾知佳、北川ひかる、古賀塔子、谷川朝々子、守屋都弥、石川瑞音、大場朱羽、三戸舜介、植中朝日）（5位入賞）
	セントラル スポーツ 株式会社	公益財団法人日本体操協会	・長年に渡りトップレベルの選手を育成し、日本体操界の競技力向上に貢献している ・地域のスポーツ振興にも積極的に活動し、地域住民の運動促進、健康増進にも協力 [選手の主な成績（パリ2024大会）]橋本 大輝（金メダル）、菅 和磨（金メダル）、谷川 航（金メダル）
	徳洲会体操 クラブ		・長年に渡りトップレベルの選手を育成し、日本体操界の競技力向上に貢献している ・ジュニアの育成にも手掛けており、ここから育った選手たちが全日本、国際大会等で活躍 ・地域のスポーツ振興にも積極的に活動し、地域住民の運動促進、健康増進にも協力 [選手の主な成績（パリ2024大会）]岡 慎之介（金メダル、銅メダル）、杉野 正堯（金メダル）
	全国農業 協同組合 連合会	公益財団法人日本卓球協会	・ナショナルチームおよびジュニアナショナルチームの海外遠征先に日本食を提供をいただいている ・2019年に東京体育館で開催されたITTF卓球ワールドカップ団体戦においても「JA全農」としてタイトルスポンサーとなり大会を支えていただいた ・国内大会では小学生の日本一を決める全日本選手権大会（ホープス・カブ・バンビの部）のタイトルスポンサーとなり、本大会のスポンサーはもちろんのこと47都道府県で行われるこの大会の予選会にも賞品（食材）の提供をいただき、全国から感謝の声が寄せられている
	パーク24 株式会社	公益財団法人全日本柔道連盟	・長年に渡りトップレベルの選手を育成し、日本柔道界の競技力向上に貢献している ・道場近隣の小学生を集めて無料柔道教室を開催するなど、社会貢献活動も積極的に行っている ・全日本合宿には定期的に同所属の指導者も参加し、コーチ陣のサポートや選手の状態等の情報を共有することでナショナルチームへの協力をしている [選手の主な成績（パリ2024大会）]ウルフ・アロン（銀メダル）、橋本 壮市（銅メダル、銀メダル）、阿部 一二三（金メダル、銀メダル）、素根 輝（銀メダル）、阿部 詩（銀メダル）

※令和6年度に開催された国際総合競技大会、ジュニアを含めた世界選手権大会における競技成績や功績を踏まえ、JOC スポーツ賞「年度賞」「特別貢献賞」「トッパスリートサポート賞」「女性スポーツ賞」各賞候補者を選考。

オリンピック教室

オリンピック教室は、JOCがオリンピック・ムーブメントの普及・啓発活動として取り組んでいる事業の一つです。文部科学省が定める学習指導要領では、中学校3年生の保健体育の「体育理論」の学習内容に、「オリンピックや他の国際的なスポーツ大会等は、国際親善や世界平和に大きな役割を果たしていること」という文化としてのスポーツやオリンピック・ムーブメントの意義について学習することが明示されています。これを受けてJOCでは、体育理論の学習に向けた事前啓発を目的として、「オリンピズム（オリンピック精神）」や「オリンピックバリュー（エクセレンス、フレンドシップ、リスペクト）」をより身近に感じてもらうため、その体現者であるオリンピック選手を先生として、中学校2年生を対象に授業形式で行う「オリンピック教室」を実施しています。このオリンピックバリューがオリンピック競技大会に出場したアスリートだけのものではなく、多くの人々が共有し日常生活にも生かすことができるものであり、こうした考え方があるからこそオリンピック競技大会に意義があることを生徒自身に学習してもらうこともねらいとしています。2011年度の本事業開始から2024年度までの14年間で、総参加者数は50,000名を超えました。



オリンピックデーラン

オリンピックデーランは、6月23日のオリンピックデーを記念して全世界で行われているオリンピックデー記念イベントのひとつです。日本ではJOCが主体となり、1987年より全国で実施しており、現在までの延べ参加者数が61万人を超えました。幅広い年齢層を対象に、スポーツの楽しさと「オリンピズム（オリンピック精神）」や「オリンピックバリュー（エクセレンス、フレンドシップ、リスペクト）」の理解を促すことを目的として、参加者とオリンピック選手が2km～4kmのジョギングやオリンピック実施競技体験等、さまざまなプログラムと一緒に楽しめます。



オリンピックコンサート

オリンピックコンサートは、6月23日のオリンピックデーを記念して全世界で行われているオリンピックデーイベントの一環として、1997年からJOCが主催する日本独自のイベントです。普段スポーツやオリンピックに親しみのない音楽ファンにも「オリンピックバリュー（エクセレンス、フレンドシップ、リスペクト）」の素晴らしさを実感してもらうことを目的に感動的なオリンピック映像（スポーツ）とオーケストラの演奏（文化）を融合しながら、オリンピックをはじめとするアスリートのトーク等を交えて、オリンピック・ムーブメントを推進します。

オリンピックコンサート2023「夢の力を信じて」

日時	2023年6月23日（金）18時00分
会場	東京芸術劇場 コンサートホール
参加アスリート（50音順）	【オリンピック】 宇野 昌磨（スケート／フィギュアスケート） 江村 美咲（フェンシング） 坂本 花織（スケート／フィギュアスケート） 橋本 大輝（体操／体操競技） 長谷川 帝勝（スキー／スノーボード） 三木 つばき（スキー／スノーボード） 山口 茜（バドミントン） 渡部 暁斗（スキー／ノルディック複合） 【パラリンピアン】 水田 光夏（射撃）

オリンピックコンサート2023 in 長野 「長野1998冬季大会開催25周年記念」

日時	2023年7月15日（土）16時30分
会場	長野市芸術館メインホール
参加アスリート（50音順）	【オリンピック】 上村 愛子（スキー／フリースタイル） 萩原 次晴（スキー／ノルディック複合） 菊池 彩花（スケート／スピードスケート） 原田 雅彦（スキー／ジャンプ）

オリンピックコンサート 2024 「オリンピックの輝き、新たな世紀へ」

日時	2024年10月8日（火）18時30分
会場	すみだトリフォニーホール 大ホール
参加アスリート（50音順）	【オリンピック】 江村 美咲（フェンシング） 尾崎 野乃香（レスリング） 北口 榛花（陸上競技） 櫻井 つくみ（レスリング） 佐藤 大蔵（近代五種） 高谷 大地（レスリング） 戸本 一真（馬術） 樋口 黎（レスリング） 藤波 朱理（レスリング） 文田 健一郎（レスリング） 宮脇 花輪（フェンシング） 吉岡 美帆（セーリング） 【パラリンピアン】 木下 愛葉（水泳） 鈴木 孝幸（水泳）



JOC アスリート委員会の活動

オリンピック研修会

オリンピック研修会は、JOCオリンピック・ムーブメント事業専門部会所管の下、JOCアスリート委員会が中心となって、オリンピック自身が「オリビズム（オリンピック精神）」や「オリンピックバリュー（エクセレンス、フレンドシップ、リスペクト）」を改めて学び、オリンピック・ムーブメント事業への積極的な参加を促すとともに、自身の活動に役立てることを目的に開催しています。講師を招いてオリンピックやパラリンピックについての基礎知識を学ぶ他、グループディスカッション等を行い、オンラインでの開催を含め、オリンピック同士のネットワーク構築も促進しています。



●主な内容

オリンピックの基礎知識、パラリンピックについて、JOC諸事業について、グループディスカッション他

2023年度	
日程	2023年6月23日（金）
開催場所	日本オリンピックミュージアム及びオンラインのハイブリッド形式
参加者	65名
2024年度	
日程	2024年1月20日（土）
開催場所	JSOS3階会議室及びオンラインのハイブリッド形式
参加者	22名
日程	2024年6月22日（土）
開催場所	日本オリンピックミュージアム及びオンラインのハイブリッド形式
参加者	61名

アスリートフォーラム

アスリートフォーラムは、JOCアスリート委員会が中心となり、JOCおよびJOCアスリート委員会の役割を伝えるとともに、スポーツ界が抱える課題の解決に向けた知見を共有する場として、2023年度より開催しています。本フォーラムは、従来の「オリンピック研修会」を発展させたものであり、IOCやOCAの活動を参考に、新たなプログラムとして導入しました。オリンピックや国内競技団体（NF）のアスリート委員会の活動活性化を目的とし、講話やディスカッションを通じて多様な視点と知識を得る機会を提供しています。

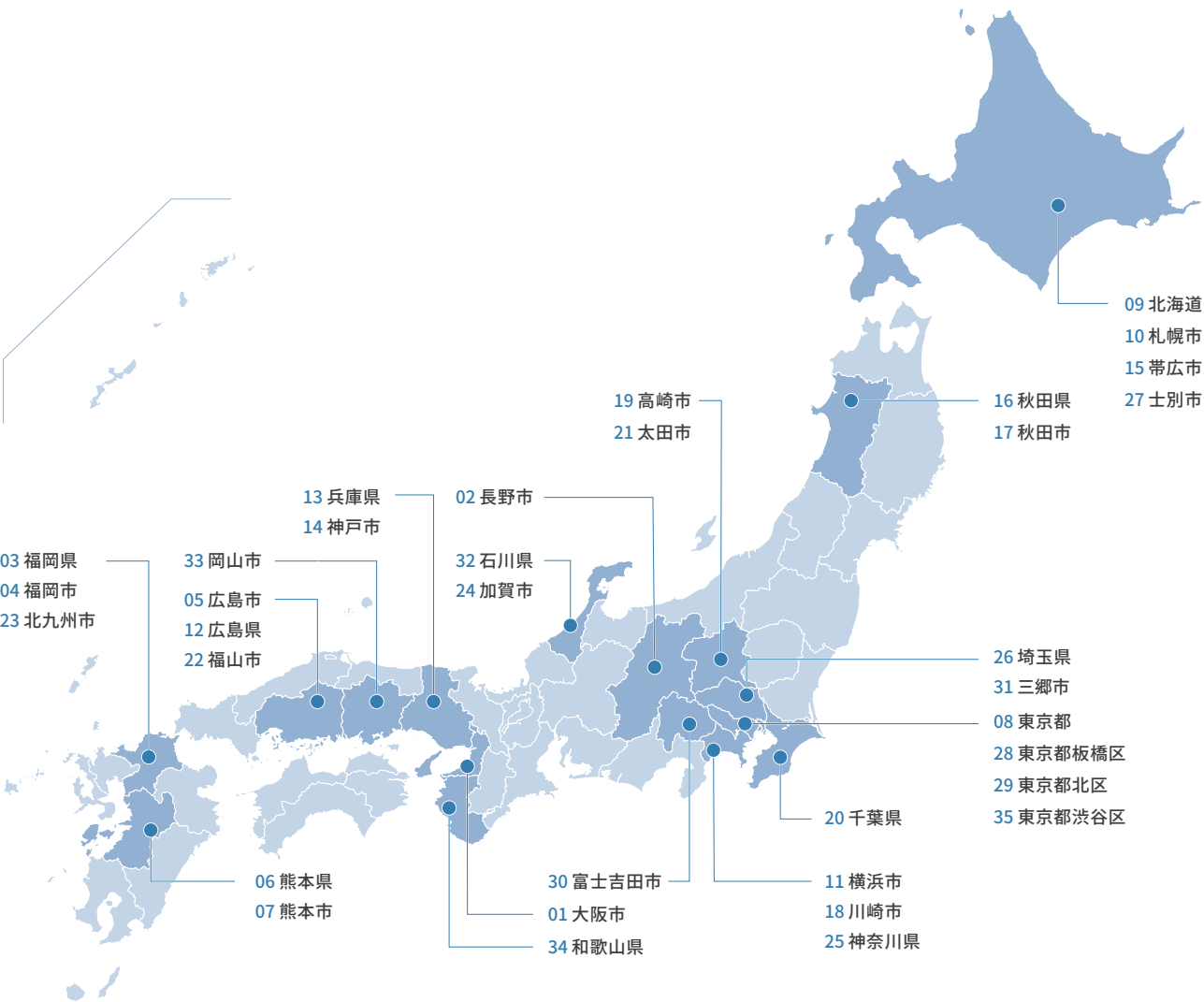
2023年度	
日程	2024年3月13日（水）
開催場所	JSOS及び日本オリンピックミュージアム
参加者	111名

2024年度	
日程	2025年2月16日（日）
開催場所	JSOS及び日本オリンピックミュージアム
参加者	114名



JOC パートナー都市

「JOC パートナー都市協定」は、2001年5月にJOCが策定した国際競技力向上戦略（JOC GOLD PLAN）の「強化拠点ネットワーク構想」の一環として、各都市（都道府県もしくは市）と連携し、自治体が所有するスポーツ施設をトップアスリートの選手強化に活用し、競技力向上を図ることを目的に スタートしました。平成30（2018）年度に初期の目的が概ね達成されたことから、パートナー都市の位置付けの見直しを行い、今後は主に JOCと連携したオリンピック・ムーブメント推進事業を、継続的かつ長期的に実施していただける都市と締結していくこととしました。本協定に基づき、JOCは締結都市とともに、今後も双方にとってメリットのあるオリンピック・ムーブメント推進事業を実施していきます。



	都市名	締結日
1	大阪市	2002年7月30日
2	長野市	2003年8月28日
3	福岡県	2004年11月26日
4	福岡市	2005年4月15日
5	広島市	2005年9月14日
6	熊本県	2006年5月11日
7	熊本市	2006年5月11日
8	東京都	2007年3月5日
9	北海道	2007年12月18日
10	札幌市	2007年12月18日
11	横浜市	2008年3月28日
12	広島県	2008年4月14日

	都市名	締結日
13	兵庫県	2008年12月1日
14	神戸市	2008年12月1日
15	帯広市	2012年3月3日
16	秋田県	2012年5月15日
17	秋田市	2012年5月15日
18	川崎市	2015年3月30日
19	高崎市	2015年4月3日
20	千葉県	2016年2月5日
21	太田市	2016年5月23日
22	福山市	2016年7月16日
23	北九州市	2016年12月16日
24	加賀市	2017年4月18日

	都市名	締結日
25	神奈川県	2017年4月21日
26	埼玉県	2017年6月16日
27	士別市	2019年6月11日
28	東京都板橋区	2019年8月30日
29	東京都北区	2019年8月30日
30	富士吉田市	2020年3月4日
31	三郷市	2022年1月13日
32	石川県	2023年5月19日
33	岡山市	2023年5月25日
34	和歌山県	2024年1月26日
35	東京都渋谷区	2024年3月7日

2025年3月31日現在

スポーツ祭り

「スポーツの日」中央記念行事は、1964年の東京オリンピックを記念して制定された祝日「スポーツの日」に、スポーツ界が一体となって開催するイベントです。日本を代表するオリンピックやトップアスリートが参加し、スポーツの楽しさや大切さを広く伝え、国民がスポーツに親しみ、健康な心身を育むことを目的としています。

スポーツ祭り2023

日程	2023年10月9日（月・祝）
開催場所	味の素ナショナルトレーニングセンター・イースト
参加オリンピック・パラリンピアン・アスリート	6名
主なプログラム	開会式、スポーツ庁長官によるセルフチェックと改善エクササイズ、「勝ち飯®」教室、練習見学、スポーツ教室、パネル及びマスコット展示、パリ2024大会関係展示等

スポーツ祭り2024

日程	2024年10月14日（月・祝）
開催場所	味の素ナショナルトレーニングセンター・ウエスト、国立スポーツ科学センター
参加オリンピック・パラリンピアン・アスリート	6名
主なプログラム	開会式、スポーツ庁長官によるセルフチェックと改善エクササイズ、スクエアステップエクササイズ、オリンピック・パラリンピック競技練習見学・体験教室、アクティブ・チャイルド・プログラム、レッツ・チャレンジ！おもしろスポーツ、バーチャルスポーツプログラム、安全登山体験、「勝ち飯®」教室等



スポーツ情報の提供事業・事業広報活動

オリンピック競技大会、アジア競技大会、FISUワールドユニバーシティゲームズをはじめとする国際総合競技大会や、スポーツに関する各種情報を、公式ウェブサイトや SNS、広報誌「OLYMPIAN」等を通して発信しています。

広報誌「OLYMPIAN」

広報誌「OLYMPIAN」は年1回、冊子版とデジタル版で発行しています。読者がオリンピックについてもっと身近に感じられるような内容を目指し、オリンピックや若手アスリートのインタビュー記事、JOCの主な事業の紹介記事等を掲載しています。

JOC 公式ウェブサイト／SNS

JOC公式ウェブサイトでは各事業の実績や、各国際総合競技大会のTEAM JAPAN選手団、成績、関連ニュース、コラム等を掲載し、オリンピック・ムーブメントに関わるさまざまな情報を発信しています。SNSでは JOC Vision 2064「スポーツの価値を守り、創り、伝える」に基づき、アスリートの姿を通して、多くの方々に「スポーツが持つ価値」を伝えるとともに、スポーツを通じた明るい未来、よりよい社会づくりに貢献することを目的に効果的な発信をしています。アスリートの素顔や競技の魅力を広く伝えるコンテンツを多く配信し、スポーツやアスリートを身近に感じてもらうことを目指しています。



Website	https://www.joc.or.jp
YouTube	TEAMJAPAN
Instagram	teamjapanjoc
X	TeamJapan
TikTok	japan_olympic
Facebook	Team JAPAN
LINE	team_japan

ラジオ番組「MY OLYMPIC」

JAPAN FM NETWORK (JFN) 加盟のFMラジオ全局の協力を得て、1999年からJOC企画スポーツ番組「MY OLYMPIC」を放送しています。オリンピック競技大会出場経験のあるアスリートから、将来オリンピック競技大会出場が期待されるジュニアアスリートまで、オリンピック競技大会に出場して得たものや、出場を目指すアスリートたちが日々感じること、オリンピック競技大会出場にかかる夢や情熱、また競技の楽しさを語っていただいています。

●ナビゲーター	荒川 静香、高橋 尚子
●放送局	JFN 全国 38 局ネット
●放送時間	6:55 ～ 7:00
●企画	公益財団法人日本オリンピック委員会
●制作	JAPAN FM NETWORK 加盟各社

※ JOC 公式ホームページ <https://www.joc.or.jp>

ジャーナリストセミナー

オリンピック・ムーブメント推進事業の一環として、メディアと競技団体（NF）の相互理解を推進することを目的に開催しています。

2023年4月25日	●基調講演／「社会課題解決の手段としてのスポーツ」 JOC ハイパフォーマンスマネージャー／ JUDO's 理事長：井上康生
テーマ 「スポーツとSDGs」	●パネルディスカッション／「スポーツにおける SDGsについて考える」 JOC ハイパフォーマンスマネージャー／ JUDO's 理事長：井上康生 独立行政法人国際協力機構（JICA）青年海外協力隊事務局専任参事：勝又 晋 アスリート（パラトライアスロン）：谷 真海 公益財団法人日本財団ボランティアセンター 参与：二宮 雅也 読売新聞社編集委員：結城 和香子 ファシリテーター（日本スポーツ記者協会事務局長）：正田 裕生



スポーツ環境保全活動

JOCではTEAM JAPANや競技団体（NF）を通じて環境保全のメッセージを伝えたり、競技会場にポスターや横断幕を掲示する等、一人でも多くの方に環境保全の大切さを知ってもらい、いつもまでもスポーツを楽しめる地球環境を守るためのさまざまな活動を進めています。2024年2月、JOCはパリ協定を受けて国連気候変動枠組条約（UNFCCC）とIOCの主導のもと発足した「スポーツ気候行動枠組み（Sports for Climate Action Framework）」に署名し、5つの原則に基づいた活動に取り組んでいます。さらに、環境理念及び行動指針を公表し、具体的で実効性のある活動のため、「JOC環境行動計画及び行動リスト」を作成しました。

スポーツと環境カンファレンス

地域のスポーツ関係者とともに、環境保全の必要性とその実践方法をスポーツ関係団体の具体的な実践例を交えて学ぶことを目的として、年に1度、JOC パートナー都市をはじめとした協力団体と共催し「JOC スポーツと環境・地域セミナー」を実施してきました。2021年度より、公益財団法人 日本スポーツ協会（JSPO）と共催し、「スポーツと環境カンファレンス」として、加盟団体関係者を含む参加者とともに、環境保護の必要性やSDGsについて考え、どのように実践するかを学ぶことや、啓発・実践活動に関する最新情報の提供を目的に開催しています。



令和5年度スポーツと環境カンファレンス	
日程	2024年1月31日（水）
場所	JAPAN SPORT OLYMPIC SQUARE
参加オリンピック	井本 直歩子（水泳／競泳）
内容	オープニングレクチャー（全体趣旨説明、講師紹介）、競技団体における環境保全活動事例紹介（公益財団法人日本トリアスロン連盟）、企業による事例紹介（三井不動産株式会社、ミズノ株式会社）、パネルディスカッション

令和6年度スポーツと環境カンファレンス	
日程	2024年12月4日（水）
場所	JAPAN SPORT OLYMPIC SQUARE
参加オリンピック	齋藤 里香（ウエイトリフティング） 皆川 賢太郎（スキー／アルペン）
内容	オープニングレクチャー（全体趣旨説明、講師紹介）、環境保全活動事例紹介（滋賀県文化スポーツ部、横浜市）、パネルディスカッション、グループディスカッション

● 各種製作物

環境保全啓発ポスター

環境保全啓発を目的としたポスターを作製しています。ポスターと電子データを JOC加盟団体や関係団体へ配布し、主催事業や大会の会場に掲示、大会のパンフレット等にもポスターデザインを掲載し、スポーツ界が一丸となった環境保全啓発活動を展開しています。

環境保全啓発横断幕

環境保全啓発を目的とした横断幕を作製し、JOC加盟団体へ貸出を行っています。主催事業や大会の会場に掲示し、参加者・来場者に対する環境保全啓発活動を展開しています。



スポーツと環境に関するアスリートメッセージ映像

環境省が推奨する「COOL CHOICE」普及啓発事業と連携し、スポーツと環境に関するアスリートメッセージ映像を制作しています。JOC事業をはじめ、競技団体が主催する大会やイベント会場のオーロラビジョンでの放映や、公式ウェブサイト、SNSを通じて、スポーツ界の環境啓発を図ることを目的としています。



アスリートの育成・支援

“憧れられるアスリート”が
育つ環境をつくっていく。

選手強化、強化スタッフの育成・支援

●選手強化中長期戦略プロジェクト

JOC Vision 2064と中期計画に基づき、ひとりでも多くの「憧れられるアスリートの育成」を目指し、本プロジェクトでは、3つのワーキンググループを設置し、2023年度より取り組みを本格的に開始しています。

アスリートワーキング

「アスリート・アカデミー」を通して、トップアスリートのさらなる活躍およびジュニア期から一貫した成長環境の構築や、体系的に学べる制度の整備を進めています。具体的には、オリンピック強化指定選手やオリンピックネクスト強化指定選手を対象としたオンライン研修会や社会貢献活動を実施することで、アスリートのサポートを強化しています。



指導者ワーキング

ハイパフォーマンスディレクターとハイパフォーマンスアシスタントディレクターを主な対象とし、指導者やコーチの継続的な育成と安定した指導体制の構築を目指しています。オンライン研修会や指導者が一堂に会するフォーラムを通じて、指導者同士の情報共有や成長を促しています。



データ&テクノロジーワーキング

競技力向上のために先端技術やデータの活用を推進し、各分野での現状把握や課題の抽出を行っています。この取り組みを通じて、関係するステークホルダーへの効率的且つ効果的な情報発信、業務効率化の実現を目指しています。今後もプロジェクトの更なる発展に向けて活動を続けていきます。

●競技力向上事業 (2024年度実績)

オリンピック実施競技団体等のオリンピック強化指定選手・ナショナルチーム等を中心としたトップレベルにある選手の強化を図るために国内外における強化合宿、国外で開催される競技大会へのチーム派遣等を実施しています。また、次々回のオリンピックで活躍が期待できる選手の育成・強化事業やDXを活用した新たな選手強化活動を行う事業を実施しています。

●選手強化活動事業	56団体／763事業
●コーチ力強化事業	20団体／90事業
●次世代アスリート育成強化事業	41団体／443事業
●強化活動のDX促進支援事業	27団体／34事業

●コーチ等設置事業 (2024年度実績)

オリンピック競技大会等の国際総合競技大会での成果を上げるべく、また長期一貫の強化対策に基づきアスリートの育成・強化のために、本会ならびに本会加盟オリンピック実施競技団体に対し、ハイパフォーマンスディレクター、ナショナルヘッドコーチ、ナショナルチームコーチ、メディカルスタッフ、情報科学スタッフ等を設置しています。

●ハイパフォーマンスディレクター等の設置	83名
●コーチ等の設置	292名
●スタッフ等の設置	170名

スタッフ会議（コーチ会議、情報・医・科学合同ミーティング）等、各競技におけるコーチ等の相互研修・情報交換等を通じて指導力の向上と指導体制の充実を図るため、開催しています。各NFの強化責任者をはじめ、強化スタッフ（コーチ、メディカル、マネジメント等）が国際競技力向上に向けて主体的な取り組みを行えるよう、競技間連携の推進に力を入れており、異なる競技の情報共有や協力を通じて、全体的な競技力の向上を図っています。

会議名	令和5年度 コーチ会議
日程	2023年12月11日
場所	グランドプリンスホテル新高輪
参加者数	約200名

会議名	令和6年度 コーチ会議
日程	2024年11月11日
場所	グランドプリンスホテル新高輪
参加者数	約270名



●民間スポーツ振興費等補助事業 (2024年度実績)

国際総合競技大会へのTEAM JAPAN派遣を中心に、その関連選手強化事業として、安全対策のための事前調査や、日韓両国の親善・友好を図るとともに日本選手の競技力向上を図るため、トップレベルの選手による日本・韓国での合同合宿及び交流協議会を実施しています。また、国際競技大会におけるわが国のプレゼンスを高め日本代表選手の活躍および競技環境を向上できるよう、優秀かつ公正な判定能力を有する日本人の国際審判員等の養成を図っています。

●日韓競技力向上スポーツ交流事業	9競技19事業
●国際審判等養成プログラム	26競技60事業

●選手発掘育成事業

JOC エリートアカデミー

味の素NTCを含むハイパフォーマンススポーツセンター（HPSC）に備わる機能を最大限に活用して、オリンピックで活躍するとともに充実した人生を歩み、社会課題解決にも貢献しながら、憧れの存在となるアスリートの土台を築くことを目的としています。当アカデミーは中学1年生から高校3年生までの選手を対象とし、レスリング、卓球、フェンシング、ライフル射撃、ローイングおよびアーチェリーの6競技で22名（2024年4月時）が在籍して活動しています。また、各競技団体が実施する独自アカデミーのうち、スピードスケートアカデミー（JSFアカデミー）と連携した活動も実施しています。

活動内容

目指すアスリート像に向けて、HPSCを中心とした環境の中で、競技団体とともに「競技力」と「人間力」をバランスよく向上させるために、以下のような取り組みを実施しています。

競技力	◆競技団体が策定するアスリートパスウェイに基づいた選手の競技力向上 ◆選手の競技専門性を理論的かつ実践的に高めるプログラムの提供 ◆選手が海外に視野を広げた活動ができるよう語学や海外研修等の開設
人間力	◆選手が基礎知識や他者との関係性を深めることができるよう、学校と連携した学業生活の充実や必要なプログラムの提供 ◆選手が自らを律し、自身で生活できる力を体得するため、寄宿生活を実施 ◆選手が将来を展望する力を醸成するため、進路プログラムやオリンピック・OBOG 講話の機会の提供 ◆選手がオリンピックムーブメントの推進に寄与するとともに、社会課題解決に貢献できるよう、オリンピズムや社会課題に関連するプログラムを開設



●アスリート及び指導者のキャリア支援事業

JOC キャリアアカデミー

日本のトップアスリートのキャリアを支援

JOCキャリアアカデミー事業は、アスリートが競技引退後の不安を払拭し、競技に集中して更なる競技力向上が図れるように、現役時代から就職支援、キャリアカウンセリング、教育研修を行っています。本事業は、①アスナビ、②研修・教育中心に活動しています。

1 トップアスリート就職支援ナビゲーション「アスナビ」

「アスナビ」は JOCが行う無料職業紹介事業として 2010年より開始いたしました。就職による生活の安定や、仕事を通して社会人基礎力を身に着けられるアスリートにとつての「Win」と、組織の一体感、エンゲージメントの向上を狙いとしてアスリートの雇用を検討する企業の「Win」をマッチングによって成立。双方の「Win-Winの関係」を築いています。各経済団体のご支援を頂きながら、アスリートと企業を引き合わせるアスナビ説明会を年10回程度実施しています。（2025年3月現在 延べ236社・団体424名）



2 教育・研修

アスリートが自分について深く考えるための「自己分析」や「目標設定」、チームメイトや自分を支えてくれる周囲への共感力を高めるための「チームビルディング」等各競技団体の課題やニーズに応じた研修を実施しています。また、先輩アスリートの講話に基づき、現役選手やコーチ・スタッフなどの参加者が語り合う「キャリアワークショップ」も開催しています。



● スポーツ指導の養成・活用事業

JOCナショナルコーチアカデミー

「JOCナショナルコーチアカデミー（NCA）」は2022年に国が策定した「第3期スポーツ基本計画」において、「各競技種目のトップコーチ等を対象とした演習・講義等により、「コーチング」「マネジメント」「コミュニケーション」等のカリキュラムやケースメソッドを通して経験や知見を交換し合える環境を作ることで、オリンピックを始めとする大規模国際競技大会に派遣するコーチ・スタッフの更なる資質向上を図る事業」として説明されています。そして、本事業の理念の理解増進や他組織の指導者養成事業との連携等を進めるとともに、質の高い指導者の養成を支援することが明記されました。JOCでは、オリンピックをはじめとする国際競技大会で活躍できる選手を育成・指導する、ワールドクラスのコーチおよび各種スタッフの養成を目的に、JOCが認定するナショナルヘッドコーチ・ナショナルチームコーチや各競技団体の強化スタッフ等を対象に実施。プログラムは、受講者、講師間の双方向による情報交換を主体に、コーチングに必要な知識の他、ディベート実習、プレゼンテーション実習、戦略的コミュニケーション等で構成。修了者に対するフォローアップも実施しています。

活動内容		
コンセプト	elite	日本の代表としての品性・資質を兼ね備えた真のトップコーチを育成する。
	professional	職業観・倫理観・社会的責任において、専門家としての誇りを持つコーチを養成する。
	global	日本としての戦い方を追求するとともに、「国際基準」を踏まえた戦略、強化指導を行うことができ国際舞台で活躍できるコーチを育成する。
	interactive	知識や情報の一方通行ではなく、受講者と講師、受講者間の双方向による情報交換を主体とする。また指導現場において選手および指導者間との双方向を意識できる指導者を養成する。
	TEAM JAPAN	競技の枠を超えた交流・連携を通し、日本スポーツ界の発展を目指す。

■これまでの実績（2007年度～2024年度）

708名（正規 521 名、特別移行 97 名、外国籍 90 名）	
参加競技	陸上競技、水泳、サッカー、スキー、テニス、ローイング、ホッケー、ボクシング、バレーボール、体操、バスケットボール、スケート、アイスホッケー、レスリング、セーリング、ウエイトリフティング、ハンドボール、自転車、卓球、馬術、フェンシング、柔道、ソフトボール、バドミントン、ライフル射撃、近代五種、ラグビーフットボール、スポーツクライミング、カヌー、アーチェリー、空手道、クレー射撃、ボブスレー、リュージュ、スケルトン、野球、カーリング、トライアスロン、ゴルフ、スカッシュ、テコンドー、バイアスロン、ブレイキン、サーフィン、スケートボード

■TEAM JAPAN（日本代表選手団）監督・コーチ等における修了者割合

	リオ(2016)		東京(2020+1)		パリ (2024)	
	NCA 修了者数	全体の割合	NCA 修了者数	全体の割合	NCA 修了者数	全体の割合
チームリーダー	2	16.7%	4名	26.7%	9名	56.3%
監督	18	46.2%	29名	53.7%	21名	61.8%
コーチ	32	29.6%	75名	34.2%	65名	45.1%
総務	4	17.4%	7名	15.2%	4名	16.7%
技術スタッフ	1	20.0%	3名	10.7%	2名	9.5%
監督・コーチ割合	50／147名	34.0%	106／273名	38.8%	86／178名	48.3%

	ソチ (2014)		平昌 (2018)		北京(2022)	
	NCA 修了者数	全体の割合	NCA 修了者数	全体の割合	NCA 修了者数	全体の割合
チームリーダー	0名	0.0%	1名	33.3%	1名	33.3%
監督	1名	7.7%	5名	45.5%	4名	80.0%
コーチ	11名	17.7%	16名	23.9%	27名	50.0%
総務	1名	20.0%	0名	0.0%	0	0.0%
技術スタッフ	0名	0.0%	0名	0.0%	0	0.0%
監督・コーチ割合	12／75名	16.0%	21／78名	26.9%	31／59名	52.5%

● 国際競技力向上に関わる情報提供事業

パリ2024対策プロジェクト、ミラノ・コルティナ2026対策プロジェクト及び情報・医・科学サポートを通じて国際競技力向上に関わる方針、戦略、戦術、施策等の情報をスポーツ関係者に提供することにより各NFの選手育成強化戦略を支援しました。



● アンチ・ドーピング活動推進事業

日本アンチ・ドーピング機構（JADA）並びに日本スポーツフェアネス推進機構（J-Fairness）と連携し、アスリートや強化スタッフ等に対してアンチ・ドーピングの教育および啓発活動を実施しています。特に国際総合競技大会へ派遣する候補選手に対しては、派遣手続きの機会を活用し、アンチ・ドーピング教育を積極的に取り組んでいます。

※本日参加できなかった方のために、本セッションは録画はしています

-パリ2024大会に向けて-

IF-RTP/TP、JADA-RTP

居場所情報提出・更新チェックポイント



公益財団法人 日本アンチ・ドーピング機構（JADA）
教育部

Copyright©JAPAN Anti-Doping Agency



● ナショナルトレーニングセンター管理運営事業

味の素NTCは2008年に東京都北区西が丘地区に建設されたわが国初のトップアスリート専用トレーニング施設です。JOCおよびJOC加盟競技団体に所属するアスリートやスタッフ等が利用しています。また、2019年には新たなトレーニング拠点の構築を目的に全館バリアフリー設計の屋内トレーニングセンター・イーストが竣工されました。これにより、現在東京都北区西が丘地区には、国立スポーツ科学センター（JISS）を含め16競技19種別の専用練習場が設置されています。すべての施設においてオリンピック・パラリンピック競技との共同利用による運用を行っており、トレーニング方法、指導方法等のさまざまな相乗効果を通じて、わが国の国際競技力向上に貢献しています。



● スポーツ指導者海外研修事業

新進気鋭の若手指導者をスポーツ指導者海外研修員として海外に派遣し、その専門とする競技水準の向上に関する具体的な方法について研修させるとともに、海外の選手強化支援、指導者養成の実態について調査、研究に当たらせ、将来わが国のスポーツ界を担う指導者を育成しています。2024年度は、7名の指導者を海外に派遣しました。

● 拠点ネットワーク推進事業

国が指定しているナショナルトレーニングセンター競技別強化拠点（競技別 NTC）について、トレーニングや医・科学・情報サポートが各競技特性に合わせて効果的に実施されるよう、環境整備や体制構築に対するコンサルティング活動を行っています。また、各地に設置されている競技別NTCが他競技の情報収集や競技間連携を円滑に行えるよう、「競技別NTC事業概要説明会」や、「競技別NTC合同ミーティング」を開催し、国内外のスポーツの動向や NTCとしての取り組み等、選手強化に役立つ最新情報を広く共有しています。

ナショナルトレーニングセンター競技別強化拠点

味の素ナショナルトレーニングセンターでは対応できない、「冬季競技」、「海洋・水辺系競技」、「屋外系競技」、「高地トレーニング」等について、国は 国内の既存施設をナショナルトレーニングセンター競技別強化拠点に指定しています。

①札幌市ジャンプ競技場(大倉山、宮の森)
スキー／ジャンプ

②西岡バイアスロン競技場
バイアスロン

③nepiaアイスアリーナ(苫小牧市白鳥アリーナ)
アイスホッケー

④明治北海道十勝オーバル(帯広の森屋内スピードスケート場)
スケート／スピードスケート

⑤白馬ジャンプ競技場および白馬クロスカントリー競技場
スキー／ノルディック複合

⑥長野市ボブスレー・リュージュパーク「スパイラル」
ボブスレー・リュージュ

⑦長野市オリンピック記念アリーナ「エムウェーブ」
スケート／スピードスケート

⑧帝産アイススケートトレーニングセンター
スケート／ショートトラック

⑨軽井沢風越公園カーリングホール(軽井沢アイスパーク)
カーリング

⑩関空アイスアリーナ
スケート／フィギュアスケート

⑪管平高原バインビークスキー場
スキー／アルペン、スキー／スノーボード(パラレル大回転)

⑫東北クエスト
スキー／フリースタイル(スロープスタイル・ビッグエア)
スキー／スノーボード(スロープスタイル・ビッグエア)

⑬青森スプリング・スキーリゾート
スキー／フリースタイル(ハーフパイプ)
スキー／スノーボード(ハーフパイプ)

⑭ウォータージャンプ宮城
スキー／フリースタイル(モーグル)

①和歌山マリーナ(ディンギーマリーナ)
セーリング

②海の森水上競技場
ローイング

③カヌー・スラロームセンター
カヌー／スラローム

④木場湯カヌー競技場
カヌー／スプリント

⑤静波サーフスタジアムPerfectSwell®
サーフィン

①飛騨御嶽高原高地トレーニングエリア
高地トレーニング

②蔵王坊平アスリートヴィレッジ
高地トレーニング

①日環アリーナ栃木屋内水泳場
水泳／飛込

①Jヴィレッジ
サッカー

②川崎重工ホッケースタジアム
ホッケー

③御殿場市馬術・スポーツセンター
馬術

④熊谷スポーツ文化公園
ラグビーフットボール

⑤フェニックス・シーガイア・リゾート
ゴルフ

⑥リソルの森
近代五種

⑦川崎市港湾振興会館(川崎マリエン)ビーチバレーコート
バレーボール／ビーチバレーボール

⑧日本サイクルスポーツセンターおよびJKA250
自転車

⑨フェニックス・シーガイア・リゾートおよび周辺エリア
トライアスロン

⑩ライトBMXパーク
自転車／BMXフリースタイル

⑪葛飾区東金町運動場スポーツライミングセンター
スポーツクライミング

⑫ブルボンスケートパーク村上(村上市スケートパーク)
スケートボード

● アントラージュに関する取り組み

「アントラージュ」とはフランス語で取り巻き、環境という意味で、競技環境を整備し、アスリートがパフォーマンスを最大限発揮できるように連携協力する関係者のことを定義しています。下記を目的に活動を実施してきました。

2013年第3回理事会（2013年6月28日開催）			
1	選手に最善の環境を提供する活動に関すること	2	選手の健康、社会的発展と倫理の保護に関すること
3	選手を支援するすべての関係者の連携及び連絡調整に関すること	4	選手、コーチ及び選手を支援するすべての関係者の教育・研修に関すること

1 ジュニアアスリート保護者向け映像教材の作成

オリンピックや、彼らを支えてきた保護者・指導者を対象に、今まさにアスリートを育てている“アントラージュ”を支援するため、オリンピックや保護者・指導者の実際の事例を取り入れた映像教材を、合計16本作成しました。



2 JOCいしかわ女性スポーツシンポジウム

女性のスポーツ参加を促進し、健康の維持・増進につなげるとともに、その意義を広く発信することを目的として、「女性スポーツ振興の意義」をテーマにした基調講演、「石川県におけるスポーツ習慣化への取り組み」についての実例紹介、パネルディスカッションを実施しました。



3 強化指定選手アンケート調査

「競技内・外における不安や悩み」、「セカンドキャリア」、「女性アスリートに関する内容」、「ハラスメント」、「盗撮などの被害」の5項目をテーマとして、2024年度オリンピック強化指定選手約1,800名を対象に実施しました。2025、2026年度の取組みについて、以下のとおり実施予定です。

セーフスポーツ	セーフスポーツに関する情報の共有及び整理
セミナー	保護者セミナーや女性スポーツセミナー（愛知・名古屋アジア大会と関連したイベント）
JOC 内部連携	アントラージュ専門部会とアスリート委員会や医科学との連携会議の実施
JOC 外部連携	各団体（JSPO・HPSC・JPC・笹川スポーツ財団等）の共通する活動の情報共有、OCA Gender Equity Seminarへの参加）
JOC 表彰制度	JOCスポーツ賞規程等の見直し

● アスリートへの写真・動画による性的ハラスメント防止の取り組みについて

アスリートの盗撮については、室内・屋外競技等の競技特性や、大会の規模などによって状況が異なるため、これまで競技毎に対応してきました。しかしながら、単一競技団体だけでの対応には限界があり、SNS等のツールの発達に伴い、競技大会等での盗撮に留まらず、通常の競技写真に卑猥な言葉を加えて投稿・拡散する等、性的目的の写真・動画の悪用が多様化している状況にあります。改めてアスリートが安心して競技に取り組める環境を守る姿勢を明確にすることが、東京2020大会以降も多くの方にスポーツに親しみ、楽しんでいただくうえで不可欠と考え、アスリートを支える立場であるスポーツ関連団体が協力し、スポーツ界全体でこの問題に取り組んでいます。

アスリートの盗撮、写真・動画の悪用、悪質なSNS投稿は卑劣な行為です。

スポーツは、子供から大人まで誰もが楽しめるものです。そのためにも安心してスポーツに取り組める環境を守っていく必要があります。盗撮はもちろん、アスリートの写真・動画を悪用した性的目的のSNS投稿やWEB掲載は、アスリート、特に多くのファン、家族、関係者等を傷つける深刻な被害をもたらします。すべてのアスリートが競技に集中し、スポーツを心から楽しめる環境を守るため、スポーツ界全体でこの問題に取り組めます。

大会における盗撮防止要綱を共有し、各大会での防止策の取り組みを推進します。

被害等を減じ、アスリート自身がネットやSNSで身を守る必要性を啓発していきます。

SNS投稿やWEB掲載の被害被害に負め、関係者等に共有していきます。

この問題を解決するには皆さんのご理解が欠かせません。これからも安心してスポーツができる環境を守るために、ご理解ご協力をお願いいたします。

安全な環境を、すべてのスポーツ愛好者のために。SAVE ATHLETES, SAVE SPORT.

大会会場で盗撮等が疑われる行為を見かけましたら大会主催者にお知らせください。アスリートを傷つける性的目的のSNS投稿やWEB掲載を見かけましたら下記サイトよりご連絡ください。今後の対応に活用するとともに、悪質な事例については当局への通報も検討します。

<https://www.joc.or.jp/about/savesport/>

盗撮は迷惑防止条例で犯罪として処罰される可能性があります。

SNS等で本人の名誉を傷つける書き込みは犯罪(名誉毀損罪)として処罰される可能性があります。

匿名による投稿であっても、法的手段により、投稿者が特定され、損害賠償請求の対象になる可能性があります。

公益財団法人 日本オリンピック委員会 公益財団法人 日本スポーツ協会 公益財団法人 日本バススポーツ協会 一般社団法人 大学スポーツ協会 公益財団法人 全国高等学校体育連盟 公益財団法人 日本中学校体育連盟 独立行政法人 日本スポーツ振興センター

国際交流の推進

スポーツの力を、
国際平和と友好のために使っていく。

● 誹謗中傷からアスリートを守るための法務等支援事業

2025年3月より、JPCとの協働の取組みとして、相談窓口の設置を含むアスリートへのサポート、各競技団体と連携した教育活動、SNS等による誹謗中傷を抑止するための広報・啓発活動、アスリートを守るための人材（セーフガーディングオフィサー等）の育成、各種SNS等のモニタリングなど、積極的な取組みを実施しています。

法務サポート	相談窓口の設置、アスリートへの誹謗中傷等への法的措置等の対応
広報・啓発	JOC、JPCが中心となり、広報誌媒体や映像を活用した広報・啓発を図る。
教育・研修	各競技団体と連携した教育活動の実施
人材育成	セーフガーディングオフィサー等アスリートを守る人材の育成
監視機能	各種SNS等のモニタリングの実施

その道のりに、
賞賛を

Greatness Deserves
Respect

STOP
誹謗中傷

Say NO to Hate



Japanese Olympic Committee



Japanes Olympiic Committee

SAVE THE SPORTS

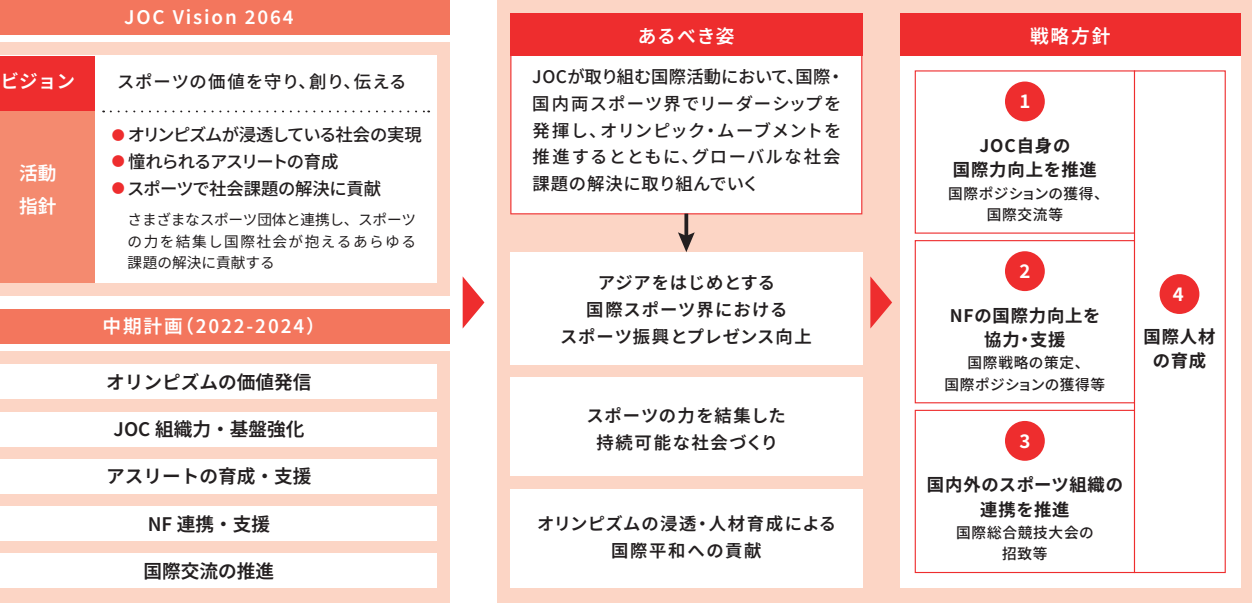
国際戦略

● 基本方針

過去JOCでは、ゴールドプランや同STAGE II を発表し、競技力向上につながる国際力の強化のための具体的な施策を提示。自国開催である東京 2020大会では、金メダル数は世界3位となる27個を獲得し、競技力向上に向けた国際力の強化は一定の成果を成し遂げました。2021年「JOC Vision 2064」で長期的に追い求める“ありたい姿”である「スポーツで社会課題の解決に貢献」等を示し、翌2022年には「JOC 中期計画 2022-2024」を発表し、国際交流の推進やJOC組織力・基盤強化などの方針を示しました。上記を踏まえ、2022年度の国際委員会において、ワーキンググループを設置して議論を行い、今後のJOC国際戦略のあるべき姿や、実現に向けた基本方針をまとめ、「第2次JOC 中期計画 (2025-2028)」へ反映しました。

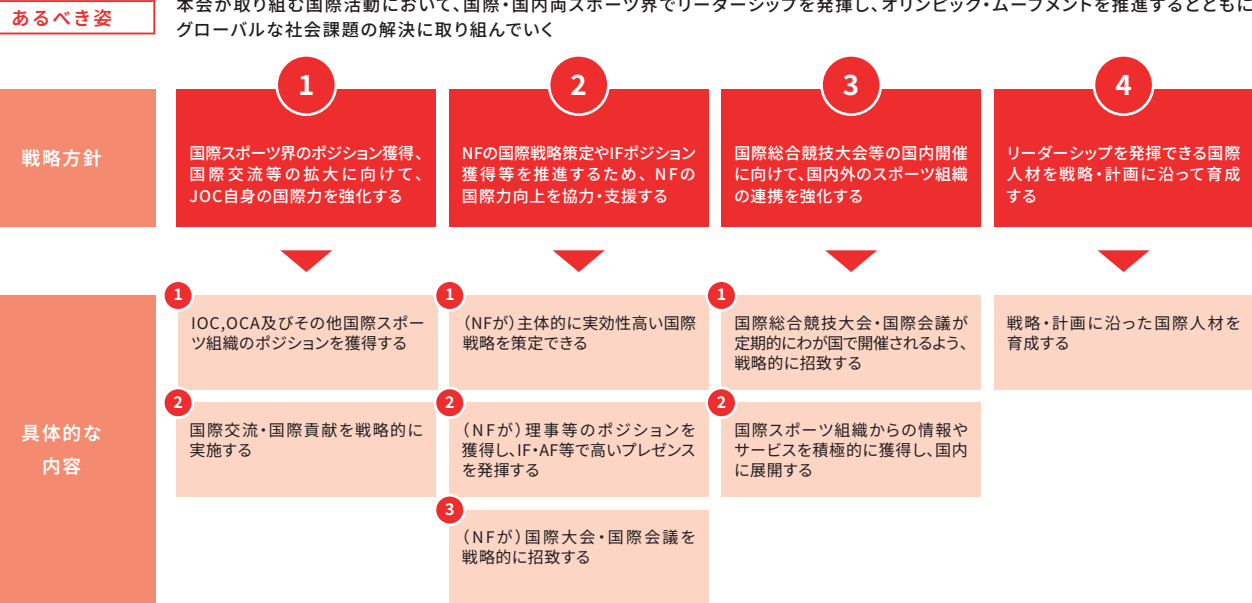
国際戦略の基本方針

① 国際戦略の位置づけ



Copyright © Japanese Olympic Committee All Rights Reserved.

② 戦略方針に沿った主な内容



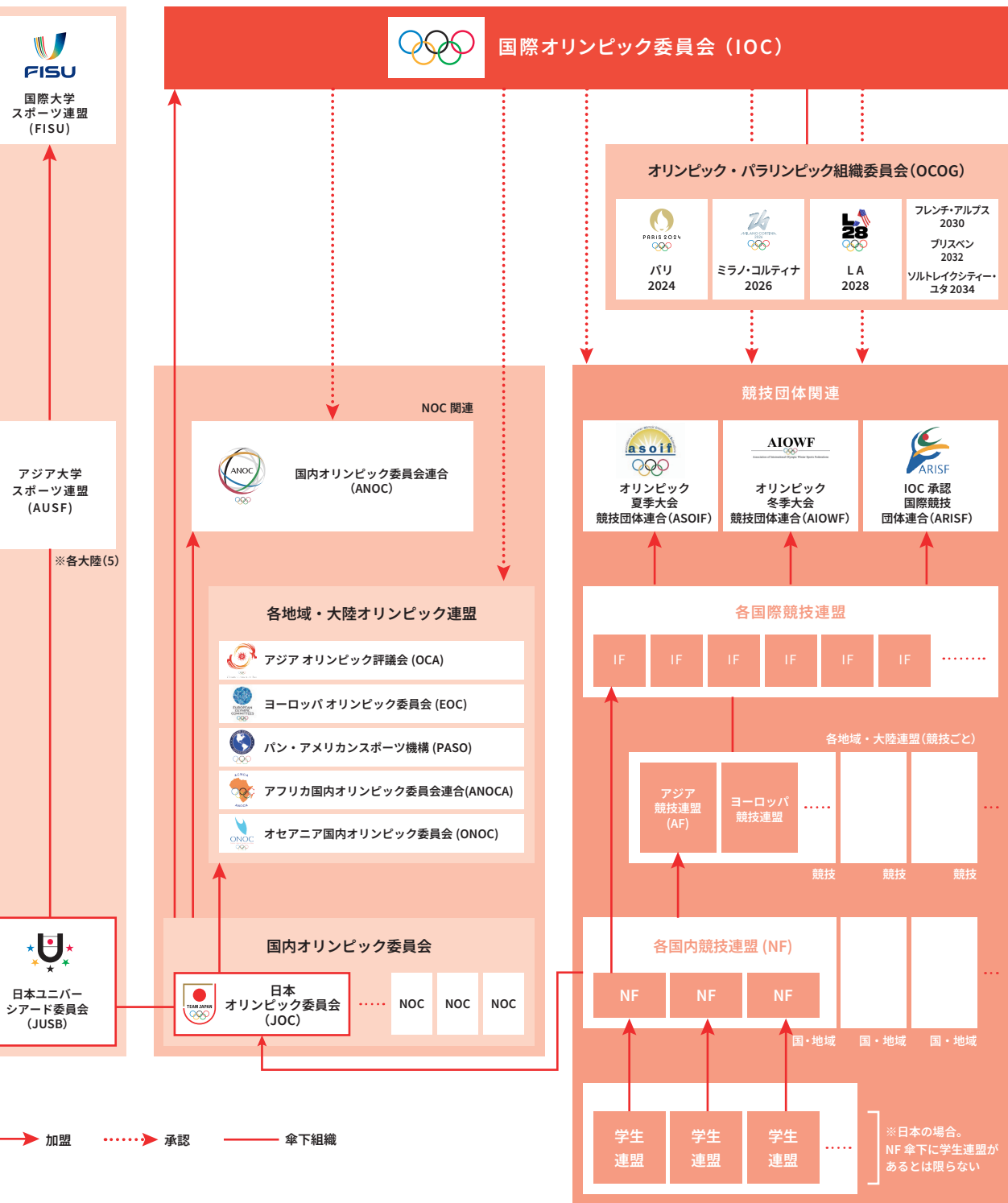
Copyright © Japanese Olympic Committee All Rights Reserved.

国際連携

● 国際スポーツ組織

JOCは、IOC、国内オリンピック委員会連合 (ANOC)、OCA、国際大学スポーツ連盟 (FISU) 等の国際スポーツ統括組織からの情報収集、パートナーNOCを始めとする各国・地域のNOCとの関係強化に努めるとともに、国際貢献、人脈形成、人材育成等にも取り組み、スポーツにおける国際力強化、日本のプレゼンス向上につなげています。

国際スポーツ組織関係概要図



国際スポーツ組織との関係強化並びに人材育成

● 国際スポーツ組織の日本関係者就任状況

2025年3月末日

組織	委員会等	役職	氏名	本会役職等
IOC	IOC委員	-	山下 泰裕	会長／(柔道IF理事)
	アスリートアントラージュ委員会	委員		
	IOC委員	-		
	LA2028 調整委員会	委員	渡辺 守成	理事／(体操IF会長)
	ジェンダーイクオリティ、ダイバーシティとインクルージョン委員会	委員		
	IOC委員	-		
	アスリート委員会	委員	太田 雄貴	国際委員会副委員長／ (フェンシングIF理事)
	ジェンダーイクオリティ、ダイバーシティとインクルージョン委員会	委員		
			小谷 実可子	常務理事
	ミラノ・コルティナ2026 調整委員会	委員	マセソン 美季	－
	Eスポーツ委員会	委員	滑川 真二	－
		委員	八木 由里	理事
		委員	キャロライン・ベントン	(筑波大学副学長)
	オリンピック教育委員会	委員	田中 ウルヴェ京	－
OCA (2024-2028)	収益とコマーシャルパートナーシップ委員会	委員	有森 裕子	－
	オリンピズム365委員会	委員	小谷 実可子	常務理事
	理事会	理事	戸邊 直人	アスリート委員会委員
	アスリート委員会	委員	河野 孝典	－
	愛知名古屋アジア大会調整委員会	委員	横井 裕	副会長／国際委員会委員長
	ハルビン2025アジア冬季大会調整委員会	委員	岡本 秀樹	－
	国際関係委員会	委員	小林 伸介	－
	Eスポーツ委員会	委員	土肥 美智子	理事／選手強化本部 情報・医・科学専門部会長
	メディア委員会	委員		
		委員		
	医事委員会	委員	井上 康生	選手強化本部選手強化事業専門部会員
	スポーツ委員会	委員	栗原 美津枝	理事／OM事業専門部会長
	スポーツと環境委員会	委員	伊藤 華英	OM事業本部アントラージュ専門部会員／ アスリート委員会副委員長
	教育委員会	委員		
		委員		
	ジェンダー公平性委員会	委員	杉山 文野	理事／OM事業本部アントラージュ 専門部会員
EAOC (2023-2027)	評議会	評議員	横井 裕	副会長
	医事委員会	委員	中嶋 耕平	情報・医・科学専門部会 医学サポート部門 副部門長
	ルールとスポーツ委員会	委員	川廷 尚弘	国際委員会委員
WOA (2021-2024)	世界オリンピックス協会	副会長	小谷 実可子	常務理事
FISU (2023-2027)	理事会	理事	鈴木 大地	理事／JUSB委員長
	国際医事委員会	委員	渡部 厚一	アンチドーピング部会員
	国際管理委員会	委員	石川 宣治	国際部長
AUSF (2023-2027)	理事会	理事	鈴木 大地	理事／JUSB委員長

※原則、各組織の名簿順にて記載

● オリンピック実施競技における日本人IF役員一覧

2025年3月末日

No.	I F		IF本部所在地	氏名	I F役職
1	陸上競技		モナコ	1 有森 裕子	理事
2	水泳		スイス／ローザンヌ	2 鈴木 大地	理事
3	サッカー		スイス／チューリヒ	3 田嶋 幸三	理事
4	スキー		スイス／オーバーホーフェン・アム・トゥナジ	4 村里 敏彰	副会長
5	テニス		イギリス／ロンドン	5 川廷 尚弘	理事
6	ローイング		スイス／ローザンヌ	6 細淵 雅邦	理事
7	ホッケー		スイス／ローザンヌ	7 小倉 文雄	理事
8	バレーボール		スイス／ジュネーブ	8 安西 浩哉	理事
9	体操		スイス／ローザンヌ	9 佐伯 裕二	理事
				10 渡辺 守成	会長
10	バスケットボール		スイス／ジュネーブ	11 八木 タミー	委員会委員長
11	スケート		スイス／ローザンヌ	12 三屋 裕子	理事
12	ウエイトリフティング		スイス／ローザンヌ	13 松村 達郎	理事
				14 三宅 宏美	理事
13	ハンドボール		スイス／バーゼル	15 渡辺 佳英	副会長
14	卓球		スイス／ローザンヌ	16 佐久間 克彦	委員会委員
15	馬術		スイスローザンヌ	17 前原 正浩	副会長
16	フェンシング		スイス／ローザンヌ	18 八木 由里	FEIトリビューナル
				19 太田 雄貴	理事
17	柔道		スイス／ローザンヌ	20 山下 泰裕	理事
				21 上村 春樹	理事
18	バドミントン		マレーシア／クアラルンプール	22 銭谷 欽治	理事
19	射撃	ライフル射撃	ドイツ／ミュンヘン	23 松丸 喜一郎	理事
20	ラグビーフットボール		アイルランド／ダブリン	24 岩淵 健輔	理事
				25 香川 あかね	理事
				26 土田 雅人	理事
21	スポーツクライミング		イタリア／トリノ	27 小日向 徹	副会長
22	カヌー		スイス／ローザンヌ	28 古谷 利彦	理事
23	アーチェリー		スイス／ローザンヌ	29 大倉 有子	理事
24	野球・ソフトボール	野球	スイス／ローザンヌ	30 山中 正竹	理事(野球専門)
		ソフトボール		31 六角 彩子	理事
				32 宇津木 妙子	理事
25	トライアスロン		スイス／ローザンヌ	33 大塚 真一郎	副会長
26	ゴルフ		スイス／ローザンヌ	34 平山 伸子	理事
27	サーフィン		アメリカ／カリフォルニア	35 井本 公文	理事

● スポーツ国際展開基盤形成事業 (IF等役員ポスト獲得支援事業ほか) ※スポーツ庁より委託

国際競技大会において、日本代表選手が十分に力を発揮し活躍できるようにするためには、国際競技連盟 (IF) 等における日本人役員の数を増やし、スポーツ界における我が国の発信力を高めるとともに、国際的なルール作り等の決定過程に積極的に参画していくことが重要です。そこで、JOCでは、スポーツ庁の委託を受け、NF等の優れた人材によるIF等の役員ポスト獲得に向け、各NFに対して国際競技大会・国際会議等の機会を活用した選挙活動に必要なサポートを実施しています。また、役員候補者などを対象に、海外コンサルタント等によるIF役員選挙対策も実施しています。



＊2024年度NF向け説明会風景 2024.6.6

● JOC／NF国際情報共有会

JOC国際戦略の基本方針に基づき、NFの国際戦略策定やIF・AFポジション獲得などを推進するために、2024年度は2回のJOC／NF国際情報共有会をそれぞれ約100名の参加者のもと開催しました。会議終了後には、情報交換会及びネットワーキングを実施し、IF役員やNFの横の連携を図る機会を作りました。

2024年度 第1回	
日時	2024年11月29日 (金) 13:00～15:30
場所	Japan Sport Olympic Square14 階「岸メモリアルルーム1～3」
内容	「JOCの国際戦略とバリ2024オリンピックでの取組」「NFの国際活動」
2024年度 第2回	
日時	2025年2月28日 (金) 16:00～19:00
場所	Japan Sport Olympic Square14 階「岸メモリアルルーム1～3」
内容	「NFの国際連携活動」「IFでのポジション獲得に向けて」「IF役員座談会」等



＊第1回の様子



＊第2回の様子 (IF役員座談会)

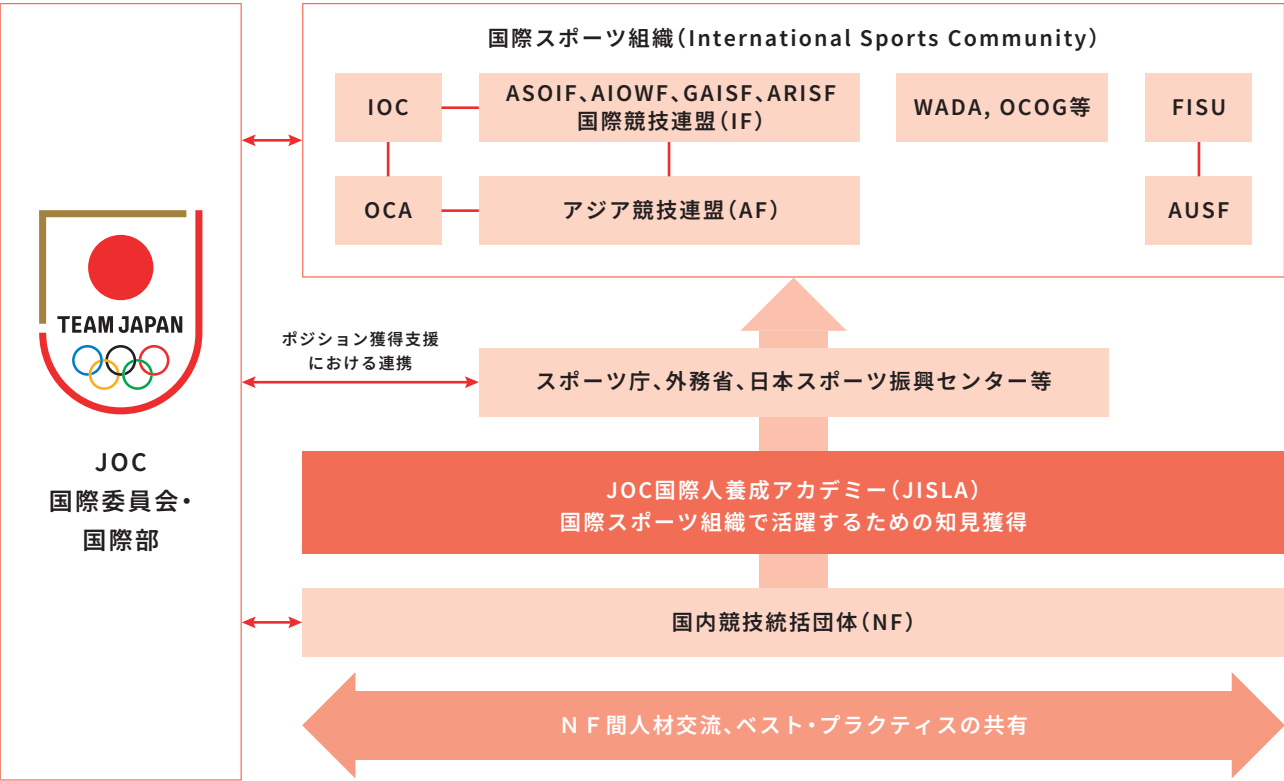
● 国際人養成アカデミー（JISLA）

1 アカデミー概要

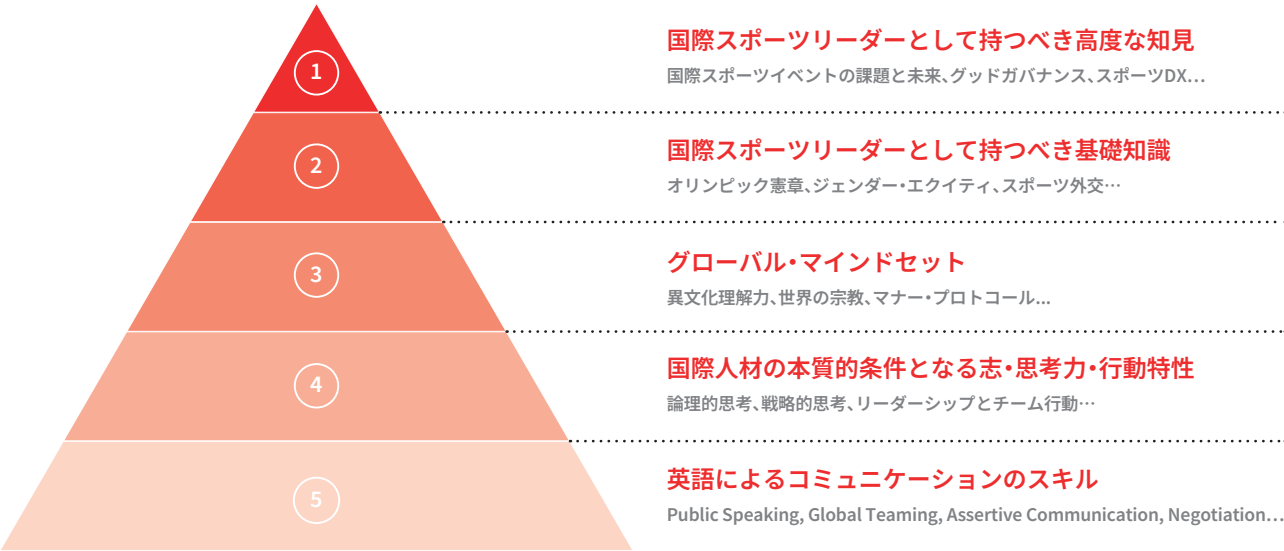
ねらいと目的	本アカデミーは、国内スポーツ組織が国際スポーツ組織との関係を強化することへの支援を目的にした、人材の国際力向上を図る人材育成事業です。本事業を通じて、所属する国内スポーツ組織を代表して国際スポーツ組織において影響力を発揮し、所属組織のプレゼンスを高めることができる人材の育成を目指しています。		
対象者	(1) JOC、JOC加盟団体から推薦される下記の者		
	1	将来、所属団体を代表してIOC、OCA、IF/AF等の国際スポーツ組織における役員や専門委員会委員（審判、競技ルール、医事、コーチング、マーケティング等）、審判、競技役員、事務局員、あるいは国際競技大会の運営ディレクター等に就任し、その団体や組織にて影響力を発揮していくことを目指す具体的な計画がある者。あるいはそれを目指して研鑽を積むことができる者。	2 所属組織の国際化を推進する者、国際スポーツ組織とのコミュニケーションの窓口となる者、あるいは国際スポーツ組織の役員や専門委員会委員への就任を目指す候補者を様々な支援する者などの、国際関係担当者。
	(2) その他 JOCが認めた者		
実施形式	3日間（金・土・日）の講義および実習を8週間＝合計24日間に渡り開催。		
実施場所	味の素ナショナルトレーニングセンター、Japan Sport Olympic Square 他		

IF・AF等国際スポーツ組織への人材輩出

期待される成果



国際人材の必要要件モデルに基づいたカリキュラム



日本オリンピックミュージアムの見学が組み込まれた講義もあった



英語で学ぶ実践的な国際コミュニケーション演習



講義を聞くだけでなく、自ら考えることを求められることが多い



様々なスポーツ団体から受講者が集まっている

2 フォローアップ研修会

例年、アカデミーの修了者を対象にしたフォローアップ研修会を開催しています。開講14年目となった2024年度の時点でアカデミーの受講生総数は391名。フォローアップ研修会は、修了生が定期的に集まって国際スポーツ界の最新のトピックについて学ぶだけでなく、修了者の期を跨いだネットワークづくりに寄与したり、修了生どうしが再会し、お互いの現在の取り組みを共有することで新たな気づきや学びを得て、互いに刺激を与え合う場になっています。

3 参加状況

アカデミーの受講者数(2024年度終了時点)

開催年度	新規受講者数(人)	開催年度	新規受講者数(人)
2011	20人	2019	36人
2012	21人	2020	33人
2013	20人	2021	20人
2014	27人	2022	28人
2015	27人	2023	24人
2016	42人	2024	23人
2017	25人	合計	59団体・391人
2018	43人		

● パートナーNOC

役職員間の交流・意見交換、選手・コーチ間交流の促進、マーケティングプログラムやオリンピック・ムーブメント活動に関する情報交換等を目的に各国・地域の国内オリンピック委員会（NOC）とそれぞれパートナー協定を締結しています。



JOCパートナーシップ協定締結NOCs 2025年3月末日

1	キューバ／Cuban Olympic Committee	11	ヨルダン／Jordan Olympic Committee
	2000年9月25日 シドニーにて締結		2016年8月5日 リオデジャネイロにて締結 2025年1月28日 再締結
2	中華人民共和国／Chinese Olympic Committee	12	フィリピン／Philippine Olympic Committee
	2003年4月1日 東京にて締結 2025年2月8日 ハルビンにて再締結		2016年8月15日 リオデジャネイロにて締結 2025年1月28日 再締結
3	大韓民国／Korean Sport & Olympic Committee	13	グアテマラ／Comité Olímpico Guatemalteco
	2004年8月25日 アテネにて締結 2024年8月7日 パリにて締結		2016年8月17日 リオデジャネイロにて締結 2024年10月22日 再締結
4	カナダ／Canadian Olympic Committee	14	フィンランド／Finnish Olympic Committee
	2006年8月16日 東京にて締結		2017年3月22日 東京にて締結 2025年3月5日 再締結
5	スウェーデン／Swedish Olympic Committee	15	スロベニア／Olympic Committee of Slovenia Association of Sports Federations
	2007年9月1日 大阪にて締結 2014年10月10日 東京にて再締結 2024年12月2日 再々締結		2018年2月11日 平昌にて締結 2025年2月18日 再締結
6	アイルランド／Olympic Council of Ireland	16	ポーランド／Polish Olympic Committee
	2008年2月13日 ダブリンにて締結		2018年2月15日 平昌にて締結 2025年1月31日 再締結
7	ブルガリア／Bulgarian Olympic Committee	17	カタール／Qatar Olympic Committee
	2010年2月22日 バンクーバーにて締結 2025年3月12日 再締結		2019年10月17日 ドーハにて締結
8	オーストラリア／Australian Olympic Committee Inc.	18	クウェート／Kuwait Olympic Committee
	2010年2月24日 バンクーバーにて締結 2024年8月8日 パリにて締結		2019年10月17日 ドーハにて締結
9	ウクライナ／National Olympic Committee of Ukraine	19	モンテネグロ／Montenegrin Olympic Committee
	2010年8月22日 シンガポールにて締結 2017年10月11日 東京にて再締結 2024年12月2日 再々締結		2019年11月27日 東京にて締結 2024年12月2日 再締結
10	オランダ／Nederlands Olympisch Comité* Nederlandse Sport Federatie	20	ルーマニア／Romanian Olympic and Sports Committee
	2016年2月13日 リレハンメルにて締結 2025年3月19日 再締結		2021年8月5日 東京にて締結
		21	サウジアラビア／Saudi Olympic and Paralympic Committee
			2024年8月6日 パリにて締結

協定に基づく主な交流内容 ●NOC役・職員間交流、意見交換等 ●選手、コーチ間交流の促進 ●マーケティング(スポンサーシップ等)の協力 ●オリンピックムーブメント活動に関する情報交換 等

国際貢献事業

JOCでは、関係団体、NF等の協力を得ながら各種国際貢献事業を行っています。具体的には 紛争等により自国で練習できない海外アスリートの受入事業や、発展途上国・地域へ日本人コーチを派遣し指導を行ったり、器材供与を行う事業などを実施しました。また、東京2020大会後に、パリ2024大会を目指し継続して日本国内でトレーニングをしている発展途上国・地域の選手に対しての支援もIOCオリンピックソリダリティー等を活用し、引き続き実施しました。その結果、パリ2024大会出場を果たした選手も現われました。



R6年度ゲストSFT推進事業 新体操ウクライナ演技披露会 [写真提供] 日本体育協会 R6年度toto助成インドネシア派遣 [写真提供] 全日本柔道連盟

● パリ2024大会 -TEAM JAPAN HOUSE

第33回オリンピック競技大会（2024／パリ）大会期間中、国際交流基金パリ日本文化会館にTEAM JAPAN HOUSEを設置。今大会では、メダリスト記者会見・広報SNS情報発信機能、ホスピタリティラウンジ機能等に加え、東京2020レガシーの発信をコンセプトに、関係スポーツ団体等と連携した展示・体験コーナー等を実施し、国内・国際オリンピック関係者、現地来館者（予約制）へ向けた情報発信拠点として活用しました。

【参考】来館者数：18,123名（メディア関係者475名含む）



パリ2024大会期間中の外観 スポーツ関係団体と連携した情報発信



東京2020大会レガシーの展示 メダリストセレブレーション記念写真

● 愛知・名古屋アジア競技大会に関する連携支援

JOCでは、2026年9月に開催される第20回アジア競技大会に向けた大会組織委員会（AINAGOC）の計画・準備に対し助言や連携を行っています。また、開催地である愛知県・名古屋市とも連携し、県民・市民、国民、国際スポーツ関係者へ向けた大会機運醸成を引き続き推進していきます。

大会概要	第20回アジア競技大会（2026／愛知・名古屋）
大会期間	2026年9月19日（土）～10月4日（日）16日間
実施競技	41競技
参加国数	アジア45の国と地域
選手団（選手・役員）	最大15,000人
開閉会式会場	名古屋市瑞穂公園陸上競技場

大会スローガン

IMAGINE ONE ASIA

ここで、ひとつに。

・大会エンブレム

スポーツのもつ躍動感を曲線で描き、輝く太陽（OCAシンボル）と、紫・金・緑で作り出す中央の直線は、人々が「ひとつ」に集い、未来へ向かう様を表す。愛知県花「カキツバタ」の紫と、「名古屋城／しゃちほこ」の金、環境への想いを表す緑で彩っている、「アジア（Asia）」と「愛知（Aichi）」のAと、「名古屋（Nagoya）」のNもかたどっている。



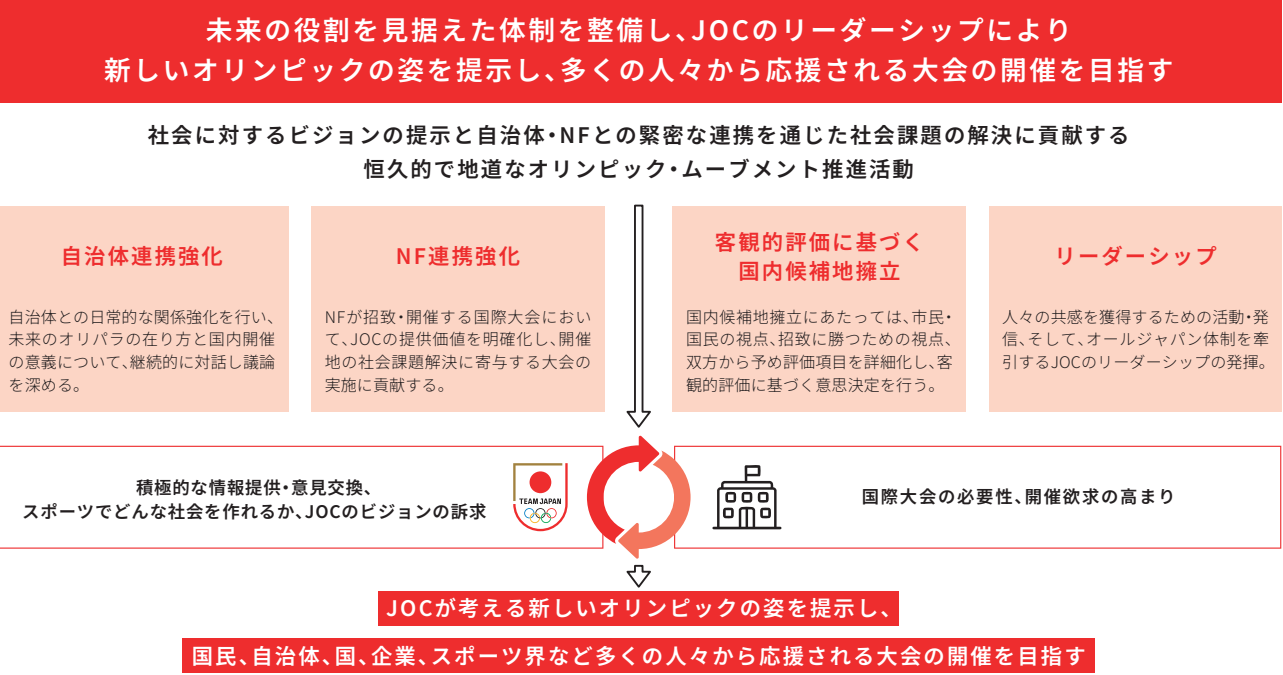
・大会マスコット

アスリートたちの心に宿る熱い想いが「炎」となり愛知・名古屋の守り神であるシャチホコとひとつになって誕生。炎の語源とされる「火の穂（ほのほ）」が由来。



● オリンピック・ムーブメント推進のための国際大会開催に向けた検討会議

東京2020大会をめぐる事案、オリンピック冬季競技大会の招致活動の経緯等をふまえ、JOCでは「オリンピック・ムーブメント推進のための国際大会開催に向けた検討会議」を設置し、今後に向けた大会開催の整理・検討を行いました。パリ2024大会後、2025年5月までに計4回の検討会議を開催。様々な分析や自治体等のヒアリングをふまえて多様な観点から議論を行い、取りまとめた概要は、同年6月にメディアへ公表しました。具体的には、「自治体との日常的な連携強化」、「国内で開かれる国際大会での国内競技団体との連携強化」、「将来の大規模大会招致時の客観的評価に基づく国内候補地の擁立」、「JOCのリーダーシップ」の4点を欠かせない方針として掲げました。今後、時期は特定しないまでも、社会の発展にも寄与する新しい大会の姿を提示し、多くの方々から賛同・応援いただける将来の国際大会開催を目指してまいります。



JOC組織力・基盤強化

自らを律しながら、
よりよい社会との関係を構築していく。

JOCマーケティングプログラム

● マーケティングの役割

中期計画に基づく事業活動を支える財源を安定的に確保するために、JOCはマーケティングプログラムを運営しています。2021年に構築した「TEAM JAPANブランド」をプログラムの核とし、ステークホルダーとより強固な連携・協力体制を築くことで、マーケティングプログラムの価値向上を目指すとともに、TEAM JAPANブランドが目指すゴールである「よりよい社会づくり」にも貢献していきます。

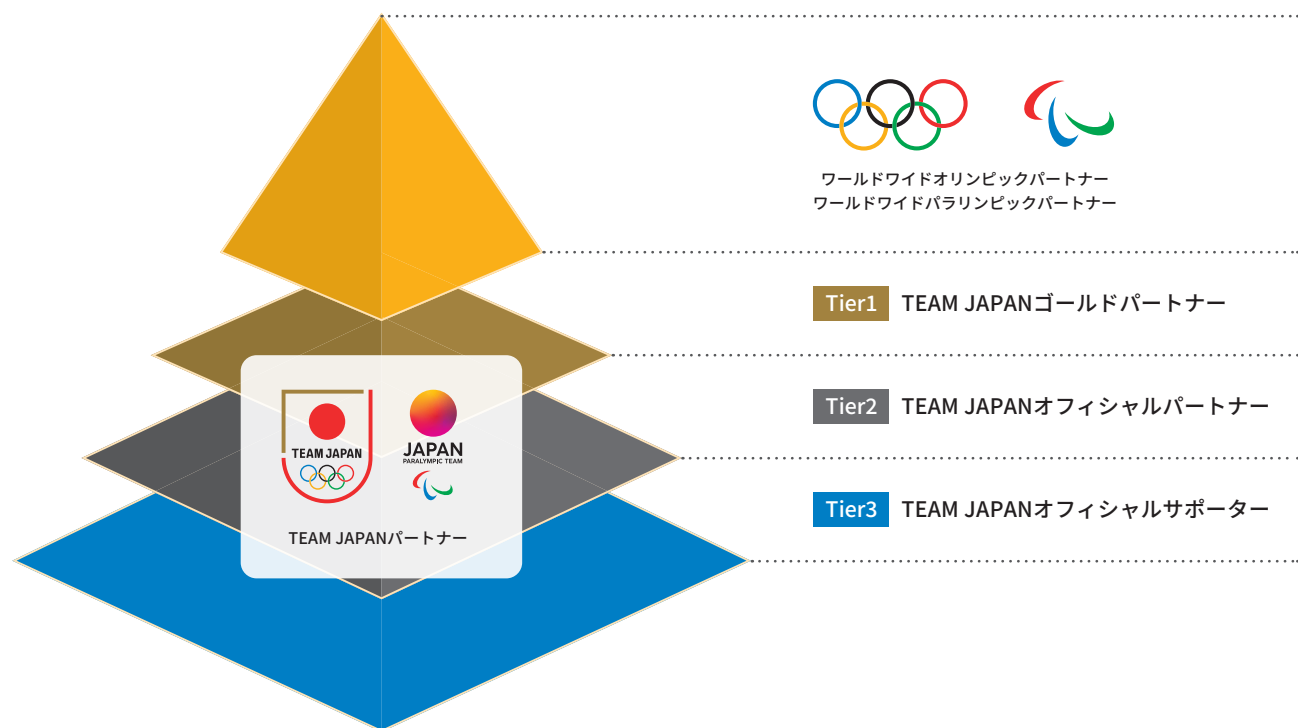
● マーケティングプログラムの概要

TEAM JAPANパートナーシッププログラム

資金、専門的なノウハウ、製品・サービスの提供等を通じて、TEAM JAPAN及びJOCをサポートいただくプログラム。協賛企業に対しては、JOCが保有するエンブレムやスローガン等のマーク使用权、ホスピタリティサービス等を提供することに加え、選手強化、オリンピック・ムーブメント事業等で相互メリットを構築し、パートナーとの共同事業の積極的な推進により、真のパートナーシップを築きます。また、パートナーによるアクティベーション(権利行使)は、オリンピズムはもちろん、TEAM JAPANやアスリート、スポーツの価値を日本中の人々に届ける手助けとなります。

パートナーシッププログラムの構造

オリンピックマーケティングのパートナーシップ構造はIOCが管理するワールドワイドオリンピックパートナーと、NOCのパートナーやOCOGのパートナーの二重構造になっています。TEAM JAPANパートナーシッププログラムでは、Tier 1、Tier 2、Tier 3 の3つの階層でパッケージを用意し、日本国内限定のパートナーを募集しています。(※権利行使ができる領域は日本国内となります。)
2025年からは、オリンピック日本代表及びパラリンピック日本代表の権利と機会をセットで販売し、パートナーが双方の権利を同時にアクティベーションしやすい環境やルールを整えています。



主な権利内容

● 呼称の使用权

TEAM JAPANゴールドパートナー
オリンピック日本代表選手団「TEAM JAPAN」等

● マーク類の使用权

TEAM JAPANブランド
JOC スローガン「がんばれ! ニッポン!」等

● 選手肖像の使用权

TEAM JAPANシンボルアスリート
TEAM JAPANネクストシンボルアスリート

● 契約カテゴリー商品／サービスのサプライ権

● TEAM JAPAN公式ライセンス商品等のプレミアム利用権

● JOC共同事業開発プログラムに関する権利

● NF ジョイントマーケティングに関する権利

● パートナーマーク露出に関する権利

● ホスピタリティに関する権利

● 関連素材の使用权

オリンピック関連の映像及び写真等

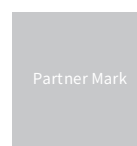
オリンピック日本代表選手団の映像及び写真

※ただし、Tier 1、Tier 2、Tier 3 の3つの階層に応じて、活用可能な権利が異なります

例：主なマーク等



TEAM JAPAN/パートナー呼称



TEAM JAPAN
パートナー呼称

RISING TOGETHER®

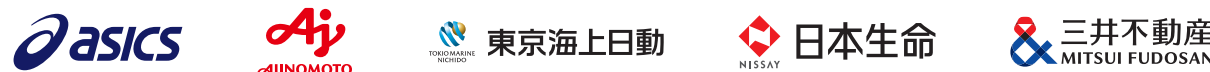
がんばれ!ニッポン!®

● パートナー企業一覧

The Worldwide Olympic Partners



TEAM JAPAN Gold Partners



TEAM JAPAN Official Partner

airweave

TEAM JAPAN Official Supporter

丸大食品

2025年8月末日時点

TEAM JAPANライセンスプログラム

JOCが保有するマークを使用して商品化できる権利をJOCと契約した企業（ライセンス）に提供し、TEAM JAPAN公式ライセンス商品として製造、販売するプログラムです。TEAM JAPAN公式ライセンス商品は、TEAM JAPAN とTEAM JAPANを応援する多くの人の思いをつなぐ接点として展開しています。手軽に手に取り、身に着けていただくことで、これまで以上にトップアスリートを身近に感じていただけるよう、常設店舗、オンラインショップだけでなく、期間限定のショップを全国に展開しています。パリ2024大会期間中は全国11か所でTEAM JAPANオフィシャルショップを展開し、大会開催地のパリでは、TEAM JAPAN HOUSE内でも販売。競技観戦に行く観客が殺到し、現地に持ち込んだ商品はほぼ全て完売する大盛況となりました。



TEAM JAPAN公式ライセンス商品



Special Edition

アスリートの緊張感と信念を直線で、躍動感と人々のつながりを曲線で表現したグラフィックエレメントとTEAM JAPANのスピリットを表現したタグラインを大胆にデザインしています。



定番シリーズ

オリンピックの開催に合わせて、各大会のTEAM JAPANのコンセプトに沿ったデザインのグッズを展開していきます。



TEAM JAPAN応援グッズ

TEAM JAPANエンブレムを象徴的に施した不変的なデザインとし、一般的な商品ラインナップとして展開していきます。

オンラインショップ URL ▶▶▶

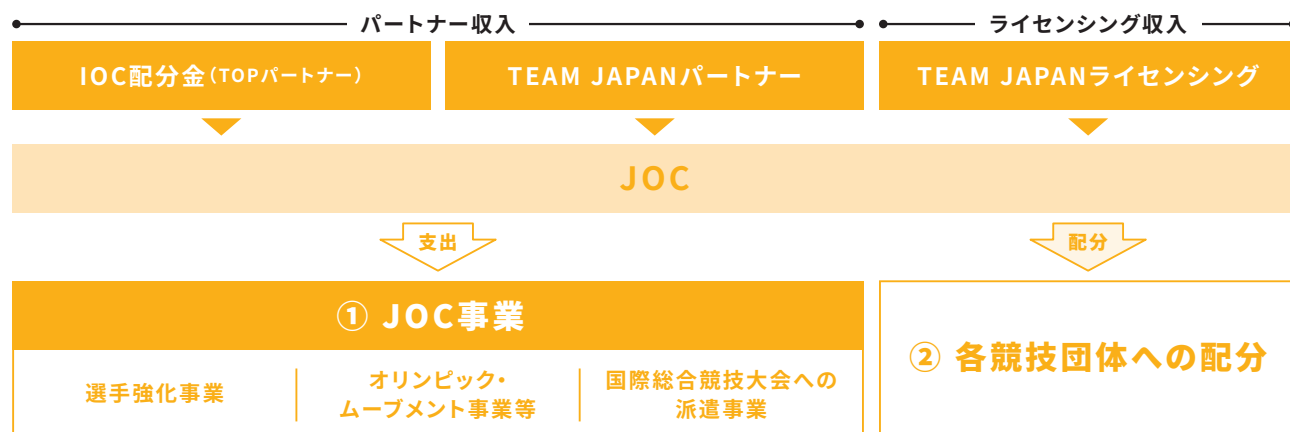
<https://www.teamjapanshop.jp/>



●マーケティングで得た資金の使用用途

パートナーによる協賛や公式ライセンス商品の売り上げより得られるマーケティング収入は、大きく分けて 1) JOC事業としての支出と 2) 各競技団体への配分に使われます。

1	JOC事業	選手強化事業（ナショナルトレーニングセンター使用料、若手アスリートの育成、指導者養成、アスリートのキャリアサポート等）、オリンピック・ムーブメント事業等（日本オリンピックミュージアムの管理運営、オリンピック教室等）、国際総合競技大会へのTEAM JAPAN（日本代表選手団）の派遣に活用しています。
2	各競技団体への配分	JOCに加盟する各競技団体の選手強化や大会派遣等にも活用されています。



●知的財産の保護

オリンピックに関する主な知的財産の一例 オリンピックに関するエンブレム、ロゴ、用語、名称をはじめとする知的財産は、日本国内では「商標法」、「不正競争防止法」、「著作権法」等により保護されています。

オリンピック・JOCに関する主な知的財産の一例 オリンピックに関する主な知的財産には、オリンピックシンボル、大会エンブレム、チームエンブレム、大会名称、大会マスコット、ピクトグラム、大会スローガン、オリンピックに関する用語、画像及び音声等があります。これらはIOCが定めたオリンピック憲章に基づき、日本国内ではIOCとともにJOCが管理し、その使用には権利主体者の事前許諾が必要となります。



●アンブッシュマーケティングの防止



オリンピック等の知的財産の使用に関するガイドライン

IOC及びJOCのマーケティングプログラムは、オリンピックに関する商標やロゴをはじめとする知的財産の使用権を中心として構成されています。パートナー企業には、オリンピックをはじめとするTEAM JAPANの選手強化やオリンピック・ムーブメントの推進に必要な多額の資金やノウハウを提供いただいており、その対価として、これらの知的財産の使用を許諾しています。故意であるか否かを問わず、団体や個人が、権利主体者であるIOCやJOCの許諾無しにオリンピックシンボル等を無断使用することや、オリンピックのイメージを流用することは、アンブッシュマーケティングと呼ばれ、IOC及びJOCの知的財産権を侵害するばかりでなく、マーケティング収入の減収を招き、ひいては選手強化や各種事業等の開催にも重大な支障をきたす可能性があります。JOCではこれらのアンブッシュマーケティングを未然に防ぐために、「オリンピック等の知的財産の使用に関するガイドライン」を発行しています。

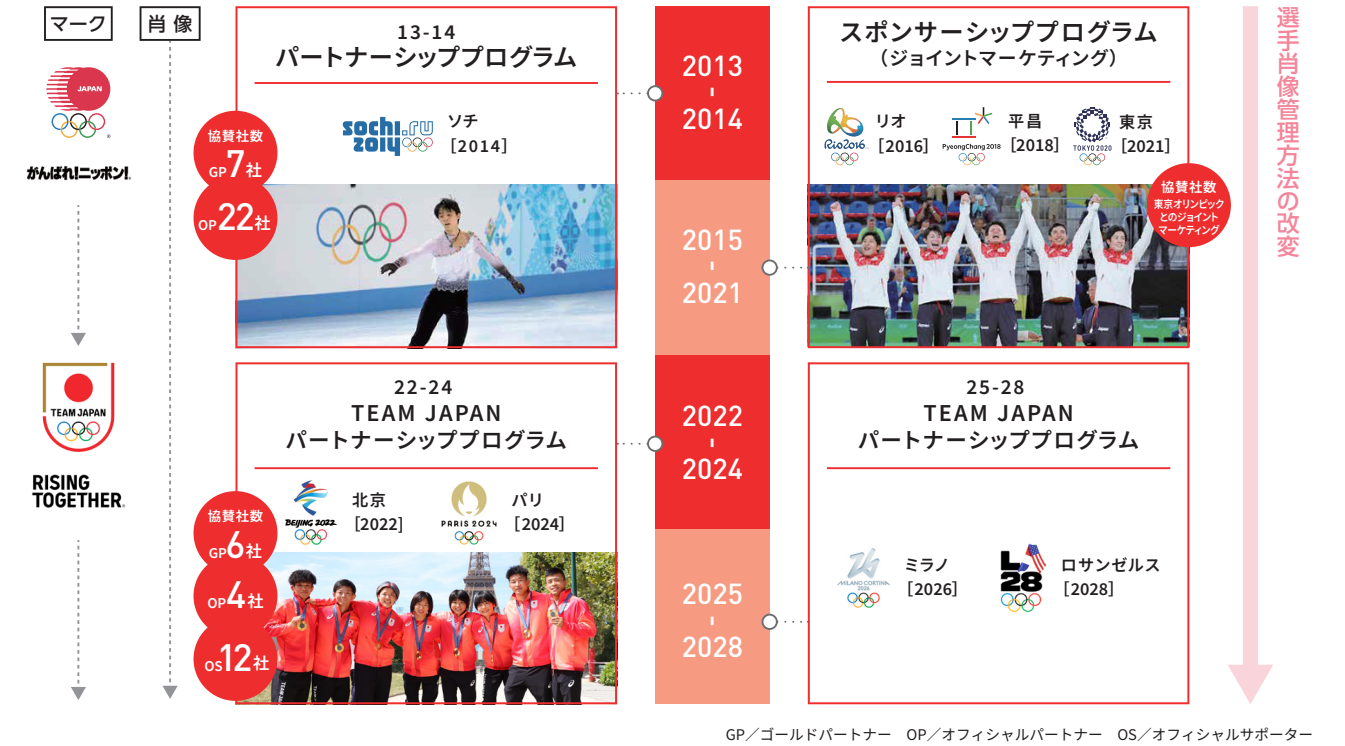
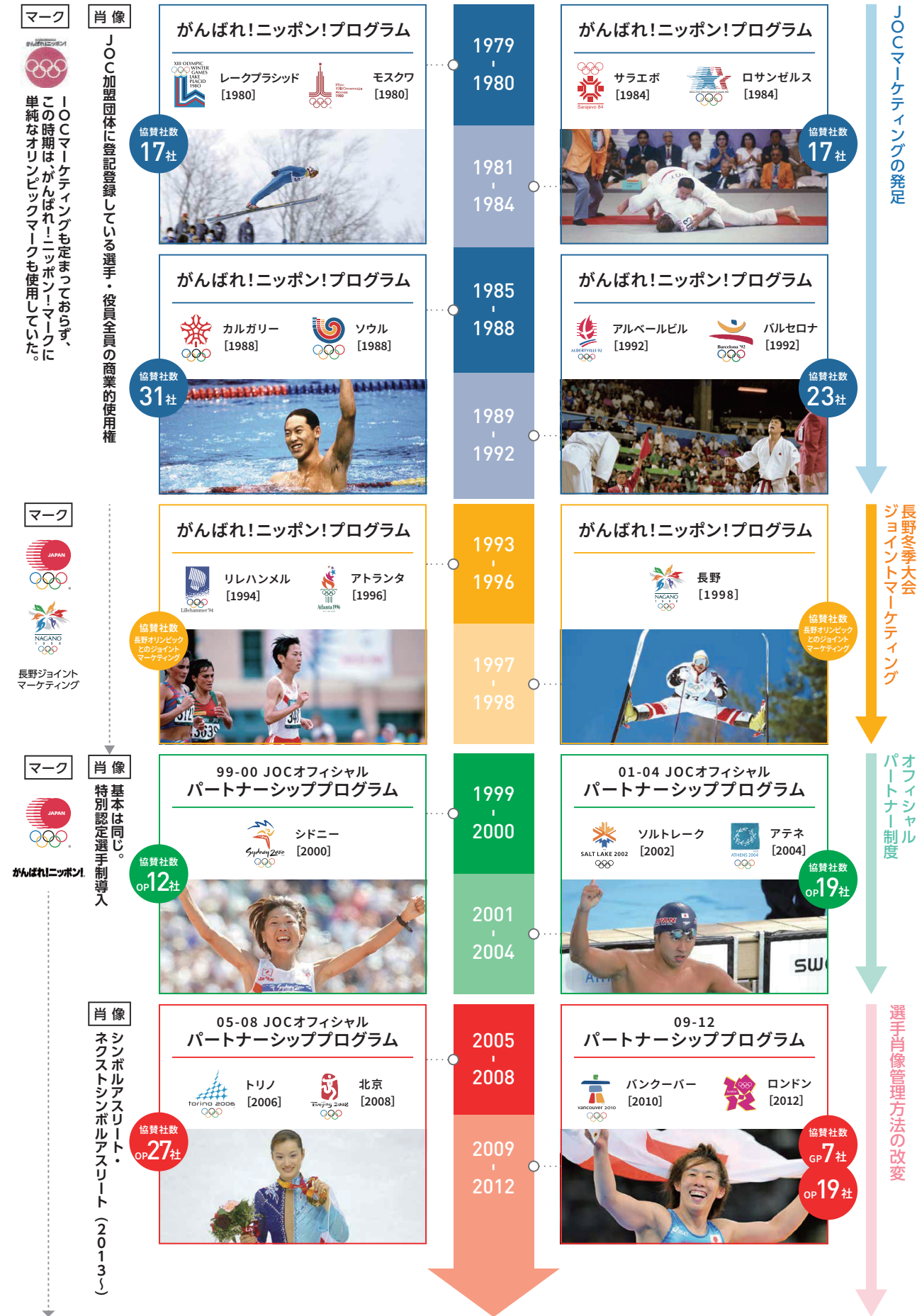
マーケティングガイドライン URL ▶▶▶

https://www.joc.or.jp/about/brand_protection/pdf/guidelines2023_06.pdf



●JOCマーケティングの変遷

JOCは、各競技団体に登録登録する選手・役員の肖像の使用権を提供するマーケティングプログラム「がんばれ！ニッポン！キャンペーン」を1979年にスタートしました。これは、当時のアマチュアリズム規定により禁止されていた、競技の成績によって得られた選手の名声等の商業的な利用を、JOCが「公の利益」のために選手・監督・コーチ等の肖像を預かり、協賛企業に使用権を提供することにより得られた収入を各競技団体に強化費として配分する、世界で初となる新しい形のスポーツマーケティングプログラムで、選手の育成・強化に大きな役割を果たしました。その後、JOCは、1998年の長野冬季オリンピックに向け、大会組織委員会とともに取り組んだジョイントマーケティングプログラムにより培われた知識とJOCのブランド価値等を活用し、4年単位の新たなマーケティングプログラムを開発しました。JOCでは、このプログラムを基本に、4年毎に内容を見直し、より強固なパートナーシップが築けるよう内容の充実に取り組んでいます。2021年に開催された、東京2020オリンピックにおいては、東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会とともに、大会開催に必要な資金や大会運営及び日本代表選手団のサポートに欠かすことができない、専門的なノウハウと商品・サービスを得るため、IOCの管理のもと、開催国のNOCであるJOCと組織委員会が統合したオリンピックマーケティングを展開しました。2025年からは、これまでJOCとJPCがそれぞれ販売していたマーケティングプログラムを、両団体が連携して展開。オリンピック日本代表とパラリンピック日本代表がそれぞれ持つ価値を最大化し、マーケティングパートナーとともに、スポーツの価値をより広く社会に届けることを目指しています。また、JOCのマーケティング活動は、パートナーやライセンスに対して効果的なアクティベーションの機会を提供することにより、JOCとパートナーやライセンスが一体となってオリンピック・ムーブメント活動の充実や国民の皆さまから共感を得られるTEAM JAPANづくりに取り組み、選手強化とオリンピック・ムーブメントの推進を支える重要な役割を担っています。コロナ禍以降、上記に加えて、スポーツを通じた社会課題解決のために連携した事業も推進しています。



● TEAM JAPANシンボルアスリート・ネクストシンボルアスリート

TEAM JAPANシンボルアスリートプログラムは、JOC Vision 2064の活動方針にもある「憧れられるアスリート」の象徴となるようなアスリートを認定するプログラムです。認定されたアスリート達は、「オリンピズムが浸透している社会の実現」に向けて、JOCのオリンピック・ムーブメント推進事業等へ協力するとともに、「スポーツを切り口とした社会課題の解決」に向けた取組みを実施してまいります。

TEAM JAPANシンボルアスリート

TEAM JAPANを代表する存在であり、高い競技力と人間力を持ち、誰もが憧れる象徴として、JOCが「TEAM JAPANシンボルアスリート」を認定しています。JOCのオリンピック・ムーブメント推進事業及びマーケティング活動に積極的に協力し、スポーツの価値を社会に伝える役割を担っています。

TEAM JAPANネクストシンボルアスリート

次世代の日本スポーツ界を代表する存在として、JOCが認定する若手アスリートが、「TEAM JAPANネクストシンボルアスリート」です。JOCのオリンピック・ムーブメント推進事業及びマーケティング活動に積極的に協力することを通じて、次期シンボルアスリートとして、TEAM JAPANをけん引する存在となることを目指します。



第1次JOC中期計画の振り返りと次期中期計画の策定

● 第1次JOC中期計画（2022-2024）の振り返り

JOCでは、「JOC Vision 2064」、ならびに「JOC GOAL & ACTION FOR TOKYO 2020」（東京 2020 大会を通じてJOCが果たすべき3つの役割と目標達成に向けた戦略）のレビューを踏まえ、2022年にJOCとしてはじめての中期計画（「第1次JOC中期計画（2022-2024）」）を策定しました。本中期計画では、Pillar1からPillar5までの5つの柱立てに沿って、合計21のテーマと、34のマイルストーンを定め、2022年度より2024年度まで各種事業や組織基盤強化に取り組みました。

第1次JOC中期計画（2022-2024）各柱立てのテーマ一覧

Pillar1 オリンピックの価値発信	Pillar3 国際交流の推進
1 オリンピズムの認知・理解向上のためのオリンピック・ムーブメント(OM)推進	1 JOCの国際的プレゼンス向上・国際貢献の推進
2 大会招致活動・大会機運醸成を通じたオリンピズムの普及・推進	2 JOCの国際人材育成・強化
3 日本オリンピックミュージアム(JOM)を活用したオリンピズム普及活動	3 NFの国際力強化支援
4 レガシー創出に向けたパラリンピックとの連携推進	
5 オリンピズム普及のためのTEAM JAPANブランドの確立・浸透	Pillar4 JOCの組織力・基盤強化
6 オリンピズム普及のための表彰制度再構築	1 多様な働き方に対応した労務制度・職場環境の整備
7 オリンピズム普及のためのスポーツ価値発信の強化	2 人材活性化の推進
	3 中期計画に基づく組織運営管理
	4 ブランド活用による財務基盤強化
Pillar2 アスリートの育成・支援	Pillar5 NF連携・支援
1 憧れられるアスリートの育成・強化支援	1 NFの自律・自立支援－ガバナンス強化
2 アスリートを取り巻く環境の整備	2 NFの自律・自立支援－財務基盤・組織体制強化
3 指導者育成及び指導体制の整備	3 NFの自律・自立支援－女性マネジメント人材育成強化
4 競技力向上のための先進技術&データ活用の推進	
合計21テーマ(34マイルストーン)	

● 第2次JOC中期計画（2025-2028）の策定

2023年度から2024年度にかけて、2025年度から開始となる第2次JOC中期計画の策定に取り組みました。はじめての中期計画となる第1次JOC中期計画では、JOC Vision 2064と中期計画全体像に基づく施策展開を定着させることを目指しました。

策定にあたり、現在はJOC Vision 2064と中期計画全体像に基づく施策展開が定着しつつある段階であり、JOCが目指す方向性も変わらないことから、第2次JOC中期計画においても柱となるPillarは第1次JOC中期計画を継承しました。また、第2次JOC中期計画では、Pillarごとに施策展開の実務を担う事務局を主体とした横断的なワーキンググループを設置し、JOCの理事会、各専門委員会、各専門部会の意見集約も行いながら、各施策の実効性を高めることと、JOCの目指す方向性との整合を高めていくことに努めました。

各Pillarにおける施策を検討する中で、共通して挙げられたポイントは5つです。

これらを踏まえて「アスリートとの連携、そして、スポーツを通じた社会課題解決への貢献をこれまで以上に大切にしていく」という姿勢を重視すべく、第2次JOC中期計画では取り組みの基本目標を「アスリートとともに スポーツの力を 社会の力へ」と決めました。この基本目標に沿って2025年度から2028年度までのJOC各事業・施策を進めてまいります。

- 1 アスリートとの更なる連携
- 2 国内外のステークホルダーとのより幅広く、より深い連携
- 3 スポーツを通じた社会連携の重要性
- 4 情報発信強化の必要性
- 5 特に大切にしているターゲットとして将来世代を意識すること

第1次JOC中期計画（2022-2024）については
JOC公式サイトでご確認ください▶▶▶

<https://www.joc.or.jp/about/vision2064/>

第1次JOC中期計画
（2022-2024）詳細



第1次JOC中期計画
（2022-2024）総括



NF連携・支援

競技団体の仲間たちとともに活動していく。

スポーツ団体ガバナンスコード適合性審査事業

スポーツ庁が策定したスポーツ団体ガバナンスコード＜中央競技団体向け＞（令和元年6月10日、令和5年9月29日〔改定〕）に基づき、適合性審査運用規則に副い、JOC、JSPO及びJPSPAの統括三団体が加盟競技団体の適正なガバナンスの確保を図ることを使命とし、公正かつ客観的な適合性審査を実施しています。令和5年度は本会加盟20団体(統括三団体加盟33団体中)、令和6年度適合性審査は本会加盟13団体(統括三団体加盟27団体)を審査し、全て適合と評価されました。なお、令和6年度は審査実施から5年目となり、加盟団体の審査は2回目となりました。

令和5年度適合性審査結果 ▶▶▶	https://www.joc.or.jp/about/regulation/pdf/review_report_202401.pdf
令和6年度適合性審査結果 ▶▶▶	https://www.joc.or.jp/about/regulation/pdf/review_report_202501.pdf

● JOC加盟団体会長会議／専務理事等会議

本会と加盟団体とのより密接なコミュニケーションを促進し、本会の方針、各種施策等の情報共有を図るとともに、加盟団体が直面する課題についての理解を深め、本会の施策に反映させるため、NF会長会議、専務理事等会議等を開催しました。

JOC 加盟団体会長会議（原則：年1回開催）

日程	2023年11月21日
内容	①ガバナンスの確保に向けて（ガバナンスコードの見直し点の説明） ②国際総合競技大会について（杭州アジア大会、愛知・名古屋アジア大会、北海道・札幌2030招致関係、パリ2024大会、ミラノ・コルティナ2026冬季大会、ロサンゼルス2028大会） ③フリーディスカッション（NFアンケートより）

日程	2025年3月31日
内容	①第2次JOC中期計画（2025－2028） ②第33回オリンピック競技大会（2024／パリ）報告 ③第2回アジア競技大会（2028／愛知・名古屋）について ④アスリート委員会事例紹介：全日本柔道連盟の取組 ⑤スポーツ・インテグリティへの取組：誹謗中傷等からアスリートを守るための法務等支援事業について

JOC 加盟団体専務理事等会議（原則：年2回開催）

日程	2023年12月22日	日程	2024年7月2日
内容	①ガバナンスの確保に向けて ②国際戦略について ③フリーディスカッション	内容	①パリ大会（編成、JHの設置について） ②eスポーツについて ③愛知・名古屋アジア大会について

日程	2024年12月20日
内容	①パリ2024大会報告 ②愛知・名古屋アジア大会について ③NFジョイントマーケティングについて ④OM事業について ⑤本会理事候補者の推薦について ⑥NTCイースト壁崩落事故について ⑦誹謗中傷等からアスリートを守るための法務等支援事業について

● NF 総合支援センター事業

1 NF総合支援センターに関する監査支援内容（実績）

NFにおける補助金・助成金等の適正利用及び会計業務に係わる管理体制の整備、並びに選手強化NF事業及び民間スポーツ振興費等補助事業の適正化を図るため、管理レベル監査、電話・メール等による問合対応、NFにおける助言指導及び経理・会計処理の実務支援、選手等の合宿・遠征先への実務者派遣、役員及び職員に対する研修会、助成金等申請書類の検証に関わる役務提供を実施しました。

2024年度活動報告	
選手強化NF事業	1,353件
問い合わせ対応	485件
個別訪問支援	11件（Web会議含む）
研修会	2回（管理者向け／実務者向け1回ずつ6／5に実施）

2 本センター法務サポート対応・NF向け全体研修（実績）

本会加盟団体を対象に、①スポーツ団体ガバナンスコードに関する相談規程、②マニュアルの整備（新規作成、既存修正、規程間の調整）、③ガバナンス体制（利益相反管理体制、通報制度、懲罰制度等）の構築・運用サポート、④その他日常業務を含む法務サポート（例：契約書のレビュー、法令の調査検討等）について、サポートを実施しています。

2024年度活動報告	
法務相談NF・件数	27NF、205件
主な相談内容	スポーツ団体ガバナンスコードに基づいた規程の整備、アスリートとNF間の整備、NF内の運営等に関するトラブル、等
研修会	年4回実施（合計約470名参加）

3 本会ガバナンスコードに関する法務サポート

NFガバナンスコードの遵守状況を確認するとともに統括団体として、本会の組織状況について確認しました。なお、各NFからはJOCの自己説明を参考にしたいという要望もあることから、弁護士監修のもと、自己説明の内容を、より具体的に更新しました。主なポイントは、人材・採用並びにマーケティング方針の策定、規程の整備、選手団編成の承認プロセスの確認と情報開示・伝達、アスリートに対する懲戒規程の周知であり、改善に努めています。

ガバナンスコードJOC自己説明 主なポイント

原則	審査項目	内容	所管部	詳細
1	2・3	中期計画	総務部 マーケティング部	人材・採用並びにマーケティング方針の策定
2	9	規程修正	総務部	役員候補者選考方法等に関する規程第3条（6）への追記。再任の1期もしくは2期との追記
3,7	17,29	選手団関連	強化部	選手団編成の承認プロセスの確認と情報開示・伝達
3,4,5,9	19,20,22,33	役職員研修	総務部	役職員へのコンプライアンス研修及び内容の精査
5	23	研修会	強化部	選手及び指導者へのコンプライアンス研修及び内容の精査
7	30	情報公開	総務部	ガバナンスコードの自己説明の記載内容及び確認方法の明確化
9	34	通報制度	総務部	通報制度の運用体制に関する自己説明
10	35	懲戒処分	総務部 強化部	アスリートに対する懲戒規程の周知
11	38	懲戒処分	総務部	処分対象者に対する通知方法の明確化
13	42・43	NF対応	総務部	加盟団体からの率直な意見を反映 専務理事等会議、会長会議の本年度の実施

JOC-NF広報実務者連携セミナー

実務的な広報ノウハウの共有を通じ、NF広報実務担当者のスキルアップを図るとともに、JOC・NF双方が持つインフラを連携させ、スポーツ界全体の発信力強化を目指すことを目的に定期的に実施しています。

●2024年度

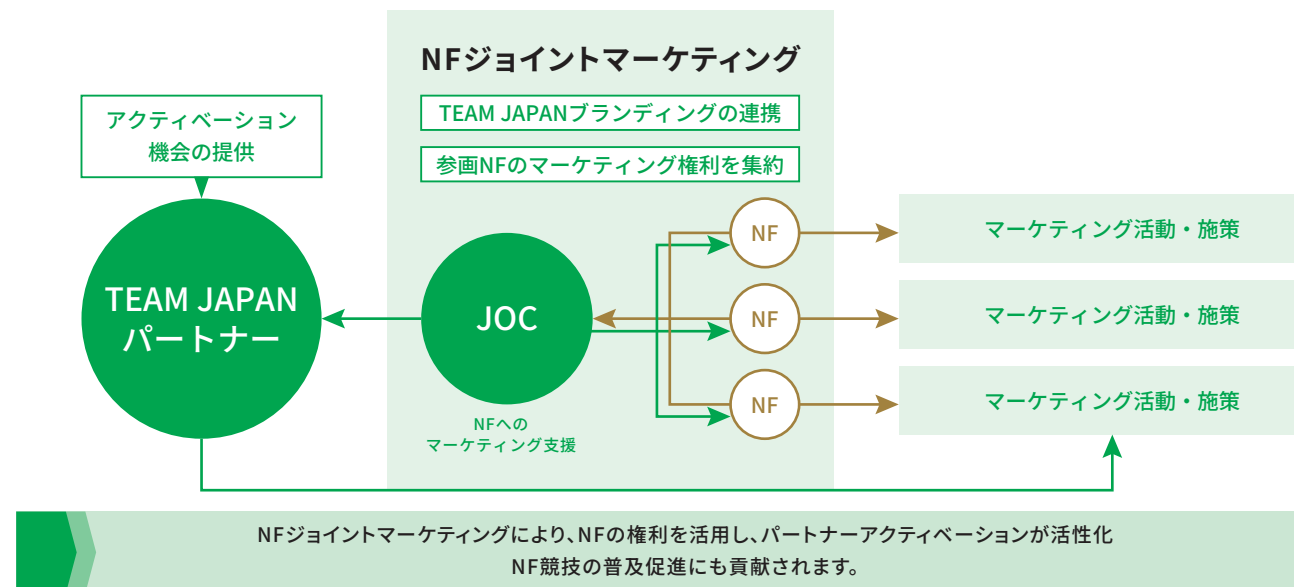
第1回	
日程	2024年6月13日（木）
主な内容	パリ2024 大会における広報連携について
第2回	
日程	2025年1月30日（木）
主な内容	パリ2024大会期間中の広報施策、各NFとの情報交換会



NFジョイントマーケティング

スポーツ界全体の価値を高め、JOCおよびNF相互の成長を図るために、さまざまな日本代表チームを「TEAM JAPAN」としてブランド統一し、新たな知的財産とアクティベーション機会を開発することを目指して2022年から開始した新たなプログラムです。TEAM JAPANブランドと従来からあるJOCの権利や機会、それにNFの有する権利や機会の組み合わせや連携、さらに新たな視点からの共同開発等により、TEAM JAPAN/パートナーのアクティベーションが促進され、NFのマーケティング活動や競技普及に繋がっています。プログラムを通して、お互いのマーケティング領域の拡充を図っていき、将来的にはNFが独自のマーケティング活動を推進し、自己財源を少しでも多く獲得できる一助になることを目指します。

●NFジョイントマーケティングの構造

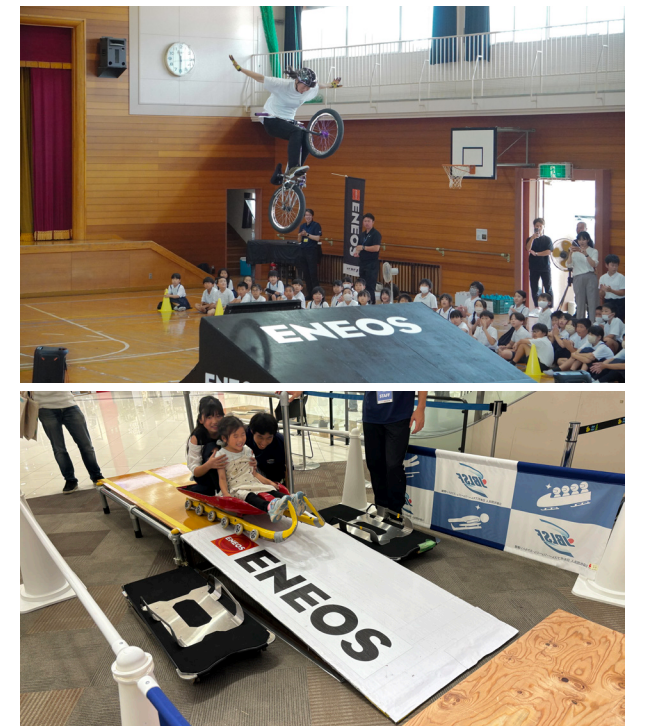


NFジョイントプログラム

オリンピック実施競技団体を対象に、TEAM JAPANブランドを結節点として、これまでTEAM JAPANパートナーシッププログラムおよびNFのマーケティングプログラムの双方の権利がないとアクティベーションが成立しなかった領域を新たに開発し、NFのマーケティングプログラムの権利に影響が生じない範囲でTEAM JAPANパートナーのアクティベーション活用を可能にしたプログラムです。TEAM JAPANパートナーは、このプログラムに参画するNFが主催する大会の観戦チケットの提供を受けることができたり、NF日本代表に関する呼称等の権利を活用することができるようになり、参画したNFも付与した権利の対価としてマーケティング協力金をJOCから受け取ることができます。

NFオプションプログラム

JOC加盟競技団体を対象に、TEAM JAPANパートナーがJOCより付与されたTEAM JAPANポイントを使用してNF独自のマーケティングへの協賛が可能となるプログラムです。TEAM JAPANパートナーは選手強化、競技普及、各種大会協賛、社会課題解決に向けた活動など、様々なNFのプログラムを直接的に支援できます。



eスポーツについて

JOCでは、2021年6月に採択されたオリンピック・アジェンダ2020+5において、「バーチャルスポーツの発展を促し、ビデオゲームコミュニティとの関わりを深める」ことを掲げ、2023年6月にはシンガポールでオリンピックeスポーツウィークを開催しました。国内においては、文部科学省が2022年3月に策定した第3期スポーツ基本計画において、IOCにおける指針等の国内外の動向を踏まえながら、「バーチャル」と「スポーツ」との関わりを検討していく必要性を挙げています。また、2024年1月に日本スポーツ政策推進機構が主催した日本スポーツ会議2024においてもeスポーツの普及を戦略的に展開することが提言されました。ついては、これら国内外の情勢を踏まえつつ、2026年にeスポーツを正式競技として含む愛知・名古屋アジア競技大会が開催されることも見据え、本会としてのeスポーツに対する活動指針等を提案しました。

●JOCにおけるeスポーツに関する活動方針（概要）

2024年5月27日：eスポーツに関する検討プロジェクト

活動方針策定の背景（オリンピックムーブメント及び日本国内における現状）

◆IOC	
2021年	オリンピックアジェンダ2020+5の提言9「バーチャルスポーツの発展を促し、ビデオゲームコミュニティとの関わりを深める」
2021年	オリンピックバーチャルシリーズ開催
2023年	オリンピックeスポーツウィーク開催、eスポーツ委員会設置、「オリンピックeスポーツゲームズ」創設に言及
◆OCA	
2018年	アジア競技大会（ジャカルタ・パレンバン／インドネシア）でデモンストレーション競技として採用
2023年	東アジアユース競技大会（ウランバートル／モンゴル）、アジア競技大会（杭州／中国）で正式競技として採用
2026年	アジア競技大会（愛知・名古屋／日本）で正式競技として採用
◆国内	
2022年	スポーツ基本計画（3月：文部科学省策定）において「先進的なデジタル技術等を活用した、新たなスポーツ実施機会の創出」の記載
2023年	日本スポーツ振興センターがワールドローイングとバーチャルスポーツに関する国際共同研究プロジェクトを目的とした連携協定覚書締結
2024年	日本スポーツ政策推進機構が開催した日本スポーツ会議（1月）においてeスポーツに期待される役割と戦略的な普及の必要性を指摘

JOC・eスポーツに関する検討プロジェクトの設置と会議開催状況

JOCとしてeスポーツへの対応を検討するため、2024年2月に「eスポーツに関する検討プロジェクト」を設置し、活動方針の策定、日本eスポーツ連合のJOCへの加盟、愛知・名古屋で開催されるアジア競技大会でのeスポーツのタイトル選定を検討事項として5回の会合を実施

eスポーツ検討プロジェクトメンバー		
座長	酒井 邦彦	JOC副会長
座長代理	星 香里	JOC常務理事
メンバー	八木 由里	JOC理事・IOC eスポーツ委員会委員
	大塚 真一郎	国際トライアスロン連合副会長
	服部 道子	JOC理事（強化担当）
	松田 丈志	JOC理事（アスリート委員会委員長）
	荒木 絵里香	JOC理事（アスリート委員会副委員長）
	来田 享子	JOC理事（オリンピックムーブメント担当）
	田口 亜希	JOC理事（パラリンピアン）
	伊藤 弘一	JOC事務局長
アドバイザー		
渡辺 守成（IOC委員）・太田 雄貴（IOC委員）・小谷 実可子（OCA役員）		

[第1回] 2月20日	・本会とeスポーツの関わりの経緯について ・ステークホルダーの取り組みについて
[第2回] 3月5日	・日本eスポーツ連合からの情報提供 ・トップアスリートの講話
[第3回] 3月18日	・第1回、第2回の検討会を踏まえた意見交換
[第4回] 4月9日	・eスポーツを巡る国内外の状況について ・IF、NFの取り組みについて
[第5回] 5月27日	・スポーツ立国調査会バーチャルスポーツPTの報告 ・活動方針のとりまとめ

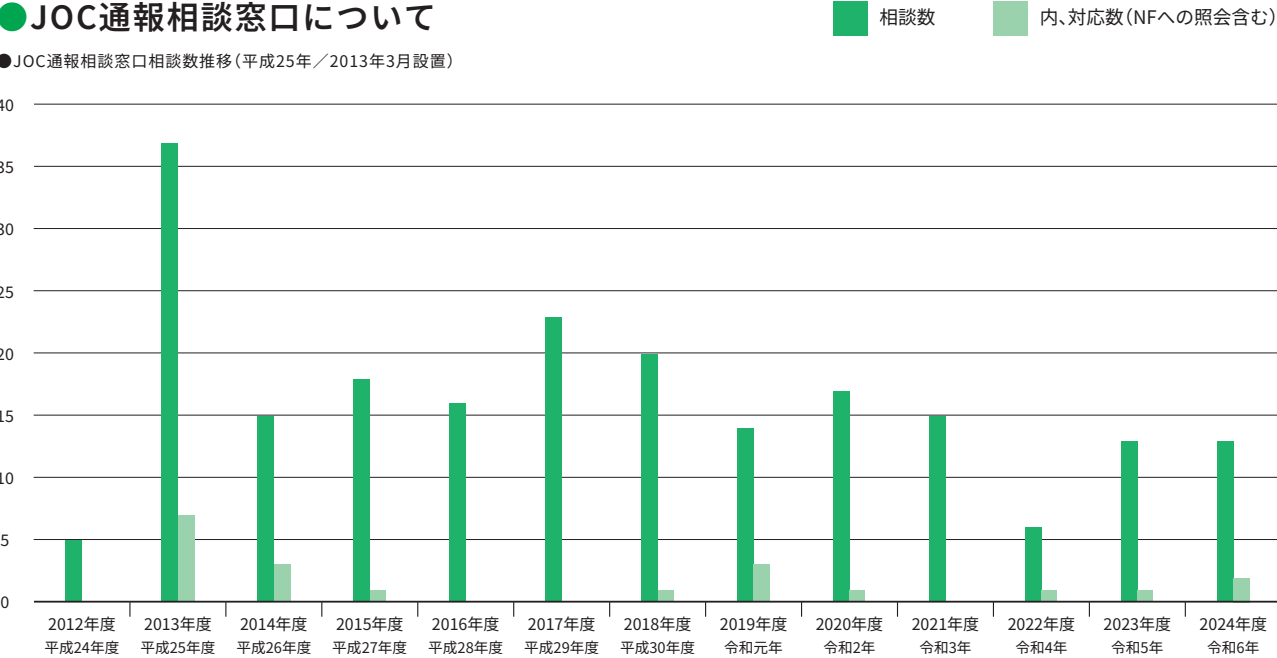
倫理、コンプライアンス、ガバナンスの推進（通報相談窓口）

通報相談窓口利用案内を設け、定款第3条及び第4条に規定する目的、事業の遂行のため、スポーツを行う者の権利利益を保護し、公正な環境の下でスポーツに親しむ機会を確保し、スポーツの場における暴力行為を含むパワーハラスメント、セクシャルハラスメント、その他の組織的または個人的な不当な行為等の早期発見と是正及び再発の防止に努めることを目的とし、設置しています。

通報相談窓口の利用対象者や対応案件についての詳細 ▶▶▶ <https://www.joc.or.jp/for-athletes/reporting/harassment/>

JOC通報相談窓口について

JOC通報相談窓口相談数推移（平成25年／2013年3月設置）



通報相談窓口は以下のとおりです。

伊東・早稲本法律事務所 伊東 卓（いとう たかし）弁護士
〒102-0082 東京都千代田区一番町9-8 ノザワビル4階
※伊東弁護士不在の際は、上記事務所の他の弁護士が対応する場合あり。

連絡先 【電 話】03-6261-2704／FAX：03-6261-2714
電話対応時間：平日10時30分～18時 ※時間外は留守番電話での対応。
【メール】ito.joc-madoguchi@i-wlaw.com

その他・基礎情報

JOC組織

令和7年・8年度 公益財団法人日本オリンピック委員会役員一覧	
役職名	氏名
会長	橋本 聖子
副会長	三屋 裕子
〃	渡辺 守成
専務理事	太田 雄貴
常務理事	北野 貴裕
〃	小谷 実可子
〃	星 香里
〃	林 肇
〃	井上 康生
〃	八木 由里
理事	赤間 高雄
〃	伊東 秀仁
〃	伊藤 弘一
〃	岩渕 健輔
〃	遠藤 利明
〃	大久保 秀昭
〃	栗原 美津枝
〃	杉山 文野
〃	鈴木 大地
〃	須藤 実和
〃	田口 亜希
〃	田嶋 幸三
〃	谷本 歩実
〃	羽根田 卓也
〃	原田 雅彦
〃	水鳥 寿思
〃	三宅 宏実
〃	村井 満
〃	村上 めぐみ
〃	來田 享子
監事	工藤 陽子
〃	寺田 昌弘
〃	塗師 純子

以上、理事 30 名／監事 3 名 計 33 名

JOC 歴代会長（委員長）

1	嘉納 治五郎	（1911年～1921年）
2	岸 清一	（1921年～1933年）
3	大島 又彦	（1936年～1937年）
4	下村 宏	（1937年～1945年）
5	平沼 亮三	（1945年～1946年）
6	東 龍太郎	（1947年～1958年）
7	津島 寿一	（1959年～1962年）
8	竹田 恒徳	（1962年～1969年）
9	青木 半治	（1969年～1973年）
10	田畑 政治	（1973年～1977年）
11	柴田 勝治	（1977年～1989年）
12	堤 義明	（1989年～1990年）
13	古橋 廣之進	（1990年～1999年）
14	八木 祐四郎	（1999年～2001年）
15	竹田 恒和	（2001年～2019年）
16	山下 泰裕	（2019年～2025年）
17	橋本 聖子	（2025年～現在）

※柴田勝治までは委員長

日本歴代IOC委員

1	嘉納 治五郎	（1909年～1938年）
2	岸 清一	（1924年～1933年）
3	杉村 陽太郎	（1933年～1936年）
4	副島 道正	（1934年～1948年）
5	徳川 家達	（1936年～1939年）
6	永井 松三	（1939年～1950年）
7	高石 真五郎	（1939年～1967年）
8	東 龍太郎	（1950年～1968年）
9	竹田 恒徳	（1967年～1982年）
10	清川 正二	（1969年～1989年）
11	猪谷 千春	（1982年～2011年）
12	岡野 俊一郎	（1990年～2011年）
13	竹田 恒和	（2012年～2019年）
14	渡辺 守成	（2018年～現在）
15	山下 泰裕	（2020年～2025年）
16	太田 雄貴	（2021年～現在）

加盟団体

正加盟団体

1	（公財）日本陸上競技連盟	30	（公財）全日本剣道連盟
2	（公財）日本水泳連盟	31	（公社）日本近代五種協会
3	（公財）日本サッカー協会	32	（公財）日本ラグビーフットボール協会
4	（公財）全日本スキー連盟	33	（公社）日本山岳・スポーツクライミング協会
5	（公財）日本テニス協会	34	（公社）日本カヌー連盟
6	（公社）日本ローイング協会	35	（公社）全日本アーチェリー連盟
7	（公社）日本ホッケー協会	36	（公財）全日本空手道連盟
8	（公社）日本ボクシング連盟	37	（公社）全日本銃剣道連盟
9	（公財）日本バレーボール協会	38	（公社）日本クレー射撃協会
10	（公財）日本体操協会	39	（公財）全日本なぎなた連盟
11	（公財）日本バスケットボール協会	40	（公財）JAPAN BOWLING
12	（公財）日本スケート連盟	41	（公社）日本ボブスレー・リュージュ・スケルトン連盟
13	（公財）日本アイスホッケー連盟	42	（一財）全日本野球協会
14	（公財）日本レスリング協会	43	（特非）日本スポーツ芸術協会
15	（公財）日本セーリング連盟	44	（公社）日本武術太極拳連盟
16	（公社）日本ウエイトリフティング協会	45	（公社）日本カーリング協会
17	（公財）日本ハンドボール協会	46	（公社）日本トライアスロン連合
18	（公財）日本自転車競技連盟	47	（公財）日本ゴルフ協会
19	（公財）日本ソフトテニス連盟	48	（公社）日本スカッシュ協会
20	（公財）日本卓球協会	49	（公社）日本ビリヤード協会
21	（公財）全日本軟式野球連盟	50	（公社）日本ボディビル・フィットネス連盟
22	（公財）日本相撲連盟	51	（一社）全日本テコンドー協会
23	（公社）日本馬術連盟	52	（公社）日本ダンススポーツ連盟
24	（公社）日本フェンシング協会	53	（公社）日本バイアスロン連盟
25	（公財）全日本柔道連盟	54	（公社）日本サーフィン連盟
26	（公財）日本ソフトボール協会	55	（一社）ワールドスケートジャパン ※1
27	（公財）日本バドミントン協会	56	（公社）日本アメリカンフットボール協会 ※1
28	（公財）全日本弓道連盟	57	（一社）日本クリケット協会 ※2
29	（公社）日本ライフル射撃協会	58	（公社）日本ラクロス協会

準加盟団体

59	△（一社）日本カバディ協会
60	△（一社）日本セパタクロー協会
61	△（一社）日本チアリーディング協会
62	△（一社）日本eスポーツ連合 ※3

※1 期間：2024年3月21日～2029年3月31日迄

※2 期間：2024年11月26日～2029年3月31日迄

※3 期間：2024年6月11日～2027年3月31日迄

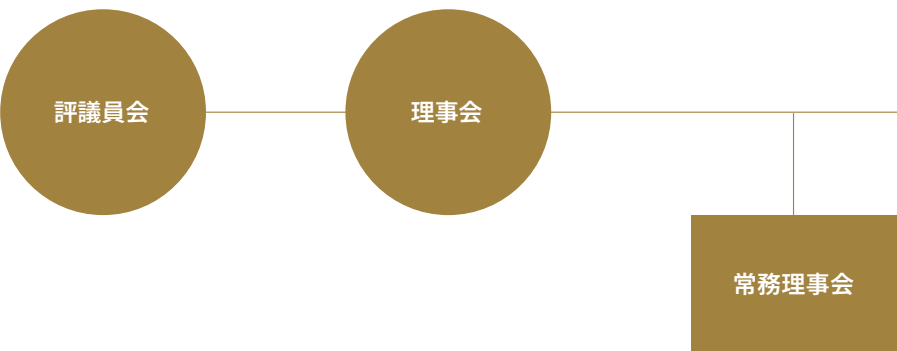
※ △は準加盟団体、▲は承認団体。

承認団体

63	▲（公社）日本オリエンテーリング協会
64	▲（公社）日本パワーリフティング協会
65	▲（公社）日本ベタンク・プール連盟
66	▲（一社）日本フライングディスク協会
67	▲（公社）日本コントラクトブリッジ連盟
68	▲（一財）日本航空協会
69	▲（特非）日本水上スキー・ウエイクボード連盟

令和7・8年度 日本オリンピック委員会 組織機構図

2025年9月11日現在



代表理事		
会 長	橋本 聖子	
業務執行理事（副会長、専務理事、常務理事）及び分担		
副会長	三屋 裕子	会長の業務の補佐 プロトコールに関する事項 （組織体制・組織運営に関する事項）
副会長	渡辺 守成	会長の業務の補佐 プロトコールに関する事項 I O Cとの連携に関する事項
副会長	北野 貴裕	会長の業務の補佐 財務・資産管理に関する事項 マーケティングに関する事項 日本オリンピックミュージアムの管理に関する事項
専務理事	太田 雄貴	組織体制・組織運営、危機管理に関する事項 加盟団体との連携・支援に関する事項 I O Cとの連携に関する事項 中期計画に関する事項 広報に関する事項 財源確保に向けた事業の開発に関する事項 事務局に関する事項
常務理事	小谷 実可子	オリンピックの価値発信、 オリンピック・ムーブメント推進に関する事項 日本オリンピックミュージアムの事業に関する事項
常務理事	星 香里	専務理事の業務の補佐 加盟団体との連携、ガバナンス支援に関する事項 行政関係との連携、調整に関する事項 （危機管理に関する事項）
常務理事	林 肇	国際連携・交流の推進、国際人材の育成に関する事項 国際総合競技大会の招致・開催に関する事項
常務理事	井上 康生	選手強化、ナショナルトレーニングセンターに関する事項 国際総合競技大会選手団（TEAM JAPAN）に関する事項
常務理事	八木 由里	法務、コンプライアンスに関する事項 （危機管理に関する事項）

定款第33条～第36条	
選手強化本部	
本部長	井上 康生
副本部長	水鳥 寿思 伊東 秀仁 岩渕 健輔 三宅 宏実 村上 めぐみ 赤間 高雄

定款第37条～第40条	
オリンピック・ムーブメント事業本部	
本部長	小谷 実可子
副本部長	栗原 美津枝 来田 享子 井上 康生

定款第45条～第48条	
専門委員会	

選手強化事業専門部会	※
情報・医・科学専門部会	※
ナショナルトレーニングセンター専門部会	※
アンチ・ドーピング専門部会	※

オリンピック・ムーブメント事業専門部会	◎
アントラージュ専門部会	☆
サステナビリティ専門部会	◎

定款第41条～第44条
日本ユニバーシアード委員会

倫理委員会	☆
加盟団体審査委員会	☆※
アスリート委員会	◎
国際委員会	▼
利益相反マネジメント委員会	☆
財務委員会	△

事務局				
☆ 総務部	△ 財務・会計部	◎ オリンピック・ムーブメント推進部	▼ 国際部	※ 強化部

競技者・指導者の育成・支援、NF連携等				
部会長	伊東 秀仁	副部会長	水鳥 寿思、岩渕 健輔、三宅宏実、村上 めぐみ、赤間 高雄	

情報収集・分析、医・科学支援、競技間連携等				
部会長	水鳥 寿思			

NTC活用、アカデミー事業、競技別強化拠点等				
部会長	岩渕 健輔			

アンチ・ドーピング教育、ドーピング検査関係等				
部会長	赤間 高雄			

OM推進事業、ミュージアム等				
部会長	小谷 実可子	副部会長	水鳥 寿思	

アントラージュ、女性スポーツ、表彰等				
部会長	谷本 歩実	副部会長	杉山 文野、来田 享子	

スポーツにおける環境保全活動、社会課題解決に向けた活動等				
部会長	栗原 美津枝	副部会長	来田 享子、大津 克哉	

国際大学スポーツ連盟関連、ワールドユニバーシティーズゲームズ関係等				
委員長	鈴木 大地			

役職員の倫理に関する事項・通報相談に関する事項等				
委員長	八木 由里	副委員長	多賀 啓	

加盟審査、加盟団体ガバナンス・コンプライアンス確認等				
委員長	星 香里	副委員長	岩渕 健輔	

アスリートの権利保護、アスリートからの意見徴収等				
委員長	羽根田 卓也	副委員長	村上 めぐみ、入江 陵介	

国際連携・協力、国際人養成、JICA連携等				
委員長	林 肇	副委員長	田嶋 幸三、岩渕 健輔	

利益相反の適切なマネジメント等				
委員長	八木 由里	副委員長	須藤 実和、高松 政裕	

予算、決算、会有財産、税務等				
委員長	北野 貴裕	副委員長	須藤 実和、栗原 美津枝	

●経営企画、広報、マーケティングは、業務執行理事が担当し、必要に応じてタスクフォースを設置し対応

令和6年度決算概要

(単位：円)

●経常増減の部

経常収益		
基本財産運用益	：	7,144,530
特定資産運用益	：	105,505
受取会費等	：	7,590,000
事業収益	：	7,131,394,355
受取補助金等	：	7,495,178,076
受取負担金	：	1,248,511,753
受取寄付金	：	139,869,207
雑収益他	：	10,288,284
経常収益計		16,040,081,710

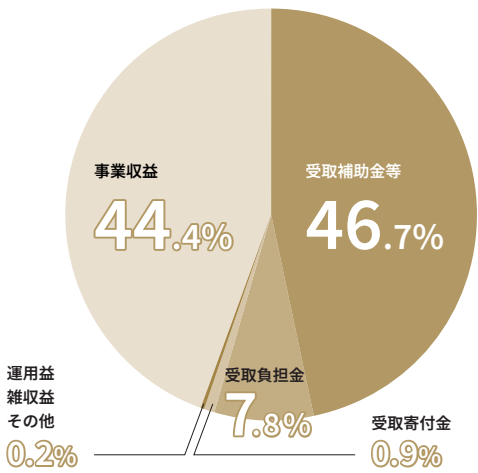
経常費用		
選手強化	：	8,811,334,644
オリンピック・ムーブメント、表彰等	：	1,591,124,427
国際総合競技大会選手団派遣	：	2,349,480,838
マーケティング	：	2,828,653,796
その他事業	：	91,384,378
管理費他	：	88,177,173
経常費用計		15,760,155,256

評価損益等調整前当期経常増減額	：	279,926,454
評価損益等	：	△ 45,524,495
当期経常外増減額	：	0
法人税、住民税及び事業税	：	70,000
当期一般正味財産増減額	：	234,331,959
一般正味財産期首残高	：	10,098,433,437
一般正味財産期末残高	：	10,332,765,396

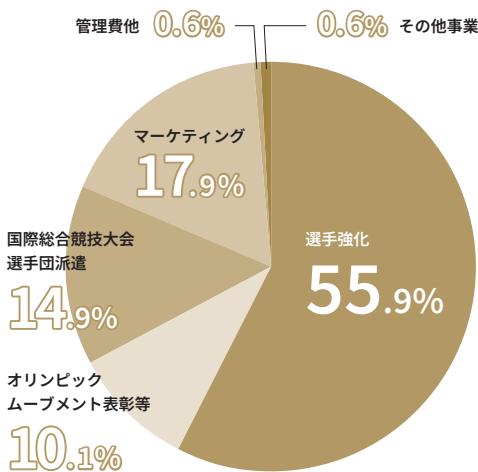
●指定正味財産増減の部

指定正味財産期末残高	：	205,000,000
正味財産期末残高	：	10,537,765,396

経常収益割合



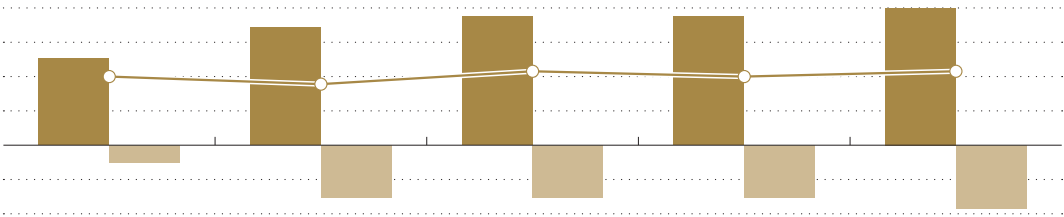
経常費用割合



公益事業比率： 80.91%

●直近5ヶ年度における資産、負債及び正味財産の推移

■ 資 産
■ 負 債
○ 正味財産



	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
資産合計	12,821,822,395	17,089,526,911	18,690,974,812	18,368,600,683	19,994,427,440
負債合計	2,901,720,509	8,054,738,527	7,999,373,993	8,065,167,246	9,456,662,044
正味財産合計	9,920,101,886	9,034,788,384	10,691,600,819	10,303,433,437	10,537,765,396